平成25年度公益財団法人よこはまユース事業報告

I 平成25年度 事業概要

平成25年度は、当法人が公益財団法人として再出発してから3年度目、並びに横浜の青少年を取り巻く現状と課題を解決していくために策定した中期的な経営方針に基づく事業展開の初年度にあたる年でした。

当法人の経営方針に挙げた2つの重点方針並びに8つの基本方針に事業を位置づけ、本格導入した 事業評価システムによる執行管理により効果的・効率的に事業を執行しました。

1 重点方針と主な事業

(1) 地域と取組む青少年育成

地域の大人への青少年問題等の啓発講座や研修により、青少年理解や育成力を向上しました。また、 放課後の居場所づくりを推進しました。

【主な事業】

- ◆知っておきたい!子ども·若者どこでも講座(事業課事業係)
- ◆青少年の居場所づくり講座他、育成センターの講座・研修
- ◆青少年支援事業「学習マイプラン(学習支援)」他、交流センター事業

(2) 健全育成の方法や資源を活用した青少年の潜在的リスク解消・軽減及び自立支援

「貧困の連鎖防止」を図るための日常生活訓練や学習支援、地域活動や資源を活用した困難を抱える青少年のための体験事業を実施しました。併せて、青少年の課題を早期発見し支援につなげられる人材の育成や、青年の孤立化や悩みの軽減・解消を図るため社会に出て間もない勤労青年の仲間づくりの機会の提供にも取り組みました。

【主な事業】

- ◆寄り添い型支援事業「かもん未来塾」(事業課事業係)
- ◆困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施(事業課事業係)
- ◆研修センターの施設点検を活用した就労体験 他(研修センター)
- ◆ユースコーディネーター養成研修(育成センター)
- ◆体験交流事業「はたらく若者の仲間づくり事業」(交流センター)

2 基本方針と主な事業

(1) 青少年を見守る地域づくりと人材育成

青少年と顔の見える関係を持てる地域人材の育成を図りました。また、地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域の育成環境を整えるため地域活動を支援しました。

【主な事業】

- ◆青少年の居場所の活動支援(事業課事業係)
- ◆地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング)(事業課事業係)
- ◆スキルアップ講座(育成センター)
- ◆青少年を支える層を拡大するための講座・研修(育成センター)

(2) 体験機会の提供

青少年に自然やボランティア活動など様々な体験活動の機会を提供することで、青少年の成長を図ることを地域や関係団体、施設等との連携を通じて推進しました。

【主な事業】

- ◆自然・社会体験プログラムの体験機会の提供(事業課事業係)
- ◆活動成果交流事業、地域交流事業、体験交流事業 他(交流センター)
- ◆市民活動団体との協働体験プログラム、カヌー体験キャンプ 他 (研修センター)

(3) 青少年の居場所の支援(青少年育成センター、青少年交流センター等)

横浜市青少年育成センターでは、地域で青少年育成に励む人材の育成を行い、青少年が見守られ育まれる地域づくりを推進しました。また、横浜市青少年交流センターでは、青少年の居場所づくりの中心的施設として、青少年にとって身近な居場所施設である青少年の地域活動拠点や地区センターなどを支援しました。

【横浜市青少年育成センター重点事業】

地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域づくりを目標に、地域で青少年育成に励む 地域人材の育成・支援を図る拠点(センター)として、「研修・講座事業」や「青少年育成活動に 関する情報の収集・提供」などを実施しました。

①利用促進事業

会議室や研修室、スタジオなどの利用促進を図りました。

- ※稼働率:69.4% 昨年度比3.0 ポイント増
- ▶ 「きずな★夏祭り」の企画・実施(横浜市市民局との共催)
- ➤ 新規利用者の開拓 (子育て支援グループへのDM送付、幼稚園等への着ぐるみ貸し出しDM送付)
- ▶ 馬車道通信の発行

②研修·講座事業

幅広い対象に体系的な研修・講座を実施し青少年に関わる人材を育成しました。

- ▶ 青少年人材養成研修
- ▶ ユースコーディネーター養成研修
- ▶ スキルアップ講座(広報・記録のためのデジカメ講座、コーチング講座 他)
- ▶ 青少年を支える層を拡大するための講座・研修(シンポジウム、馬車道カレッジ)

③青少年育成活動に関する情報の収集・提供

ホームページや相談事業などを通じて、地域の青少年育成活動を支援しました。また、研修終了後の参加者の活動現場を訪問し、地域の青少年育成活動の動向把握や相談・情報提供などのアウトリーチ活動※を展開しました。(※外部へ出向いての営業活動)

▶ 情報やノウハウの蓄積と発信

地域の青少年育成活動や居場所などに関する情報の収集・蓄積・発信/出張相談による 相談対応と情報提供/情報提供・相談機能の周知・広報活動(ホームページ等)

【横浜市青少年交流センター重点事業】

青少年の居場所として青少年と大人が様々な形で関係性を持ち、社会につながっていくことができる事業を実施するとともに、青少年の居場所づくりの中心的施設として居場所づくりに取り組む他の施設・団体を支援するなど、交流センターが持つ居場所・交流機能の新しい展開を目指した活動を行いました。

①利用促進と利便性の向上

広報活動を強化するとともに、利用者のニーズに柔軟に対応できるサービスの提供を行い、 利用促進に努めました。

※稼働率:65.0% 昨年度比6.7ポイント増

- ▶マスメディアを積極的に活用した広報活動の実施
- ▶ Eメールによるスタジオ等の空室情報の配信
- ▶ 利用者アンケートによるニーズの把握と反映
- ▶ 3階スペースの有効活用

②青少年の居場所の推進

交流センター運営で培った居場所づくりのノウハウを検証し、他の居場所づくりに取り組む施設・団体へ情報とノウハウを提供しました。

また、「居場所づくり」の充実をめざし、横浜市内の「居場所づくり」に取り組む施設・団体に、情報・課題の共有およびネットワークの充実を図りました。

- ▶ 青少年の居場所・地域活動拠点連絡会
- ▶ 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム 2014

③青少年の潜在的リスクの削減

青少年の潜在的な課題や悩みを引き出し、学習や体験活動および交流を通じてリスク軽減 に向けた早期支援を行いました。

- ▶ 学習マイプラン
- ▶ はたらく若者の仲間づくり事業

(4)研修センター訓練プログラム開発、柔軟な施設利用予約や利用者サービス向上

横浜市野島青少年研修センターでは青少年が集団宿泊体験や自然体験など様々な体験を通じて成長できるよう、体験プログラムの開発・市民活動団体や地域等と連携・協働による体験事業を実施しました。また、施設利用予約やサービスの向上など利用者のニーズに柔軟に対応した運営を行うことで、施設利用者の拡大を図りました。

併せて、防災安全対策を強化し、施設の安心・安全を発信しました。

【横浜市野島青少年研修センター重点目標】

①利用促進と利便性の向上

利用者や団体の特性に配慮しなら、柔軟な施設貸出やサービスの向上、広報戦略による施設の利用促進に取り組みました。

※稼働率:71.5% 昨年度比2.3ポイント増

- ▶ 平日や閑散期利用の増進に向けた大学や企業利用の誘致活動
- ▶ キッズクラブや学童保育など放課後事業に向けた利用促進
- ▶ 小学校体験学習などの利用促進に向けた防災対策の強化と発信

②地域資源を活用した体験活動の充実

青少年育成に関わる多様なニーズへ対応するため、青年ボランティアのみならず、地域の 人々の協力を得ながら事業を展開しました。

- ▶ 市民活動団体との協働体験プログラム
- ▶ 新規体験プログラムの開発
- ▶ 施設ボランティア養成
- ▶ カヌー体験キャンプ

(5) 放課後キッズクラブ事業等 放課後事業への取組み

すべての子どもたちを視野に入れ、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の 居場所づくりを推進しました。

【主な事業】

- ◆放課後キッズクラブ運営(事業課キッズ運営係)
- ◆放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実(事業課キッズ運営係)
- ◆放課後各事業に地域の方が参画しやすい運営の確立(事業課キッズ運営係)
- ◆放課後児童クラブ中間支援運営補助業務(事業課キッズ運営係)

(6) 組織・経営基盤強化(人材育成、寄附金の拡充、企業との連携等)

人材育成や寄附金の募集、企業との連携を進めることで、組織や経営基盤の強化を図りました。

【主な事業】

- ◆第53回 爆笑!濱っ子寄席(チャリティー寄席) 収益事業 (総務課)
- ◆寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の再構成(総務課)
- ◆平成26年 新春のつどい (総務課)
- ◆法人職員の人材育成 (総務課)

(7)情報発信、広報・宣伝力を強化

「よこはまユースレター」「YOKOHAMA EYE'S」やホームページ等を通じて事業報告・成果を速やかに周知・広報することで、多くの市民や青少年に当法人の存在をアピールし、青少年育成活動への関心と参加を喚起しました。

【主な事業】

- ◆よこはまユースレターの発行(総務課) 発行:季刊(4回)7,000部(秋号は8,000部)
- ◆「YOKOHAMA EYE'S」の発行(事業課事業係) 発行:3月1,500部

3 事業の柱と公益目的事業区分

当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分毎の事業報告は44ページ以降に掲載しました。

公益財団法人よこはまユース 事業評価システム

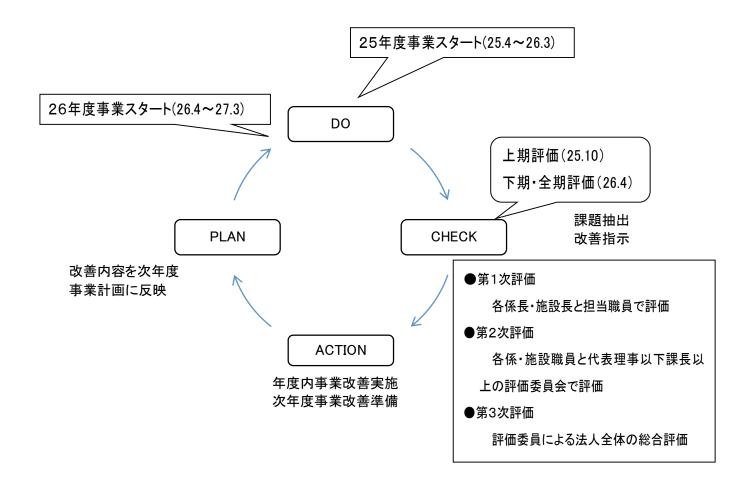
当法人では、全事業を体系的に把握し、PDCAサイクルに沿って実施結果を年度間2回に分けて評価し、事業執行管理と課題を洗出し改善に取組んでいます。

【年度上期分事業】

- 1. 10~11月にかけて事業評価を実施
- 2. 評価過程で指摘された課題は、次回事業実施時(年度後半又は次年度)の改善指示
- 3. 次年度実施時の事業計画に改善内容を反映

【年度下期・全期事業】

- 1. 翌年4~5月にかけて事業評価を実施
- 2. 評価過程で指摘された課題は、6月以降に実施の事業計画に改善内容を反映



事業体系表

施設·課	事業の柱	公益目的事業区分	事業名
יום אם מו	1.76.712	<u> </u>	1 知っておきたい! 子ども・若者どこでも講座
		え	2 青少年の居場所の活動支援
		相談、助言	3 地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング)
	A 青少年活動を		4 ユースサポーター事業
	支援する事業		1 活動資源調査
	71X 7 0 1 7K	お	2 体験プログラム企画・検討委員会の設置
		調査、資料収集	※ SSTプログラム研究・開発・調査(う-3)
事業課	В	L)	※ 体験プログラム企画・検討委員会の設置
3 214211	青少年を支える人	講座、セミナー、	1 子ども・若者エンパワメントセミナー
	材を育成する事業	育成	1 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営
		,	1 四難を招える青少年のための奇り添い至文族争来にかもん不未至」の連呂 2 自然・社会体験プログラムの体験機会の提供
	青少年に体験機 会や活動の場を	う 体験活動等	
	提供する事業	冲 ₩/11	3 困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施
	D		4 放課後キッズクラブ運営(18か所)
	その他法人目的達成	のための事業	1 法人ホームページの改良・管理
総務課	D		1 寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の再構成
心仍亦	その他法人目的達成	のための事業	2 平成26年 新春のつどい
	^	あ	1 諸室及び物品の貸出
	A 青少年活動を	施設の貸与	2 利用促進に向けた取り組み
	支援する事業	え	1 青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供
青少年育成		相談、助言	2 青少年育成に関する団体とのネットワーク形成
センター	B 青少年を支える 人材を育成する 事業		1 青少年人材養成研修
		講座、セミナー、育成	2 ユースコーディネーター養成研修
			3 スキルアップ講座
			4 青少年を支える層を拡大するための講座・研修
	٨	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出
	A 青少年活動を 支援する事業	え相談、助言	1 ロビーワークによる日常的な相談、助言
			2 青少年活動相談コーナー
			3 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営
	B 青少年を支える 人材を育成する 事業	い 講座、セミナー、 育成	1 夏期青年ボランティア
青少年交流			2 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム
センター			3 社会教育実習生受け入れ
			4 青少年委員会の運営
	0		1 青少年委員企画事業
	C 青少年に体験機	う	2 活動成果交流事業
	再少年に 体験機 会や活動の場を	う 体験活動等	3 地域交流事業
	提供する事業	ני נפש בוויי ער וו	4 体験交流事業
			5 学習マイプラン(学習支援)
	Δ	あ	1 施設·設備貸出事業
	A 青少年活動を	施設の貸与	2 営業活動強化事業
	支援する事業	お 調査、資料収集	※ 新規体験プログラムの開発(う-2)
		脚丛、只们似木	1 市民活動団体との協働体験プログラム
配白			2 新規体験プログラムの開発
野島 青少年研修			3 施設ボランティアの養成
センター	C		4 研修センターの施設点検を活用した就労体験
	青少年に体験機	う	5 ハートフルスペース(適応指導教室)連携事業
	会や活動の場を 提供する事業	体験活動等	6 野島クリスマスキャンプ
	16年10年末		7 カヌー体験キャンプ
			8 野島クラフトワークショップ
			9 食育プログラム(野島カリー)
L			

法人総合評価:b 447/600 75%

事業(の柱			課·施設	別評価				継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止
公益目的区域) 的事業	事業課	総務課	育成C	交流C	研修C	総合	次年度 方針 (※)	事業区分別総合評価コメント
A	A あ設 貸与			22/30 (73%) b	21/30 (70%) b	22/30 (73%) b	65/90 (72%) b	2	稼働率向上対策】 ・3 施設とお前印存度比稼働率を向上させた。それぞれの施設で職員が真剣に取組んだ。 また、研修センターは指定管理者第三者評価を受け、防災訓練や地域連携事業等の取 組みを評価していただいた。
た 青少年活 動を支援 する事業	え 相談 助言	26/30 (87%) a		19/30 (63%) c	21/30 (70%) b		66/90 (73%) b	2	地域活動支援のための相談・助言】 事業課:「知っておたい・「子ども・若者どこでも講座」等講師派遣事業が地域活動リー ダー等に周知されてきた。講師派遣先の満足度が高い。 ・ボランティア活動の相談は、法人内での情報共有の仕組みを検討してほしい。
	お 調査、 資料収集	12/30 (40%) d					12/30 (40%) d	2	調査・資料収集】 ・いずれの事業も見直し等内容変更、改善が必要である。
B 青少年を 支える人 材を育業	い 講座 セミナー 育成	18/30 (60%) c		25/30 (83%) b	21/30 (70%) b		64/90 (71%) b	2	【青少年育成に関わる大人への人材育成】 研修、講座が体系的に整理されており、また、市の青少年相談の専門機関や教育委員会 等の協力が得られるなど、全般的に充実している。 【青少年への支援等】 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2014は、全国への情報発信の機会として次年度 も取組んでほしい。
で 青少年に体 験機会や活 動の場を提 供する事業	う 体験 活動	26/30 (87%) a			23/30 (77%) b	23/30 (77%) b	72/90 (80%) b	2	寄り添い型支援事業は区や学校と円滑に連携がなされ、信頼と成果を得ている。 「港方など横浜ならではのブログラムを開発・提供できた。 放譲後キッズクブは地域の方の協力も得て18か所を適正に運営している ・交流センター: 3階床が活用できるようになり、陶芸窯を設置した。 学習マイブランの実施時間は中学生の部活動に配慮してほしい。 研修センター: 1732 - 開係物品を購入し、人食事業開発につながった。 ・市民団体との協働事業では多くのボランティアの参画がある。
D その 法人目的 ための	達成の	22/30 (73%) b	20/30 (67%) c				42/60 (70%) b	2	寄附金・賛助会員] ・恒例事業としてファンがいる「爆笑! 濱っ子寄席」は、実行委員会や中法人会の尽力を得 で成功増に終わった。。 ・貴助会員制度や寄附金は、H25年度分から「寄附金受領証発行システム」を稼働させ た。 ・貴助会員と寄附金の増強は、法人全体の重要な取組であり、各課、施設も機会を捉え取 組んでほしい。 「ボームページ」 ・少しずつ改良されているが、アクセスの改善が課題である。
各課·旅 経営業績		26/30 (87%) a	26/30 (87%) a	24/30 (80%) b	24/30 (80%) b	26/30 (87%) a	126/150 (84%) b		名譲・施設は、それぞれの事業、業務に真摯に取組み、事業に新しい視点を取り込んでいる。 他部門との連携事業や法人全体に関わる事業・取組は、より一層努力してほしい。 ・他譲所管業務に関心を持ち、仕切り枠を一歩ずつ踏み出そう! 『法人の経営強化はお互いの踏み出す1歩から』
各課·旅 総合記 上段:評 下段:得	評価 価点計	130/180 (72%) b	46/60 (77%) b	90/120 (75%) b	110/150 (73%) b	71/90 (79%) b	447/6 (75% b		事業課:事業に新止い視点を取り込み「横浜・港」というユースらしさがある事業を工夫している。 放課後キッズクラブの運営については、子ども・子育て関連3法のH27年度施行をにらみ、放課後児童クラブの調査に取組んだ。 ・総務課:寄附金制度の再構成、ユースレター発行による情報発信等法人の経営基盤強化にあたった。 ・高か年育成を当ませた。 ・青少年育成センター:整理された体系に基づき青少年育成者人材養成研修を実施した。 ・青少年交流センター:3階方を活用できるようになり、事業組み立てに幅が生まれた。学習マイブランが近隣の学校・相談機関に認知されている。 ・青少年研修センター:施設立地を活かし、自然体験プログラムを開発・提供している。

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点(30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク(評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷実施部署数×30点(満点) (%で表示)

事業評価結果(課・施設)

事業の柱			次年度方針(※)			②·以普松杭 ③·転换 ④·移自 ③·孙止 ④·虎止 第0为郭体人美 贴表 北三中家集			
公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	1次		区分全体	第2次評価会議 助言・指示内容等 (次年度へ向けた改善ポイント)			
総務部事									
		知っておきたい!子ども・若者どこでも講座	a ①	a ①		・地域の要望、ニーズをしっかりとアリングし講師マッチングや講座開催に的確な助言を行っている。 ・予算的な予定数量を越えるようになり、法人の講師派進事業への誘導やすみわけなどを検討すること。			
		青少年の居場所の活動支援 神奈川区青少年の地域活動拠点の支援	a 3	a 3		・年度途中で青少年の地域活動拠点から青少年の居場所へと位置づけが変わり、制度転換に円滑に対応した。 ・利用する青少年には特段の影響はなく、引続き活動・運営支援をするが、地域の自主・自立性につながる支援に配慮すること。			
	え	青少年の居場所の活動支援 磯子区岡村地区の居場所づくりの支援	a (1)	a (1)	26/30	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			
А	相談 助言	青少年の居場所の活動支援 鶴見区生麦地区の居場所づくりの支援	b (2)	c 6	(87%) a	・地域での活動人材が継続的に確保できず、主な活動場所である地区センターの理解・支援も後退傾向にある。 ・運営終了へ向け、区や地域、施設等と丁寧な調整を図ること。			
青少年活 動を支援		地域活動支援事業 (相談、助言、活動プランニング)	a (1)	a (1)		・企業の社会貢献活動のコーディネート、講師派遣事業、十日市場中学校地域交流事業等順調な進捗で成果を出せている。 「YOKOHAMA EYE' S2013 jを発行、「課題のある子ども・若者に寄り添う」テーマの振り返り、情報発信ができた。定期刊行維持を。			
する事業		ユースサポーター事業	a (1)	b (2)		・ユースサポーター事業を組み立てるための調査段階であった。事業の前提として研修内容の確定と研修体系を明確に する必要があり、次年度には明確にした体系に沿って認定研修を実施する段階に進んでほしい。			
		活動資源の調査 横浜ユースマップ(法人ホームページ)の情報更新	c 2	c 2		・ユースマップのアクセス数はわずかであり、活動資源に関する市民ニーズの有無と併せて見直しが必要である。			
	お 調査、	体験プログラム企画・検討委員会の設置 体験プログラム検討委員会	b (6)	c 6	12/30 (40%)	・プログラム開発よりプログラムの立案から実施までのプロセス遂行の支援ニーズが大きいと判明し、プロセス支援へ方向転換した。			
	資料収集	SSTプログラム研究・開発・調査	_	_	d	・かんかく生活体験キャンプへ事業転換した。 理由:本格的にSSTプログラム開発、事業化するために専門スタッフ養成・確保が因難な状況があるため。			
B 青少年を	は	青少年の支援に関わる人材の育成等	_	_	18/30	理由2:寄り添い型支援施設利用者に施設だけでは実施できない体験訓練の場を提供するため。 え相談助言:地域活動支援事業で評価を実施			
支える人 材を育成	講座 セミナー 育成	地域活動支援事業 子ども・若者エンパワメントセミナー	a	b	(60%) C	・課題がある子ども・若者に接する大人への研修として、一定の成果を出した。 ・しかし、集客面では、PR、会場選定等課題が残った。次年度は方法、内容を見直すこと。			
する事業	月风	困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業	① a	2 a		・しかし、果各国では、下代、芸術選走寺球題が残った。水平度は方法、内谷を見直すこと。 ・区、学校と円滑に連携・学習・生活面等成果が出ている。評価されるに従い徐々に重い課題の利用者が増える傾向にある。 計画の倍の利用者増で慢性的なスタッフ不足状況。早急に協議のまか、より円滑かつ効果的な運営・指導方法を導入すること。			
		「かもん未来塾」の運営 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供	① a	1) a		前回の旧の利用名権と反ぼ立びなイングノアによいが、一部に励機があるが、よが11項が2列が未から建る「19年7月かと等パッシーと。 「みなと」に着目した社会体験プログラムを開発できた。悪天候で一部しか実施できなかったが、次年度以降大いに期待する。 ・・少年団体との連携はもとより、港湾関係機関、企業との協働関係を組んだ意義は大きい。			
		団体や自然・社会資源を活用した体験プログラムの提供 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 高社・社会な源さればコンニーで	① a	a a	-	・サー川中との建物はなられ、た月間が使用、正果との動間関係を組みためもあった。 ・すっかり定着した感がある事業。水道同側の事業拡大課題は財源が確保できず解決されていない。 ・青年を対象に宿泊による自己啓発・ボランティア活動事業として有料企画を検討してもよいのではないか?			
	-	高校生水源林ボランティア 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供	① C	a a		・現地の環境を最大限に活用したプログラム提供、高校生ポランティアリーダーの配置等好企画であった。 ・参加者募集方法は見直すこと。			
		道志村と連携に自然体験プログラム「はまっ子どうしキャンプ 2013」 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供	① a ①	1) a (1)		・労川名券来ガスは先世りこと。 ・道志小5年生の社会見学、宿泊体験事業で、横浜港やその周辺の魅力を印象付けるプログラムを提供できた。 ・「学校行事」でもある事業で、活動中の児童への指示等の役割分担は、今回を検証し改善すること。			
		道志村と連携に自然体験プログラム「道志村児童受入れ事業」 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市立高校と連携した体験活動の実施	a (1)	a (1)		・ 連携高校を1校増加できた。自然観察系やロボットのプログラミング体験等、企画運営の高校生、参加双方に事業効果が期待できる。 ・ 高校側で担当教師が交代しても、高校として事業が引き継がれていく仕組みが必要である。			
С		田並 高校と 建物 した 体験 活動の 実施 困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 わくわく生活体験 キャンプ	a (1)	b 2		・事前に他の寄り添い型支援施設に上アルグル、ニーズ把握やカインといくは出かれるが変という。 ・実施時期については、高校受験に影響しない時期を設定すること。また、協働事業につき、研修センターと十分連携を図ること。			
青少年に体 験機会や活	う 体験	放課後キッズクラブの運営(18 か所)	_	_	26/30 (87%)	大畑町川にかくに、同民文歌にからもから、可用に改定すること。 18か所(16区)の放譲後キッズクラブを運営中、125年度は8か所すべてが再選定された。 ・運営スタッフの人材確保が譲襲となっている。			
動の場を提 供する事業	活動	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業スタッフカアップ研修「子どもと向き合う子どもに寄り添う」	a ①	a ①	а	・放課後事業の現場スタッフ必須の研修テーマであり、参加スタッフが自らを振り返り、確認できる研修となった。 ・現場スタッフの日々の業務姿勢に反映されるよう期待したい。			
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業スタッフカアップ研修「共感を生み出す伝える力を要(体験)-ゲンミップ」	a ①	a ①		・放課後事業の現場スタッフ必須の研修テーマであり、子どもだけでなく保護者との対応場面でも発揮が期待できるスキルである。 ・募集は、参加者にとって負担感を持たせない工夫(ワークショップ等の表現を用いない等)が必要。			
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業スタッフカアップ研修「チームでワーク」	a ①	b ②		・ローテーション職場に必須の研修テーマだが、「チーム」意識の形成が困難でもある。 ・円滑な現場運営のため、繰り返し研修テーマとしていく必要がある。			
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 指導員研修会「配慮が必要な子への対応」	a (2)	a (2)		・放課後事業の現場の声から汲み上げた課題に対応した研修プログラムである。 ・講師である現職教員が体験した対応例など、現場スタッフの視野拡大につながった。			
		放課後各事業に地域の方が参画しやすい運営の確立 「高校生インターンシップ」受入とボランティア研修	a (1)	b (1)		・高校生のインターンシップやボランティアの受入れば、社会貢献であり、また開かれた放課後事業現場の実現にも有効である。 ・今後も計画的に受入れてほしい。			
		放課後各事業に地域の方が参画しやすい運営の確立 地域連携モデル事業	c 2	c 2		・当初計画を見直し、各キッズクラブの現状把握と主任指導員の意見共有にとどまった。 ・次年度は、内容等再検討が必要である。			
		放課後児童クラブ中間支援運営補助業務	b (6)	b 6		・本業務を通じ学童クラブの現状と課題を把握できた意義は大きい。しかし、H26年度業務については、市が期待する内容 に沿った提案に至らなかった。			
D その他法人目的達	ポのための重業	法人ホームページの改良・管理	a (4)	b (4)	22/30 (73%)	・少しずつ改善されているが、アクセスしやすいように改善が必要である。			
総務部総			₩	9	b				
心/方司/杭	沙竹市林	寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の再構成 表外を含む素料会算售事業 第53回 握学 凌っ子素度	a (1)	a (1)		・共催団体の中法人会の尽力により、新規の協費企業を獲得できた。出演者、演目に対し、高い満足度を得た。 ・今後も継続事業として、実行委員会とともに取り組み、当法人への支援者を増加させてほしい。			
D その	曲	青少年育成寄附金募集事業 第53回 爆笑!濱つ子寄席 寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の再構成 よこはまユースレターの発行	a (1)	a (1)	20/30	、実研学、禁止へ昌ム組工教権レレビニガク地所子は田广実财を召窃証及行いフェル大教権できた。実明を頼付けば前年回頼			
法人目的がある。	達成のた		b 2	b 2	(67%) c	・			
₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩		平成26年 新春のつどい	a (1)	a (1)		・アトラウション効果が大きく、中緒的まで大勢の方に楽しんでいただけた。職員のサポートもあって参加者同士の交流が図られた。 ・今後も、恒例事業として賛助会員、事業協力者に親しまれる企画を期待する。			
			U	U		EXT / NOTE - NAME / NAME / NOTE - NAME / NA			

平成25年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 事業評価結果(課・施設)

事業の柱			次年度方針(※)			②・以音栓机 ②・粒決 ④・移目 ②・休止 ◎・焼止		
尹未り	ノ作土	個別事業名(含む全体)		1次 2次 区分		第2次評価会議 助言·指示内容等		
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	- 					(次年度へ向けた改善ポイント)		
公益目的事		Di. L			王仲			
横浜市青	少年育	成センター						
	あ	諸室及び物品の貸出	а	а	22/30	・利用率、利用料金収入とも増加傾向にある。		
	施設	昭主及び初加が負出	2	2	(73%)	・引続き丁寧な対応を継続してほしい。		
	貸与	利用促進に向けた取り組み	а	а	(75/ll) b	・市と共催の初回事業である。親子連れが多く来場し、今後の利用者増に期待する。		
Α	貝丁	利用促進事業「きずな★夏祭り~町内会祭りの裏がわをウォッチング!~」	2	2	Ü	川に共催の初曲事業である。就丁連化が多く不物し、予改の利用名相に期待する。		
青少年活		青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供	а	b		・こまめに情報更新がされている。研修、講座等参加申し込みがHPから可能になるとよい。		
動を支援	=	ホームページ等を使った情報提供	2	2	10/00	・ホームページの構造上、なかなか目的の情報にたどり着けないページもある。		
する事業	え	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供	а	b	19/30	1420 3		
	相談	青少年育成に関する相談	2	2	(63%)	・施設トップページからたどり着きにくい。有効期限付き情報もあり、トップページからワンクリックで届くように工夫してほしい。		
	助言	青少年育成に関する団体とのネットワーク形成	С	С	С			
		青少年育成活動情報交換会	未実施	3		・次年度は、青少年育成に関する団体とのネットワーク形成について、検討・企画すること。		
		青少年人材養成研修	а	а		・同テーマ3年目で連続5回シリーズの講座であるが、部分参加も可として参加しやすくする工夫があった。まだ地域や各施		
		実践から学ぶ青少年の居場所づくり	2			設等でのニーズはある(リピーター参加者あり)と思われるが、参加者数減を受け止め見直しが適当である。		
		ユースコーディネーター養成研修	а	а	-	・市の専門機関の協力を得て実施した初めての研修であったが、切実なニーズがうかがえる。事後の「参加者の現場」訪問		
		「見守り・居場所づくりから一歩先へ」	(1)	(1)		でもニーズの高さが実感できた。参加者へのフォローアップも含め引き続き取り組んでほしい。		
		スキルアップ講座	а	a		・写真撮影スキル向上の目的を絞り、活動初心者を支援する講座である。わかりやすい説明と実技で参加者満足度が高い。		
		広報・記録のためのデジカメ入門講座	2	2		・有料参加者枠にまだ余裕があり、「広報」スキルを駆使して参加増を図ってほしい。		
		スキルアップ講座	а	а		・放課後事業現場スタッフのニーズが高い事業。今後は、放課後事業課への移管を検討する。		
B 事小 <i>仁士</i>	い	発達障がいの理解	1	4	05/00	・講師の了解を得て講義録概要をホームページに掲載しているが、残念ながらアクセスしづらい。		
青少年を	講座	スキルアップ講座	а	а	25/30	** /= 1.1 A		
支える人	セミナー	日赤救急法講習会〈共催事業〉	1	2	(83%)	・ボーイスカウトとの共催であるが、広報面も含め育成センターの役割をもっと果たせるよう留意してほしい。		
材を育成	育成	スキルアップ講座	а	а	b	・昨年度参加者の声を反映し、本年度は基礎・スキルアップの2回に分け、充実した内容を提供でき満足度が高かった。		
する事業		子ども・若者の力を引き出すコーチング講座	2	2		・企業からの参加が多く、参加費の価格帯や広報についてはさらに検討・工夫してほしい。		
		スキルアップ講座	а	а		・グループ支援研修ニーズに気付けたことをまず評価したい。丸1日間の研修で内容を充実させたことと、通常なら2回に分		
		子ども・若者の成長を支援する~集団活用術~	1	2		けるところを1回にしたことで、遠方からの参加者確保につながり、今後の研修企画に貴重なヒントを得た。		
		青少年を支える層を拡大するための講座・研修	а	а		・注目度が高まっているテーマで申込者が多かった半面、当日キャンセルも多かった。歩留りなど受付方法の工夫が必要である。		
		シンポシウム「子どもをめぐる格差と学習支援」	1	2		・市内外から多様な支援者層が参加し、情報交換・交流の場となったほか、当法人や育成センターのPR効果もあった。		
		青少年を支える層を拡大するための講座・研修	С	С		144.00m+404-1441 1 4-ph-1151+1+1-1		
		馬車道カレッジ	2	2		・対象者への周知方法の決定に難航した。次年度に仕切り直しをすること。		
		• • •						

事業評価結果(課・施設)

						②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止			
事業の				次年度方針(※) 1次 2次 区分		第2次評価会議 助言・指示内容等 (次年度へ向けた改善ポイント)			
公益目的事				乙次	全体	(次千及・同のた政告が1217)			
使 洪巾育		流センター			04 /00				
A	あ 施設 貸与	諸室及び物品の貸出	a ①	a ②	21/30 (70%) b	・稼働率向上を目指し、施設空き情報やEメール申込など実施。各部屋の利用を柔軟にし、利用件数を伸ばす工夫をしている。 ・施設備品を更新し良い状態で貸し出す努力をしているが、室内小破・汚損についても発見次第こまめに修繕すること。			
た 青少年活 動を支援	え	ロビーワークによる日常的な相談・助言	а ①	b ②	21/30	・ロビーワークを通じて把握したニーズはスタッフ間で共有すること。 実務日誌を有効に活用すること。 ・ロビーワークを通じて把握した課題は、必要に応じ学校や外部関係機関と共有・連携すること。			
する事業	相談助言	青少年活動相談コーナー	a ①	a ②	(70%) h	3施設・法人内他課間で情報の共有・活用を検討してほしい。また、その際は、夏期ボランティアも含め外部へのボランティア活動の情報収集及びマッチングも充実させてほしい。			
	20 1	「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営	a ②	b ②	, and the second	・青少年の活動拠点以外にも参加を呼びかけ、広く情報交換が図られた。 ・次年度は、情報共有の次の段階として、課題をより掘り下げた検討の場にしてほしい。			
В		夏期青年ボランティア	а ①	b 2		・3施設・法人内他課間で情報の共有・活用を検討してほしい。また、その際は、夏期ボランティアも含め外部へのボランティア活動の情報収集及びマッチングも充実させてほしい。			
青少年を支える人	い 講座	「青少年の居場所づくり」 全国フォーラム 2014	b ①	b ②	21/30	・実行委員の大半が入替わり、企画決定時期が遅くなり、広報に影響が出た。当日初日は大雪の割に参加者数を確保できた。 ・準備期間、テーマ設定等苦労があるが、全国発信の重要な機会でもあり次年度10周年へ向け取組んでほしい。			
材を育成する事業	セミナー 育成	社会教育実習生受け入れ	а ①	b ②	b	・実習生と事前に調整し、実習カリキュラムを作成して施設スタッフ全員がサポートできる体制を作ること。			
, u + x		青少年委員会の運営	b ②	b ②		・青少年委員会の運営、事業活動の改革に取組み、整理が図られつつある。一方で、経験が少ない委員が増え、委員会 運営が影響を受けており、改善に向けた指導が必要である。			
		青少年委員企画事業 ワイワイおやつタイム	b ②	b ②		・青少年委員会の自立度が高い事業である。参加者にパーターが多いのは、定着していて良い面である一方、新規参加者が広がってないともいえる。委員と話し合って受付方法等見直してはどうか?			
		青少年委員企画事業 ふりふら夏まつり	a ②	b ②		・委員会自主事業として展開できた。集客数も上々で達成感を得た一方、事前準備に課題が残った。改善に向けた指導が必要である。 ・きもだめしと併せて今後の実施について検討する。			
		青少年委員企画事業 きもだめし大会	а ⑥	b ②		・事業自体は成功した。しかし一部委員たちの活躍になったことのふりかえりと整理が必要。 ・ふりふら夏まつりと併せ今後の実施について検討する。			
		青少年委員企画事業 クリスマス☆パーティー	а ①	a ②		・新たな企画で、実施過程で委員会としての一体感の形成が図られた。 ・当日の運営に、職員の適切な指導が必要だった。			
		青少年委員企画事業 もちつき大会	а ①	a ①		 事業を整理し単独プログラムにして上々の実施結果であった。参加者の56%が当日の呼び込みであり、休日の動物園帰りの家族連れをうまく集客につなげた。 執行過程では、職員の適切な指導が必要だった。 			
		青少年委員企画事業 まったりぐつぐつ鍋パーティーin 野毛山	b ②	b ②		・集会の手法として、参加者相互の距離感が近くなるのが早く、情報交換の場を持つことができた。情報交換の先のボランティア活動への誘いは届かなかった。企画段階から職員の適切な指導が必要だった。			
		活動成果交流事業 @楽祭 2013 夏	a ②	a ②		・定番事業であるが、準備期間やスタッフ間連携に一部課題が生じた。 ・出演者が固定化傾向にあり、新規出演者が得られない要因を分析し改善につなげること。			
C 青少年に体	う	活動成果交流事業 青少年ライブ(青少年ライブ'13 夏·冬)	a ②	a ②	23/30	・定番事業で、出演者が運営も担う中で工夫が生まれている。2回目は、発表の場を探すダンスチームのゲスト出演、会場を3階に移し準備期間を長くできたことで連帯感が生まれてきた。文字通り「交流活動」になっている。			
験機会や活動の場を提	体験 活動	地域交流事業 こどもの日まつり	a ①	a ②	(77%) b	・今年度から地域交流事業に変更。近隣施設や団体等が出店や活動コーナーを運営し、イベント的には成功した。 ・交流センターを活動場所として認識された。			
供する事業	/ L Z/J	体験交流事業 人形劇ぴっころ公演	а ①	а ①		・定着している事業だが、狭い、暑い等快適な会場を提供できていない。 ・次年度は3階フロアへ会場を移すよう検討してほしい。			
		体験交流事業 夏休み事業(料理教室·木工教室)	a ①	a ①		・夏休みの人気ブログラム。自らものを作る達成感を感じてもらえた。また、参加者がボランティアやコーディネーターと距離 を縮め会話できるようになっている。募集人数を増加できないか検討してほしい。			
		体験交流事業 ふりふらジョブカフェ(図書館司書編)	a ②	b ②		・ジョブカフェで紹介する職種を追加できないか検討してほしい。野毛山公園や動物園が近いことから、例えば動物に関わる仕事(獣医、動物看護士)や造園技師なども検討を。			
		体験交流事業 3階スペース活用事業「みんな DE アート」	a ②	a ②		・3階フロアお披露目の役割は果たせた。事業の幅が広がり、親子で楽しむ機会やグループ活動の場を提供できた。 ・青少年委員の意見も聴きながら柔軟な活用方法、内容を作り出してほしい。			
		体験交流事業 春の卓球大会	а ①	a ②		・地域の成人団体と青少年の交流を生む事業として、団体側が積極的に協力してくれた事業。 ・参加者募集や卓球大会の運営については、改善点をつかんでおり、次年度へ反映してほしい。			
		体験交流事業 はたい若者の仲間づくり事業 「仕事帰りに『てびねり陶芸』」	a ②	a ②		・寄附金を財源に購入設置した陶芸用電気窯を活用し、働く若者の交流・仲間づくりの場を目指した新規事業である。 ・仲間づくりに時間を要するので、一定期間通う「教室」形式の事業を検討してほしい。			
		体験交流事業 ふらっとりkids/ふらっとりkids コンサート)	а ①	b ②		・参加者数が低位傾向にあり、何らかの見直しをする時期だと考える。			
		学習マイプラン(学習支援) ※ふりふら勉強会を改称	b ①	b ②		・無料で気軽に利用できる学習支援のニーズは高い。中学生にとって利用しやすい時間設定を検討し実現してほしい。 ・学習ボランティアの自立的活動ができつつある。 ・学校や相談支援機関側とも連携し、将来的な自立につながる事業に育ってほしい。			

事業評価結果(課・施設)

事業0	D柱	個別事業名(含む全体)		次年度方針 (※) 1次 2次 区分 全体		第2次評価会議 助言·指示内容等		
公益目的事	掌業区分					(次年度へ向けた改善ポイント)		
横浜市野	島青少年	年研修センター		•				
А	あ 施設	施設·設備貸出事業	a ①	① ① 22		・食事提供の方法について検討の必要がある。		
青少年活 動を支援	貸与	営業活動強化事業	a ①	a ①	(73%) b	・ホームページの改良及び事業情報を積極的に配信、体験学習用パンフレッ外等作成・配布など営業活動を強化し、稼働率向上へつなけた。 ・引続き高校・大学・企業等幅広い営業活動を期待する。		
する事業	お 調査、 _{資料収集}	新規体験プログラムの開発	_	_	-	う体験活動:「新規体験プログラムの開発」で評価を実施		
		市民活動団体との協働体験プログラム オールクリーン野島ビーチ	a ①	а		・野島海岸護岸工事の影響で活動範囲縮小。4回実施の参加者募集を、各回ごとに工夫し、事業PR範囲が拡大できた。 ・中・高校生などの参加が増加するよう広報の工夫を期待する。		
		市民活動団体との協働体験プログラム のじまキラキラキャンプ 2014	a ②	a ②		・事業内容の見直しが応募者数増加につながった。当日は大雪のなか、保護者の意向を確認し31人で事業実施。・雪遊びなど偶然の機会も活かし幅広いプログラムを提供した。引続き共催団体と円滑な調整をお願いしたい。		
		市民活動団体との協働体験プログラム 野島カヌー体験教室	a ②	a 2	00/00	・市民団体との協働事業で研修センターの環境を活かした人気事業である。しかしリピーターが多く、新規参加者の増加が 課題である。 ・受付方法等団体と協議し改善が必要である。		
		新規体験プログラムの開発	a ②	a ②		・市立高校生、法人の事業課等と理科学習向けプログラム開発・提供ができた。 ・今後、継続的に新規開発プログラムを提供する場合のマンパワー(説明・指導・見守り)の確保は課題である。		
		施設ボランティア養成 平成 25 年度 施設ボランティア	c ②	c ②		・事業ポランティアから施設ポランティアへの誘導が難しい。 ・施設ポランティアの活動イメージを明確にし、養成に取り組んでほしい。		
C 青少年に体	j	研修センターの施設点検を活用した就労体験 自立支援事業	a ②	b ②		・個別支援学級生徒の職業体験の場として、施設点検作業を提供した。昨年度と同じ中学校である。 ・就労に繋げる職業体験事業なので、特別支援学校の高校生への提供を実現してほしい。		
験機会や活動の場を提	体験 活動	研修センターの施設点検を活用した就労体験 施設特性を活用した宿泊体験・交流活動の支援	a ②	a ②	23/30 (77%) h	・研修センターが活動を支援する自立支援機関・団体の特性に配慮し、対応している。 ・引続き各団体等の性格に合った活動支援を行うよう期待する。		
供する事業	伯刬	研修センターの施設点検を活用した就労体験 困難を抱えた青少年の生活体験支援	b ②	b ②	D	 事業課が他の寄り添い型支援施設にとアルグし、ニーズを把握したうえで企画して、両課で運営した体験事業であった。 ・研修センターの関わり方としては、自立支援団体の活動に触れる機会が多い施設として事業充実に力を発揮できるよう協働の在り方を検討してほしい。 		
		ハートフルスペース(適応指導教室)連携事業 ハートフル宿泊体験	а ①	a ①		・事業参加者、プログラムへの施設からの支援が教育委員会側スタッフの安心感につながっている。 ・フリースクール等の青少年への支援メニューとして検討してほしい。		
		第 18 回 野島クリスマスキャンプ 2013	a ①	a ①		・既に18回と会を重ねる事業で、実行委員はもとより大勢のボランティア、事業協力者に支えられた事業である。 ・今後も本事業が安定的に継続できるよう取り組んでほしい。ボランティアの登録・活用は3施設で調整が必要である。		
		カヌー体験キャンプ 2013	a ②	a ②		・カヌーほか自然体験満載、青年ボランティア導入とよくは少な事業である。広報宣伝も功を奏し、定員の倍の応募があった。 ・野島の周辺環境を活かして、職員・ボランティアともに育成できる事業として、継続的に実施したい。		
		野島クラフトワークショップ のじたま、のじぼっくり、バードコール 他	b ②	b ②		・研修センター利用者へのクラフトプログラムであり、多様なレベルの利用者のニーズに応えている。 ・今後は、クラフトの種類の増加を検討してほしい。		
		食育プログラム 野島カリー	a ②	a ②		・実施団体のレベルを見極め、事前準備の状況を変えるなど、きめ細かく対応している。食物アレルギーにも対応している。 ・そろそろ他の調理メニューを追加できるよう検討してほしい。		

事業の	カ柱	事業区					●・廃止
公益目的	,	ランク	但占	方針 (※)	第2次評価会議 助言・指 (次年度へ向けた改善 ⁷		総合評価コメント
A 青少年支 動をあ する事業	え 相談 助言	a	26/30 (87%)	2	・「子ども・若者どこでも講座」は、地域を把握し、講師マッチングや講座開を行っている。 ・青少年の居場所の活動支援は、地性につながる支援に配慮すること。・企業の社会貢献活動のコーディネー業、十日市場中学校地域交流事業で成果を出している。・・「YOKOHAMA EYE' \$2013」を発行期刊行できるようにすること。	催に的確な助言は域の自主・自立 一ト、講師派遣事業等順調な進捗できた。今後も定	・「子ども・若者どこでも講座」は円滑に執行できた。 ・青少年の居場所の活動支援は、活動の継続性に留意する必要がある。 ・企業の社会貢献活動のコーディネート、講師派遣事業、十日市場中学校地域交流事業等順調な進捗で成果を出している。 ・ユースサポーター事業は、まず研修内容・体系構築から進めること。
	お 調査、 資料収集	d	12/30 (40%)	2	・早期支援SSTプログラム研究・開発 門的な実施準備が整っておらず、体 プログラムの一部を先行実施するこ	取験事業を通じて	・専門的な実施準備が整わず、現在のできる範囲の 事業を工夫した。
B 青少年を 対を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	С	18/30 (60%)	2	・課題がある子ども・若者に接する大 て、一定の成果を出した。 ・しかし、集客面では、PR、会場選 た。次年度は方法、内容を見直する	定等課題が残っ	・企画・準備に課題があった。
で 音少年に体 験機会を表 動の場を事業 供する事業	体験 活動	а	26/30 (87%)	2	・寄添い型支援事業は、区・学校と円滑に連携し学習・生活面等成果が出ている。スタッフ不足の解消は課題である。 ・「みなと」に着目した社会体験プログラムを開発できた。港湾関係機関、企業との協働の意義は大きい。・市立高校連携事業は、企画運営の高校生、参加側双方に事業効果があった。今後、担当教師が交代しても事業が引き継があった。今後、担当教師が交代しても事業が引き継がある仕組みが必要をいる。・「かくわく生活体験キャンプ」は、他の寄り添い型支援施設にヒアリングし、きめ細やかに準備・対応できた。・18か所(16区)の放課後キッズクラブを運営中。25年度は8か所すべて再選定された。運営スタッフの人材確保が課題となっている。・127年度の子ども・子育て関連3法の本格施行に向け、法人運営の放課後キッズクラブだけでなく、全ての放課後育成事業スタッフを対象に人材育成研修を企画・実施した。また、放課後児童クラブ中間運営支援モデル事業を受託し、放課後児童クラブの現状や課題を把握できた。		・寄添い型支援事業や様々な体験活動プログラムの 提供は、着実に実績を出している。 ・体験活動は、「横浜」や「港」に関する新規プログラム を開発し、地域性を出せた。 ・放課後キッズクラブについては、18か所を適正に運 営している。再選定時期をむかえた8か所はすべて 選定された。 ・放課後児童育成事業については3事業(放課後児 童クラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後キッズ クラブ)スタッフも対象にした研修などH27年度以降 につながるよう配慮している。
D その 法人目的 めの	達成のた	b	22/30 (73%)	2	・法人のホームページについて、少しいるが、アクセスしやすいように改善	が必要である。	・法人活動の広報上ホームページは重要な役割を 担っており、さらなる改善が必要である。
経営·業	8700 事業		の方向に手ごた など、率先して態 でなく3事業(放課 ール・放課後キッ をとする人材育成 も・子育て関連3	・放課後事業を含め、事業課は新規事業や充実・拡大が必要な事業によく対応し、成果を出した。 ・各事業で募集するボランティアに関し、法人内で共有システムを開発すること。			
総食		b	130/180 (72%)				
評化	西の目安		点(30点满原 【評価委員】 代表理事、	点) 常務理事	安に沿って各区分を評価した合計、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大き 4点=目標以上(3点=目標を達成 2点=目標をやれ 1点=目標に届加 0点=中止、未ま	成できた ら下回った いず、改善が必要
総合評価ランク(評価点得点率)			a=85%以。 b=70%~8 c=50%~6 d=40%~4 e=39%以	34% 69% 19%	_	評価得点率=事業	:の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	知っておきたい! 子ども・若者どこでも講習	<u> </u>					
日時/回数	通年/年30回程度	<u> </u>	場所	横浜市内			
口时/ 凹刻		の中で手小	物の	供从川竹			
対 象	青少年指導員、民児協、PTAなど、地域 年活動に取り組む団体	の中で再少	回数	43件(30人以上/件)			
事業目的	・主催者のニーズに適った講師を派遣する。						
尹木口的	・・ ・・ ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・						
	一・市内に、青少年の育ちを全体で見守れる地域を広げる。						
中华中家							
実施内容	地域の中で青少年活動に取組む方た ちが主催する研修会や講座へ講師を派			レブル・ゲ			
	遣した。			がら講座テーマを設定			
	講師の選定・連絡調整を行うとともに、	・講師の調整		人共に日本! いってが細数			
	実施に係る講師謝金・交通費も負担し		匿有との打	合せに同席し、助言及び調整			
	ーた。 - ※「フじれ、芸老士極物議会」に演権した。	【当日】	の神中				
	※「子ども・若者支援協議会」と連携した	・会場準備の記録					
	取組み	・講座の記録	球				
		【事後】	こまおとに	711. H			
	岩室紳也氏(ヘルスカロモーション研究センター センター長)	・主催者から		Y)27			
	阿部敏子氏(県警本部少年・相談保護センター 所長)	【主なテーマ	_				
	根岸聡美氏(中央児童相談所児童福祉司)			青少年の居場所/インターネット・携帯電話/性教育/非			
				題/若者の自立支援/心の教育/自殺の問題 他			
事業名		或活動拠点 <i>0</i>		爰事業)神奈川区青少年の地域活動拠点の支援			
日時/回数	毎週 月、火、金			神大寺地区センター、中丸小学校体育館			
対 象	活動拠点スタッフ、関係者、区地域振興課		参加者	4,002人			
事業目的	・設備や資金、そして運営における支援がす			点運営を支援する。			
	・法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し		É する。				
	・地域の居場所づくりの取り組みを支援する						
実施内容	神奈川区神大寺地区での青少年の居			転報物の助言・支援			
	場所活動を支援した。			助、助言、相談			
	神大寺地区の地域活動拠点は、音楽(バ	・拠点から周	呂場所へσ)支援変更に対する助言、相談、支援			
	ンド活動)とスポーツ(フットサル、バスケット	【現場対応】					
	他)を通じた青少年の居場所づくりと活動の	·音楽活動					
	場の提供を中心に活動を展開。拠点で	·B-SKYフ:					
	は、主に近隣の大学生や専門学生、拠点		B-SKYフェス 2/21(金)、22(土) 於:神奈川公会堂				
	を利用していた青少年が子どもの対応をし	B-SK	B-SKYフェスは、神奈川区と拠点が中心となって、青少年を対象に、ダン				
	ている。また、地域行事にも積極的に協力	ス、民俗	ス、民俗芸能、楽器演奏、バンド演奏の発表の場として実施している。運営ス				
	しており、地域の担い手としても期待されて	タッフは	タッフは拠点、区役所、地域の大人、拠点に出入りする大学生や専門学生で				
	いる。	構成され、企画段階から当日運営に至るまで携わっている。当日は、出場団					
	・月曜日(神大寺地区センター)	体の青色	体の青少年も役割をもち、一緒にイベントを作り上げている。				
	音楽活動	【連携】	連携】				
	·火曜日·金曜日(中丸小学校体育館)	こども青少年	こども青少年局青少年育成課、神奈川区地域振興課、神大寺地区センター、				
	スポーツ活動	中丸小学校	、地域型	スポーツクラブ「まるクラブ」(活動の核となる人材が在籍)			
事 業 名	青少年の居場所の活動支援(地域における	青少年の居	場所の活動	助推進支援)磯子区岡村地区の居場所づくりの支援			
日時/回数	通年		場所	磯子区岡村中学校			
対 象	磯子区子どもの幸せを実現する会		参加者	23,190人			
事業目的	・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活	動を支援する	5.				
	・地域の大人と青少年とが顔の見える関係	をつくれるよう	、相互のる	Σ流を促す。			
	・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地	也域の主体的	な取組み	として定着させる。			
実施内容	「子どもの幸せを実現する会」が行う、						
, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	岡村中学校区での青少年の居場所活動			め、助言、相談、青少年との関係づくりのサポート			
	を支援した。	新一・拠点活動の建名補助、助言、相談、青少平との実際スペックケバード ・利用者増加のためのPR活動					
	子どもの幸せを実現する会は、岡村中	【現場対応					
	学校の一室を使用し、青少年が安心して	2 20 25: 0: 0 ;	_	会、あいさつ運動 他):9回			
		が ・子どもの幸せを実現する会定期全体会:2回					
	過ごせる地域を目指して、学校と地域が	-					
	過ごせる地域を目指して、学校と地域が 交流できる活動の企画・運営を行ってい	・子どもの幸		する会定期全体会:2回 する会定期役員会:2回			
	過ごせる地域を目指して、学校と地域が	·子どもの幸 【連携】	せを実現				

- Alle 5-	+ :	+ 1 +	10-11 - 11-1	サ木环				
事業名		育少年の店:		動推進支援)鶴見区生麦地区の居場所づくりの支援				
日時/回数	通年/47回(毎週火曜日)		場所	鶴見区生麦地区センター				
対 象	ふらっと生麦		参加者	560人				
事業目的	・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活							
	・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。							
	・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、均	る仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。						
実施内容	昨年度まで鶴見区内の地区センター	・活動に関	わる事務手	=続きの支援				
	に配置されていた青少年パートナーと地	·拠点活動	の運営補助	助、助言、相談、青少年との関係づくりのサポート				
	域組織が協働で取り組んでいた生麦地	·活動を地均	或に広げる	ためのサポート				
	区センターを拠点とする青少年の居場所	【現場対応】]					
	活動(生麦プロジェクト)が青少年パート	・フリースペ	一スの開語	段(毎週火曜日)補助:39回				
	ナー事業の廃止等により継続が難しく	·参加者交流	流イベント	の実施補助:4回(内1回は生麦地区センターとの共催)				
	なった。今年度から新たな対応として、地	・青少年の	様子につい	て、地区センターから情報を収集する。				
	域の有志グループ「ふらっと生麦」が青少	·地域振興	課、地区t	アンターとともに、地域の大人による青少年活動として継続し				
	年に生麦地区センターの1室をフリース	ていくため	の意見交	換会を実施 6/13(木)、3/25(火)				
	ペースとして週1回試行的に開放すること	【連携】						
	になり、その活動を支援した。	ふらっと生き	隻、生麦地	区センター、鶴見区役所地域振興課				
事業名	地域活動支援事業(相談、助言、活動プラ	ンニング)						
日時/回数	通年	, ,	場所	横浜市内				
対象	_ ~ - 行政、学校、PTA、団体や機関など			21件、及び研究・活動報告事例集の発行				
事業目的	・地域における青少年育成活動や居場所で	どり活動の充						
一	・学校と地域の連携事業を通した地域のセ							
	- 子校と地域の建携事業を通じた地域のと - ・企業の社会貢献活動を推進する。	211 Tr.)	× 1& 7 ° 0°				
実施内容	・青少年活動の相談、助言	<相談·助	= \					
大肥的谷	・青少年/1到の相談、切言 ・青少年に関する研修への講師派遣		_	アプラザ地域で青少年を見守る活動の相談				
	一・企業の社会貢献活動のコーディネート、			イントセンターの事業協力相談				
	・正条の社会員献冶動のコーティホード、 研修			ドランティアサークルの相談				
	研修 ・地域の青少年活動のコーディネート	· 愛應我型. <講師派遣		トノンティアリーグルの作談				
			- ·	>事生ポーンニノス派と並訓練 州)				
	・啓発冊子の発行	・16件(JICA日系社会青年ボランティア派遣前訓練 他) <企業等の社会貢献活動のコーディネート> ・キリンビール社員研修(3回実施)						
		く活動コー						
				グラック マップ				
		く啓発冊子						
				集『YOKOHAMA EYE'S2013』発行(年1回3月)				
± # #	¬ ¬ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	"则九"/白男		来 TONOHAWA LTL 320T3 光1](平1回3月)				
事業名	ユースサポーター事業		1	サンナキッケナンと				
日時/回数	①2/22(土)13時~17時		場所	横浜市青少年交流センター				
	②3/1(土)~2(日)1泊2日	71. EE \ -		横浜市野島青少年研修センター				
対象	少年団体で活動するリーダー、青少年活!	動に関心の	参加者	20人				
	ある大学生など18歳~30歳の青年	L h /						
事業目的	・地域活動を担う次世代の若手リーダーを							
	・H25年度は認定のためのカリキュラムを施		, .,					
実施内容	・ユースサポーター事業	【研修テーラ						
	若手活動者や活動希望者に体系的			ける自身のコミュニケーションパターンを知り、チームで成果				
	な研修を実施し、修了者をユースサ		_	}がすべきことに自ら気づく機会を提供する。				
	ポーターとして認定することで、若者が	【研修実施						
	活動に参画しやすい環境を整備し、将			17時 於:青少年交流センター				
	来の地域の青少年育成・支援者の拡			こ分かれ、オリジナルのクレイアニメのストーリー作り。				
	大につなげることを目標とする。			(日)11時 於:野島青少年研修センター				
	・各年度の取組			アニメの人形制作、撮影、動画編集、作品発表会、				
	《H24年度》初年度	研修のま						
	研修体系構築のため、若手活動			、1時間毎に自身の感情の変化とチームの状況をログシー				
	者を対象に、企業で取り入れているコ			にそのシートを使って、時間の経過と自身の感情の変化、				
	ミュニケーションをテーマとした座学	チームの	状況の変	化がどう関係しているかを客観的に示し、自身の傾向と今				
	講座を実施し、効果を検証した。	後活動を	行うにあた	こっての留意点や大切にしたいことを整理した。				
	《H25年度》2年度目	【事業検証	委員会】					
	引き続き研修体系構築のため、自	研修を	通して参	n者の様子を観察するとともに、ログシートを分析し、研修の				
	己覚知を促す体験型の研修を独自	効果につ	いて検証	た。				
	に企画実施し、効果を検証した。	※委員は	はボーイス	カウト、ガールスカウト、子ども会の中堅活動者で構成				
•								

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名	活動資源の調査 横浜ユースマップ(法人ホームページ)の情報更新								
日時/回数	随時	T. A. DOWNERS	~471						
対象	横浜市内の青少年活動資源	登録数	374件						
事業目的	・横浜市内の社会・自然資源を調査・発掘・	する。							
	・市民が多様な体験活動に活用できる資源	(の情報提供を行う。							
実施内容	横浜市内にある社会・自然資源を調	・市内の社会・自然資	資源の所在並びに内容の確認と情報更新						
	査・発掘し、市民の多様な体験活動につ	自然体験、自然体	、験(水遊び系)、横浜市施設、キッズクラブ、居場所、青少						
	なげられるよう、横浜ユースマップを更新	年育成団体、体験	施設の7分野の活動情報を掲載。						
	し、情報提供を行った。		f動資源として活用されていなかった資源を発掘						
		港湾の仕事に注目し、体験展示などによる社会資源としての活用を試行(体							
		験プログラム「みる	験プログラム「みる・しる・ふれる みなとのしごと」で試行した。)						
事 業 名	体験プログラム企画・検討委員会の設置 (本験プログラム検討委	員会						
日時/回数	3/25(火)、27(木) 両日とも17時~	場 所	横浜市青少年育成センター						
対 象	青少年活動団体								
事業目的	・地域の中に体験機会を広げられるように、	体験プログラムの改変	または開発を行う。						
	・地域の中で体験プログラムを実施できる仕	掛けづくりにつなげる。							
実施内容	経験の浅い活動者が体験事業を実施	青少年活動団体指導	青少年活動団体指導者を中心としたプログラム検討委員会の設置						
	しやすくするため、事業実施までの行程を	・手順書の内容・体裁	哉についての検討(3/25)						
	示した手順書を作成・配布した。	·配布先·発行部数 σ	配布先·発行部数の検討(3/27)						
	※手順書は、手に取りやすくわかりやすい	・手順書の作成、発行	亍、配布						
	ように双六の形式で作成した。	・作成した手順書に対	作成した手順書に対する評価をヒアリング						

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事 業 名	子ども・若者エンパワメントセミナー							
日時/回数	2/6(木)13時~、16時~、19時~(3回)			関内ホール小ホール				
対象	思春期の子を持つ保護者、地域で青少年 人、教職員	に関わる大	参加者	95人				
事業目的	・日常的に子ども・若者に向き合う大人が子 ・今後の講座研修企画に活かすため、地域			き出すための関わり方について考える機会とする。 「る。				
実施内容	思春期の子どもたちが抱えている悩みや課題について正しい知識と理解を持ち、適切に子どもたちと向き合い成長を見守ることができるよう啓発するため、子ども・若者に関わっている支援者へのエンパワメント*をキーワードにドキュメンタリー映画の上映会を行った。 併せて、詳細なアンケートで地域の青少年課題を収集した。 ※エンパワメント 本来持っている力を発揮し、自己決定力を持てるよう働きかけること。 【後援】 こども青少年局	·事業報。 横浜市P 横浜市民 一参田 【当日】	- の手配(10 (12月下省 はまへの掲 TA児生の A がりの A 3時~15 B B 9時~21 B	計載(11/22) 計載(11/22) 計議会を通じて保護者への周知 員協議会を通じて民生児童委員,主任児童委員への周知 〜先着順申込)電話、メール で」上映(全3回 各回定員200人) 時(33人) 時(19人) 特(43人)				

C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う: 体験活動

事 業 名	困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業 「かもん未来塾」の運営							
日時/回数	毎週月~金の10時~19時		場 所	西区「かもん未来塾」(西区中央)				
対 象	困難を抱える小中学生		登録数	18人(3月末)				
事業目的	・小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」	」を引き出す。						
	・他者との関係性を築きながら自らが安心し	ていられる場	(居場所)	を提供する。				
	・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る	が地域の環境を	を築く。					
実施内容	困難を抱える青少年のための寄り添い	①学習支援	{:宿題·課	題など日々の学習や補習を支援。				
	型支援事業として、生活保護家庭の児	②生活支援	爰:手洗い	うがい、片付けなど生活の基本行動の第一歩から始め、				
	童生徒を中心に学習支援、生活支援、		個々の原	戈長に合わせて指導。				
	総合支援を実施した。	③総合支援	:上記支持	援や施設での生活を通したスタッフや他の塾生とのコミュニ				
	【連携】		ケーションの深まりによって社会性の発達を促した。					
	西区役所福祉保健センター(保護課、こ	※中学生の	部活動な	どの学習並びに生活実態に合わせた対応として火曜日、				
	ども家庭障害支援課)	金曜日の	開設時間	を12~21時に変更し25年度から本格開始した。				

事業名		は機会の提供 団体や自然・社会資源を活用した体験プログラムの提供						
日時/回数	通年	場所機能的						
対象	小中学生を主とした青少年	参加者 2,160人(延数)						
事業目的		性や自立心を育てる機会を提供する。						
	・体験活動を推進するために自然環境や社会資源の活用を図る。							
実施内容	・青少年活動団体等と協力して、青少年							
	向けに、自然や他者とふれあえるイベン							
	トを実施した。	少年5団体企画の活動ブースの他、よこはまユースとして身近な素材を使った。 4 4 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7						
	・昨年度までは企画事業として、少年団	ゲーム体験ブース『イカいか~ッすか?』を出展した。						
	体や公園、動物園等と連携して自然や	・10/20(日) ワークショップ「創作家づくり」於: 野島が年職をセッター(参加者: 60人)						
	野外活動の体験プログラムを実施して	ガールスカウト横浜市連絡協議会と協働して実施。						
	いたが、今年度は横浜港周辺の社会資	日本建築家協会神奈川地域会の協力の下、角材・連結用ゴムを使って骨に						
	源を活用して「港のはたらき」や「港での	みだけの家を設計・建築した。 【社会資源等を活用した体験プログラムの企画実施】						
	仕事」を体験しながら青少年向けに紹 へせるくぶいした実施した。							
	介するイベントを実施した。 【切力器は】	・3/30(日) みなと体験プログラム「みるしる ふれる・みなとのしごと」						
		於:日本丸メモリアルパーク周辺(参加者:100人)※荒天のため、途中で中止(1)日本本 英マルーナスターレイディル 地上に記立し、近代本来港港は大阪						
	横浜市少年五団体(ボーイスカウト横浜	(1)日本丸前アリーナをスタート/ゴール地点に設定し、近代産業遺構を巡						
	│ 市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協 │ 議会、横浜市健民少年団、横浜海洋少	フォトラリーの実施。						
	│ 譲伝、傾浜巾健氏少年団、傾浜海洋少 │ │ 年団、横浜市子ども会連絡協議会)	(2)港湾に関わる団体や青少年活動団体による、体験コーナーや活動紹士 用パネルなどの展示。						
	平凶、傾浜巾サとも云連給協議云/ あおみ建設(株)、(株)東洋信号通信	用ハイルなどの展示。 (3)遊覧船で、海から横浜港を見学。						
	めのの建設(株)、(株) 泉洋信号通信 社、港湾職業能力開発短期大学校横浜	(4)麻薬探知犬によるデモンストレーション						
	│ 位、冷污嘅未能力用先应别人子伙假从 │ 校、横浜税関	(5)海洋少年団による手旗のデモンストレーション(雨のため中止)						
事業名	■ 1000 (根本代)■ 自然・社会体験プログラムの開発及び体験							
<u>尹 未 石 </u> 日時/回数	8/6(火)7時50分~20時	RQ						
		参加者 33人						
	市内在住・在学の高校生 ・白然の中で活動する楽しさを知り、白然環							
争未日的	・自然の中で活動する楽しさを知り、自然環境や普段飲んでいる水への理解を深める機会を提供する。 ・ボランティア活動の楽しさを知る機会を提供する。							
実施内容	山梨県道志村の横浜市水源林の保							
天旭门台	一口来県垣芯村の横浜巾木源杯の床 全活動の一環として、間伐作業を体験し	- · · · · -						
	た。また、水源の森(市水道局が管理す							
	た。また、小塚の森(川小垣周が直建9 る涵養林)の見学と森の保水・浄化機能							
	について学習した。	・当日の作業について、ボランティアの心得、道志水源林について 他						
		講師:水源林管理所長						
	【連携】	【水源林ボランティア当日】活動内容(環境学習教室→間伐体験)						
	横浜市水道局(浄水部浄水課) ・高校生ボランティアの受付、引率、活動の記録、活動アンケート(水道局兼用)							
事 業 名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験を	####################################						
日時/回数	7/27(土)~28(日) 1泊2日	場 所 山梨県道志村、道志森のコテージ						
対象	小学校4年生~6年生	参加者 30人						
事業目的								
事業目的	・体験活動を通して青少年の自主性、社会	全性の形成を図る。						
事業目的	・体験活動を通して青少年の自主性、社会 ・横浜市の水源である道志村への理解を深	c性の形成を図る。 深める。						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深 ・ボランティア活動を通して青少年の成長を	e性の形成を図る。 深める。 を図る。						
事業目的実施内容	・体験活動を通して青少年の自主性、社会 ・横浜市の水源である道志村への理解を深	c性の形成を図る。 深める。						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異な	e性の形成を図る。 Reかる。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会 ・横浜市の水源である道志村への理解を深 ・ボランティア活動を通して青少年の成長を 自然環境の中で、学校や年齢の異な る仲間と出会い、協力しながら新しいこと	e性の形成を図る。 Roda。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会 ・横浜市の水源である道志村への理解を深 ・ボランティア活動を通して青少年の成長を 自然環境の中で、学校や年齢の異な る仲間と出会い、協力しながら新しいこと にチャレンジすることで協調性・社会性を	全性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村	全性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャ	全性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。	会性の形成を図る。 経図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボラン	性の形成を図る。 経図る。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導	会性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導	全性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。	会性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務 ・活動プログラム						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。	会性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務 ・活動プログラム 間伐材を利用した木エクラフト「プレートづくり」						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。	☆性の形成を図る。 「本付別では、「本のでは、「本のでは、「本のでは、「本のでは、「本のでは、「本のでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」」。 「本のでは、「本のでは、「ないでは、」」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、いいでは、「ないでは、いいでは、「ないでは、」は、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、いいでは、「ないでは、いいでは、「ないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、「ないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。 ・青年ボランティア:26人	全性の形成を図る。 に図る。 に図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務 ・活動プログラム 間伐材を利用した木エクラフト「プレートづくり」 薪を使った飯ごう炊飯、カレー作り キャンプファイヤー(花火あり)						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。 ・青年ボランティア:26人	全性の形成を図る。 に関る。 に関る。 に関う。 「事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 「ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 「参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 「当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務 ・活動プログラム 間伐材を利用した木エクラフト「プレートづくり」 薪を使った飯ごう炊飯、カレー作り キャンプファイヤー(花火あり) 朝のつどい「的様(まとさま)ハイク」						
	・体験活動を通して青少年の自主性、社会・横浜市の水源である道志村への理解を深・ボランティア活動を通して青少年の成長を自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むとともに、横浜の水源である道志村の理解を深めることを目的に、体験キャンプを実施した。なお、子どものリーダーに、青年ボランティア(高校生、大学生、勤労青年)を導入した。 ・青年ボランティア:26人 【連携・協力】 道志村、道志村観光協会(森のコテー	☆性の形成を図る。 深める。 を図る。 【事前】 ・企画立案、諸機関、団体への手続き、広報 【ボランティア事前説明会】 6/29(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、交流 他 【参加者事前説明会】 7/20(土) 於:青少年交流センター ・事業説明、オリエンテーション、リーダーと参加者の交流 他 【当日】 7/27(土)~28(日) ※集合・解散 横浜市役所前くすのき広場 ・児童の受付・誘導・引率、ボランティアリーダーへの指示・統率 ・利用施設の受付、手続き等の事務 ・活動プログラム 間伐材を利用した木エクラフト「プレートづくり」 薪を使った飯ごう炊飯、カレー作り キャンプファイヤー(花火あり) 朝のつどい「的様(まとさま)ハイク」 川あそび・スイカ割り、思い出スケッチ						

190 L 0	ム曲別団仏人みこはよユ ヘ	于不下	ЦВ	事 業	沐		
事業名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験	機会の提供	道志村と	連携した自然体験プログラム「道志村児童受入れ事業	<i>[</i>]		
日時/回数	10/3(木)~4(金) 1泊2日		場所	横浜市内			
対象	道志村立道志小学校5年生と引率教員、		参加者	25人			
事業目的	・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流 ・横浜での社会見学の機会を提供し、道志		兵への理解	を深める。			
実施内容	道志村児童を横浜に招待し、市内の						
	小学生との交流、横浜市を中心とした社	_		「原小学校と打合せ、活動内容調整、検討			
	会見学の機会を提供することで、横浜市						
	と道志村の交流と相互理解を深める。		場、日産追	追浜工場等活動先との打合せ			
		【当日】					
	【連携・協力】	70	.,	引率教員との調整			
	横浜市立万騎が原小学校、道志村立道						
	志小学校、道志村、道志村教育委員			万騎が原小学校児童との交流会、横浜港見学(漿)(無船 1500 駅島八周田 77世第 100 元音:257 - 18月2 1870	八十		
	会、こども青少年局青少年育成課 			見学、野島公園周辺散策、日産追浜工場見学 他 ・研修センターを利用			
<u> </u>	<u> </u> 自然・社会体験プログラムの開発及び体験						
事 未 石	日然。任芸体験プログラムの開光及の体験	放立の形式		 野島青少年研修センター、横浜市立みなと総合高	I 松		
日時/回数	7月、12月、1月、2月、3月/5回		場所	封岡月夕午前後とファー、優然市立のなど心日間 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校	112.		
対 象	小学4年生~中学3生		参加者				
事業目的	・高校生がこれまでの学習を活かして社会		, <u></u>				
子 术口口	・横浜市の資源である市立高校を活用し、						
	・身近な自然環境や、自然科学、社会への						
実施内容	横浜市立高校と協働し、小中学生を						
7 (32)				研修センター 参加者31人(定員40人)高校生11人			
	・高校生が自らの学びを活かして社会に						
	貢献する機会を持ち、年下の参加者と	·12/14(:	生)「みなと	:☆プラネタリウム」			
	関わることで自己肯定感を得るととも	場所:					
	に、学びを深めた。	みなと総合高校 参加者35人(定員30人)高校生9人					
	・小中学生が、年齢の近い高校生との関	内容:高校生による移動式プラネタリウムの投影、ミニプラネタリウム作り					
	わりを通して、自然や社会への興味関	,					
	心を高めた。		場所:横浜サイエンスフロンティア高校参加者35人(定員40人)高校生14人				
	F. 144.7			化石レプリカ作成、顕微鏡での微化石の観察、スケッチ	F		
	【連携】	·2/23(日			0 1		
	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校			・スフロンティア高校 参加者24人(定員25人)高校生! 作り、プラネタリウム投影、大型天体望遠鏡の見学	9人		
	(理化調査研究部、天文部、航空宇宙工学部) 横浜市立みなと総合高校			アトッ、プフーズタリンム技能、人型大体呈退蜆の見字 ラミングロボット教室」			
	(地球科学部)			ベンテロバア(教室) バスフロンティア高校 参加者21人(定員20人)高校生:	1 <i>1</i>		
	(地球件子印)			グラミング体験、発表	17/		
事業名	■ 困難を抱える青少年のための集団体験活!						
日時/回数	2/1(土)~2(日) 1泊2日	切り大心 17		横浜市野島青少年研修センター			
対象	市内の寄り添い型支援事業に参加する小で	 中学生	参加者	14人			
事業目的	・ルールを守る、場に応じた行動をする、と	ハった生活す	る上での規	理範意識を身につける。			
	・仲間と協力して取り組むことの大切さに気	づき、協力・協	協調するた	めの人間関係を築く力を育む。			
	・普段の生活と異なる環境にふれる機会の	少ない子ども	たちに、社	会体験をはじめ様々な体験の機会を提供する。			
	・生活体験プログラムのモデル試行。						
実施内容	集団での調理や宿泊体験を通じた生	【事前】					
	活訓練、社会体験プログラムを実施し			事業と連携実施する上での調査			
	た。			題、活動状況等の把握			
	F 1/4 3	・野島青少年研修センターとの打合せ					
	【連携】			江案、利用の調整·役割分担 他			
	鶴見区、保土ケ谷区、旭区、泉区、瀬谷		心型支援	事業との調整			
	区の寄り添い型支援事業、及び事業の	【当日】 .旧帝生生	നവ ം –	プログラ / の運営			
	運営法人 ※当日の参加は、西区、鶴見区	・児里生徒 ・活動プログ		『ログラムの運営			
	ヘヨロツ ※ 川は、 四		-	姉) およき(生団行動) 調理宝羽(サラ佐娄.は即づ川	1)		
	 当事業はよこはまユースの事業指定	食材買出し(生活訓練)、街歩き(集団行動)、調理実習(共同作業指定 ナイトウォーク(集団行動・仲間づくり)、入浴(生活訓練)、就寝(生活					
	当事業はよこはよユースの事業指定 寄附金を財源に実施した。			17到 中間 スタススク(エカ訓練)、私後(エカ自頂訓練)・仲間づくり)、横浜ヘリポート見学(社会体験・職業観の醸			
	·事業指定寄附金額:43,000円	【事後】	いいって木	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	-^/		
	. NOTE OF THE BY 10,000 [1		をり添い型:	支援事業スタッフへのアンケート			
	<u> </u>	シルロノート	-」 //亦 v ・王 .	へ級テ本ハアフィーツルファー			

事 業 名	放課後キッズクラブの運営						
日時/回数	通年/18か所	場所	横浜市立小学校内				
対 象	小学生	利用者	249,691人(18か所延数)				
事業目的	・通いなれている小学校の施設を活用して、すべての子の	どもたちにと	とって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。				
実施内容	【放課後キッズクラブ事業】 ・18か所の放課後キッズクラブで、在籍児童の51.7%(18校の平均値)が登録。 ・年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,156人、総計249,691人が利用し、実施したプログラム数は、毎月1キッズ平均約20.1回、年間総計4,349回、延べ92,278人が参加した。 【会議、スタッフ研修等】 ・評議会(運営を客観的に評価・検証するとともに、地域への理解と協力を図ることを目的に、キッズ毎に年2回開催)・保護者会(運営に保護者の意見を反映するとともに、保護者への理解と協力を促すことを目的に、キッズ毎に開催)・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施						

【各放課後キッズクラブの状況】(区名50音順)

	217/7/	-7 0 (7)0 2	<u> </u>				
区名	学校名 (小学校)	在籍 人数	登録 人数	延べ参加 児童数	ポグラム 実施数	プログラム 参加人数	主なプログラム
青葉区	すすき野	307	127	7,271	263	4,024	ニュースポーツ/バドミントン/トスベース/キッズ菜園/キッズシアター/ハンドベル/工作/ 囲碁将棋/ハンドベル/手芸/料理/はたおりクラブ/科学あそび/オンリーワン など
旭区	笹野台	614	311	15,664	361	7,258	スポーツチャンバラ/ドッジボール/スイーツ教室/あみもの教室/アイロンビーズ/ミサンガ/ ハンドベル教室/フラワーアレンジ/お話し会/料理/科学で遊ぼう など
磯子区	岡村	361	202	10,165	209	3,359	ドッジボール同好会/グランドゴルフ/地域探検/むかし遊び/科学教室/中国語/ミニ 水族館/藍染め/手芸/エ作/誕生日会/料理/映画上映会/ネパール交流 など
神奈川区	浦島	422	207	13,261	282	6,121	ドッジボール/虫取り/3B体操/スポーツ教室/白樺の森へ行こう/カプラ/料理/映画上映会/手芸/工作/お話し会/プラレール/万華鏡作り/ など
金沢区	能見台	541	311	15,481	246	4,564	サッカー教室/ドッジボール/テニス/レゴ/水あそび/親子キッズキッチン/昔遊び/リリアンマフラー/親子アロマ教室中央公園で遊ぼう/DVD鑑賞会/科学館へ行こう など
金沢区	瀬ケ崎	476	252	10,869	227	3,122	ドッジボール/瀬ヶ崎探検隊/紙芝居/囲碁クラブ/写真教室/おいしい実験室/シカケ屋/ビーズのアトリエ/木工作/写真教室/水合戦/カッパ祭 など
港南区	港南台第三	299	177	10,041	259	5,038	横浜FCサッカー教室/いちご狩り/もちつき大会/クワガタ研究会工作/万華鏡/親子ランチ おりがみ教室/海洋教室/アイロンビーズ/ミニシアター/ゆびあみ など
港北区	日吉南	793	279	8,412	174	2,767	キッズバスケ/長縄跳び/アイロンビーズ/ドッジボール大会/オセロ大会/読み聞かせ/ビデオデー/キッズ工房/デコアート/うつし絵/読み聞かせ/お手玉で遊ぼう など
栄区	桜井	344	229	12,823	206	3,787	ドッジボールクラブ/一輪車/サッカー教室/バドミントン/トーンチャイム/囲碁・将棋教室/ キッズキッチン/科学実験教室/プラバン/親子でクッキング など
瀬谷区	南瀬谷	848	252	12,921	183	5,457	サッカーをしよう/バドミントンクラブ/消防見学/お花見ランチ/おはなしボンボン/まんがの日/わくわくクラフト/カルタ大会/ドミノ/カレンダーづくり/ネパール交流会 など
都筑区	折本	751	341	14,492	181	3,280	ドッジボール/一輪車DAY/キックベース/将棋の日/リコーダー演奏会/落ち葉のしおりづくり/切り紙/おはしの達人/あみもの教室/映画の日 など
鶴見区	寺尾	691	358	18,077	244	6,600	トスベース/ドッジボール/いちご狩り/フラダンス教室/茶道/切り絵/おはなし会/スナック DAY/エネルギーのおもしろ実験/料理/ミサンガ/キッズ屋台 など
戸塚区	秋葉	635	419	20,717	312	7,469	スポーツチャンバラ/バドミントン/ドッジボール/映画をみにいこう/囲碁教室/ショップデー/フェルト手芸/ウクレレ/料理/ミサンガ/クロスステッチ/プラバン など
戸塚区	名瀬	582	336	16,497	260	7,408	大縄跳び/ドッジボール/サッカー/バドミントン/ウォーターゲーム/カプラ/キッズ映画館/キッズ工房/囲碁教室/DVD鑑賞/スライム/オセロ大会/本を読もう など
中区	本町	644	329	15,647	157	3,230	スポフェス/畑作り/ドッジボール/アイロンビーズ/かんたん工作/お母さんのお話会/キッズシネマランチづくり/おやつづくり/粘土クラフト/環境エネルギー見学 など
西区	宮谷	953	418	17,968	215	5,096	ダンボール卓球/キッズシアター/おにごっこ/スカッドボーイ/水墨画教室/生け花教室/タングラム/塗り絵/オセロ大会/なぞなぞ大会/指あみ など
緑区	長津田	654	332	16,109	312	7,843	野球教室/ドッジボール/どろんこあそび/こままわし/生け花教室/天体観測/絵本ライブ/囲碁教室/おやじの会イベント/工作/キッズシアター/プラバン など
南区	太田	286	193	13,276	258	5,855	ボーリング大会/風船パレー/パドミントン/ドッジボール/手芸・工作教室/DVDをみよう/アイロンビーズ/おやつ工房/リリアン/プラパン/安全マップづくりなど
	計	10,221	5,073	249,691	4,349	92,278	
_							

	女皿が四因人のこののユース			争耒	卟			
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修	の充実 放認	果後事業ス	タッフカアップ研修「子どもと向き合う 子どもに寄り添う」				
日時/回数	11/8(金)9時30分~11時45分		場所	横浜市青少年育成センター				
対 象	放課後3事業従事スタッフ(常勤指導員、補助	劫指導員)	参加者	46人				
事業目的	・子どもの本質、子どもにとっての遊びの大切さについて理解を深める。							
	・日頃の子ども対応を振り返り、参加者のブラッシュアップにつなげる。							
	・現場支援に向けて、3事業や運営団体の	"力べ"を越え	て実施する	5.				
実施内容	・「放課後の居場所」、子どもの遊びの場							
7,15131	面での大人の関わり方を考えた。	→ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	成 講師と	の打合せ				
	・常勤指導員1~2人(シフト勤務)という							
	現場で、固定化しがちな自分自身の子		VH (NH.E	4 未作				
	ども対応の考え方や価値観、基準を見		体の運営	アンケート				
	直す機会として、日頃の子ども対応を客							
	観的に振り返った。			質と遊ぶことの価値」				
	最近 川 一 加入) 及立			そどもの遊びに大人が関わることのメリットとデメリット」				
	【講師】	グループ		C 000 20 10 7 (7 (2 X) 17 0 C C 007 7 7 7 1 C 7 7 7 7 1				
	天野秀昭 氏	-		び)の場に大人がいる意味」				
	(大正大学人間学部特命教授、NPO法	۵۵۷۰۰	冰 体 [次//巡	20707例に入入れて、の心外。				
	人日本冒険遊び場づくり協会理事)	※公職(立	提)た挝ラ	た意見交換を通じ、子どもと向き合う姿勢を共有した。				
	八日本自陝近い物 八分伽玄珪事/	~ 汉顺(立	物ではん	に思えて映る通び、JCOCPIC日ノ安方を共行した。				
<u> </u> 事業名	大理後2車業役車スカッフの上社会は、現権の大	中 护理终审判	<u> </u>	スップエグ「サヴェルカーナーラスカナ麻/大野ローカシラップ」				
争 耒 名 日時/回数	放課後3事業促事人ダックの人材育成、研修の允: 11/21(木)9時30分~12時	夫		マップ研修「共感を生み出す伝える力を磨く体験ワークショップ」 横浜市青少年育成センター				
	11/21(木/3時30万~12時 放課後3事業従事スタッフ(常勤指導員、補助	品化谱品/	参加者	14人				
対象			1					
事業目的				らうために、共感を生み出す伝え方を学ぶ。				
	・話せる関係づくりに大切な相手の気持ち、 ************************************							
中华中郊	・本研修で学んだことを活かし、放課後事業		るよりに担	型域で休暖有寺Cの建族を休める。				
実施内容	・自分たちの"思い"を伝え、共感を得、	事前】	- 	. σ+τ Λ μ				
	話せる関係づくりのコツを学んだ。	成、講師と						
	・自分たちがやっていることの成果を伝		1 朱利					
	え、関心を高めてもらうことの大切さを確		をり届出	7). 6				
	認した。	·受付、研		アンケート				
	・地域や保護者との関わりに役立てられ							
	るように、自分の職場に持ち帰り、すぐに			ラダほぐしココロほぐし」				
	他のスタッフとも一緒に実践できるよう		ワークショップ:「聴く」「受け止める」「伝える」 講義:「地域ネットワークの中で顔と顔との見える関係を育むには」					
	な内容のワークショップを実施した。							
	Γ =± 4⊤ 3		_,, _,,	のケアーの必要性」	- A-W			
				「楽しい」「好き」といったプラスの感情だけでなく、日々				
	塚原泉氏			さ"や保護者等への否定的な気持ちなど、自然に湧き				
	(神奈川区地域子育て支援拠点かなー		まんするの	ではなく、相手への伝え方によって、変えていけること	とを存			
	ちえ施設長)	感した。						
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研	修の充実 放						
日時/回数	12/6(金)9時30分~11時45分		場所					
対象	放課後3事業従事スタッフ(常勤指導員、補助		参加者	25人				
事業目的	・「できない理由」ではなく「どうすればできる							
	・ローテーション勤務の職場で、スタッフ間の)信頼関係を	築くために	、チームの一員として何ができるのかを考える。				
実施内容	・ローテーション勤務の職場で、スタッフ	【事前】						
	間の情報の共有、信頼関係づくりの大							
	切さを再認識した。	・研修の周	知、参加者	新集約				
	・チーム力を高めるために、チームのメン	【当日】						
	バーとして何が大切なのか、何をしたら・受付、研修の運営、アンケート							
	よいのかを講義とグループワークを通し							
	て考えた。	導入レク	リエーション	γ				
		「現場	で使える手	遊び」とチームを実感する「サイン伝達ゲーム」				
	【講師】	グルーフ	゚゚ヷーク:「チ	ム力が発揮できないと感じるのはどんな時?」				
	大槻繁美			口"と課題達成の関係」				
	(よこはまユース総務部長)	まとめ:「	メンバーの	力を理解し支援する(聞いたこと・やったことを確かめる	3]			
				ンバーが存在し、その一人ひとりが自分の内にある考え	_			
				共有し理解しあう姿勢を持ち続けることがチーム力を高				
				再認識した。				
		いをメンハ	バー相互で:	共有し理解しあう姿勢を持ち続けることがチーム力を高				

					木吥			
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研	修の充実 指	1					
日時/回数	8/2(金)10時~12時		場所	横浜市青少年育成センター				
対 象	当法人の運営する18キッズの指導員		参加者	19人				
事業目的	・小学校の学級運営との共通点、相違点を	·踏まえ、放課	後キッズク	フラブ運営のポイントを確認する。				
	・小学校教員の児童対応方法を学ぶ。							
	・特別な支援を要する児童への対応策の選	銭択肢を増や	す。					
実施内容	・キッズクラブの現場が抱えている日常的							
	な課題を取り上げ、具体的な児童の対		案作成(T	OSS構浜サークルと協働)				
	応について、小学校教員の実践事例等							
	を学んだ。	【当日】	/H() //H L	1.200				
	・小学校教員や指導員同士での意見交	·研修の運	堂					
	換を通してキッズクラブの現場でも役立	·研修内容						
	つ対応法を考えた。			景ですぐできるアイスブレイク				
	【共催】			な子への対応」				
	TOSS横浜サークル(現職教員を主メン			い児童、集中力のない児童への対応				
	「000人人」			激しい児童への対応				
	ハーとした日エチョッ・ノル。改業でチート 級経営の方法などの学習会や情報交換			家といえまっての対応 場を目撃できなかった場合の対応				
	被社呂の万法などの子旨去や情報文揆 を行っている。)		ブルの現場 答、話し合し					
					11			
				指導方法などについて、小学校教員の視点からア	トハイス			
	TOSS横浜サークル 小学校教員5人	をいただし	\ 75₀					
事業名	放課後各事業に地域の方が参画しやすい	運営の確立	高校生イ					
日時/回数	7/25(木)~8/24(土)		受入先	長津田小キッズ、秋葉小キッズ、宮谷小キッズ、				
				寺尾小キッズ、笹野台小キッズ、桜井小キッズ				
対 象	高校生、大学生、専門学校生		参加者	18人				
事業目的	・子どもたちと学生の相互に良い経験や学び							
	・放課後キッズクラブを学生の活動の実践の	の場とし、教育	育機関のニ	.一ズに応える。				
	・インターンシップ実習/学生の職業に対す	る理解や関	心を深め、	自分の適性や将来を考えるきっかけにする。				
実施内容	【高校生インターンシップ】	【実習受入]					
	・高校生のインターンシップ実習を受け入	·事前研修	(ガイダン)	ス) 7/25(木)、7/26(金)				
	れた。	ボランテ	ィア活動、	インターンシップの目的・意義の理解				
	【ボランティア実習】	キッズク	ラブの概要	、子どもとの関わりについて				
	・高校生インターンシップ受入とあわせ、	実習先0	り決定、紹	介				
	教員や保育士、看護師などを志望して			・ したいこと、守ってほしいこと				
	いる大学生、専門学生を対象としたボラ			・8/21(水)の間、2~5日間				
	ンティア実習を受け入れた。		尊、振り返り					
	※インターンシップ受入(1キッズ)			土)※ボランティア研修				
	桜井小			ケーションを深め、子どもと向き合う中から自分自身	∤の気づ			
	※ボランティア実習受入(5キッズ)		ための研修		10000			
	世野台小、長津田小、秋葉小、	【事後】	7 C G J G J F J F	2 0				
			いいプ汗雨	加証明書兼生徒評価票の作成				
	「連携」	127 2	ノリノ / 口玉	加亚切音术工作计画示071F/以				
	【全554							
事業名		田尚の強さ	本年	エジル東米				
サ 未 石 日時/回数	放課後各事業に地域の方が参画しやすい。10月、12/3(火)、1/6(月)、2/5(水)	里呂の唯工_	場所					
				横浜市青少年育成センター				
対象	当法人18キッズの主任指導員	. 7 0 L + III	参加者	18人				
事業目的	・現場スタッフが「地域」をどのように捉えてい	いるのかを埋	解する。					
	・事業実施に向けた課題を把握する。	_						
	・次年度以降、企画案実施の実現性を探る			V. 40.5				
実施内容	<事業計画の変更>	・アンケート						
	年度当初の計画から以下の通り事業	_		え方、実施している地域連携事業について調査した	-0			
	目的を変更し取り組んだ。	・全体ディスカッション 12/3(火)						
	・主任会議を活用して、現場スタッフの持			有、意見交換				
	つ"地域連携"のイメージを共有した。	た。 ・グループワーク① 1/6(月)						
	・具体的な連携事業の企画作業を通し	を通し 地域連携事業の企画						
	て、主任指導員が自分の地域での連携	・グループワ	フーク② 2.	/5(水)				
	の相手先やそのアプローチの方法を考	1	D精査·改.					
	えた。		~					
	I	l						

事業課

事 業 名	放課後児童クラブ中間支援運営補助業務							
日時/回数	10/1(火)~3/31(金)							
対 象	港南区(モデル実施対象区)内の放課後児	量クラブ	箇所	13クラブ				
事業目的	・ヒアリングを実施し、放課後児童クラブ運営	営の現状・課題	夏を把握す	-ేవం				
	・課題を整理し、具体的な方策を市に提案	する。						
	・27年度からスタートする「子ども・子育てす	を援新制度」を	を見据え、	新規事業の立ち上げや横浜市からの受託事業・協働事業				
	の可能性を探る。							
実施内容	横浜市こども青少年局放課後児童育	【放課後児	童クラブ中	間支援運営支援事業】				
	成課から事業を受託した。	・各クラブ運	営主体、	指導員へのヒアリングの実施				
	【事業内容】	・ヒアリング約	詰果を基に	こした具体的な方策の提案				
	・現状の把握	・各クラブに	支援メニュ	ュー周知チラシの配布				
	・課題の整理	・相談窓口用メールアドレスの開設						
	・方策の提案、見直し提案	・運営に関する相談、助言						
	・希望するクラブの事務の軽減	労災申請手続き、常勤指導員採用手続き、出納管理データの作成提供 他						
	・運営に関する助言・代行	· 労務代行						
	・ネットワークづくりの支援	1113.77374		ーワークへの求人				
		・全体交流会の企画、実施 2/17(月)						
		・事業報告書の作成						
		・工作プログラム事例集の編集、配布						
		※H26年度 がら選定さ	き事業を受託するためにプロポーザルに参加したが、残念なた。					

D: その他法人目的達成のための事業

事業名	法人ホームページの改良・管理						
日時/回数	通年						
対 象	市民		アクセス数	287,501件(トップページアクセス数)			
事業目的	 ・ホームページを安全・安定的に運営する。 ・ホームページコンテンツを定期的に更新する。 ・法人として統一感を持ったホームページになるよう管理する。 						
実施内容	法人のPR、主催事業の周知、管理運営施設の情報発信のため、ホームページの安定的な稼働を目指して、セキュリティの強化、サーバ環境の整備、コンテンツの更新を行った。	・ホームペー ・緊急セキ <u>-</u> ・ホームペー ・サーバの/	ージ改良(l ュリティ対 ラジバック 、「一ジョンフ	7理(情報更新・メンテナンス等) レイアウト修正、項目追加等) 衰(4月) アップシステムの構築(12月) アップ(メール含む)(2月) た新サーバへの引っ越しと運用開始(3月)			

総務課総合評価:b 46/60 77%

(A)U·MN C·以音MN U·科英 U·内目 U·/AI						
事業の柱	事業区分全体評価		次年度 第2次評価会議 助言·指示内容等		(I) A ==	
公益目的事業区分	ランク	得点 (30点満点)	方針 (※)	(次年度へ向けた改善ポイント)	総合評価コメント	
D その他 法人目的 達成のた めの事業	С	20/30 (67%)	2	「爆笑!濱つ子寄席」、「平成26年 新春のつどい」とも成功裡に終えたが、両事業とも、もう少し参加者を増やしたい。 ・寄附金、賛助会員に関する業務は事務管理面が整理され、寄附金受領証発行システムを整備できた。・ユースレター、ホームページ等法人事業情報の発信を開始した。今後も読みたくなる編集・発行を期待する。	・法人への理解・協力者の確保等を目的に、寄附金 募集事業や情報紙等発行に取組んだ。 ・「爆笑!濱っ子寄席」、「新春のつどい」はいずれも盛 況であった。 ・寄附金、賛助会員に関する業務は事務管理面が整 理され、寄附金受領証発行システムを整備できた。	
経営·業務姿勢	а	26/30 (87%)		・数年来の課題であった寄附金、賛助会員制度の課題を整理し、法人運営の基盤を強化した。 ・法人全体を常に見渡し、職員育成、管理運営体制の改善に取組んでいる。 ・法人の総合的な広報宣伝計画が必要である。	・法人の総合的な広報宣伝計画策定と合わせ、法人全課で寄附金・賛助会員募集・獲得に取組むこと。 ・ボランティア活動の相談は、法人内での情報共有の 仕組みを検討してほしい。	
総合	b	46/60 (77%)				

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点(30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク(評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

D:その他法人目的達成のための事業

	中川人切上水のサナ 井叶人旦州中ナムも中川人州中							
事業名		の再構成 青少年育成寄附金募集事業 第53回 爆笑!濱っ子寄席(収益事業会計)						
日時/回数	11/15(金) 8時~21時	場 所 関内ホール 大ホール						
対象	市民	参加者 1717人						
事業目的	・法人事業について市民・企業・連携団体等に対し協力、理解を促す ・寄附金を募集する							
実施内容	青少年育成事業実施の原資(寄附	【事前準備】						
	金)の募集を目的として、伝統芸能である	・実行委員会の開催(4回)						
	落語を通して、楽しみながら青少年育成	・出演者調整、広報など実施までの運営事務						
	を支援する機会として寄席を実施した。	・協賛広告、観客の募集と調整						
	実施にあたり、実行委員会を設置して	【当日】						
	企画・運営を行った。	・寄席演芸(出演者:柳家 権太楼、三遊亭歌之介、テツandhモ 他)						
	·入場料:S席3,000円 A席2,500円	·募金活動						
	・ボランティア:20人	【事後振り返り等】						
	・爆笑!濱っ子寄席実行委員会:12人	・事業報告(決算含む)と実行委員会による反省会実施						
	・主催:横浜中法人会、よこはまユース	・次年度下準備(会場押え、出演者窓口打ち合わせ、等)						
	・共催:こども青少年局、横浜青年会議所	【後援】						
	·協賛企業:48社	横浜金沢ロータリークラブ、横浜港南台ロータリークラブ、横浜みなとみらいライオンズクラブ、						
		横浜南ロータリークラブ、横浜ロータリークラブ						
事 業 名	- - 寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の							
日時/回数	□ 同时 □ 回 □ □ □ □ □	体 裁 A4版、カラー両面印刷						
対象	継続寄附者、事業協力者、施設来館者等							
事業目的	・法人の活動をカラー写真やオリジナル取材							
7 7 7 117	・法人活動に関心・理解を持っていただき、							
	・寄附金等の活用実績および報告を行う。	可削业分末が木と同いる。						
実施内容	法人事業を紹介する情報紙を発行し	・法人事業、指定管理施設事業等法人運営に関する活動を、カラー写真やオリ						
大地的台		ジナル取材記事によって知らせる情報紙を作成し、継続寄附者、事業協力						
	'~。 取材、制作、編集は法人内で行い、印	者、各施設来館者学校関係、地区センター等に配布。						
	刷のみ外部に業務委託した。	は、石油成木品省子代表が、地区とファー寺に配布。 ・通常の活動の他、寄附金等の活用実績および報告も行いPRする。						
事業名		の再構成 賛助会員制度を含む寄附金制度の充実						
日時/回数	前年	場所「市内全域						
対象	市民	物 加 印码主领						
事業目的	1 - 4	青少年育成寄附金募集及び賛助会員を獲得する。						
	・賛助会員・寄附金及び活用実績報告を行	ŢÒ.						
実施内容	・寄附金の管理(経理・運用)	・・						
	・会員・寄附者データベースの管理							
	・よこはまユースレター	・濱っ子寄席での募金活動及び収益の繰り入れ						
	・第53回 爆笑!濱っ子寄席	・新春のつどいでの募金活動 ・運用活動報告チラシ作成						
	│ ·新春のつどい ·募金箱の管理(休止中)	・連用活動報告アプグドル ・寄附金募集案内等の発送(7月:払込票800通)						
	・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	央坳五只四八甲未베兀	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
		- 寄附金受領証明書発行、発送						
事業名	- 平成26年 新春のつどい	ラロエンが出り日かけりから						
日時/回数	1/31(木)18時30分~20時30分	場 所 ホテル横浜ガーデン						
対象	賛助会員及び寄附金・事業協力者、関係							
事業目的	・新たな事業展開を行っている当法人のア							
		・職員相互の交流・親睦を図り、情報交換の場とする。						
	・よこはまユースを支えていただいている方							
実施内容	法人関係者相互の親睦・交流の場とし	【事前準備】						
	てパーティーを実施した。	・寄附者、事業協力者、招待者ピックアップ、企画案作成、会場と調整、案内状						
	· 賛助会·寄附金制度の紹介·事業報告	発送、出席者の把握						
	・感謝状の贈呈	【当日】						
	·乾杯、歓談、交流	・永年寄附者、事業協力者等に感謝状を贈呈						
	・アトラクション(横浜やっしゃ鯛)	・一年間の法人の取組みをプロジェクター投影により可視的に紹介						
	※青少年交流センターで、青少年を対象	・立食式パーティーで、賀詞交換、寄附者・関係者・職員間の親睦・情報交換						
	に太鼓やコマなどの日本の伝統芸を指	【事後】						
	導している。	・よこはまユースレター、ホームページで当日の様子を発信						

平成25年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 青少年育成センター総合評価:b 90/120 75%

事業の	の柱	事業区分	全体評価	次年度	第2次評価会議 助言:指示内容等		
公益目的	, 事業区分	ランク	得点 (30 点満点)	刀軒 (次矢度へ向けた改美ポクル)		総合評価コメント	
A 青少年活	あ 施設 貸与	b	22/30 (73%)	2	・利用率、利用料金収入とも改善傾向にある。 ・利用促進事業は初めて市と共催し、親子連れが多く 来場した。今後の利用者増に期待する。	・稼働率・利用料金収入とも対前年度比で向上している。 ・気持ちよく利用できるよう、窓口応対、速やかな室内 小破修繕など努力している。	
動を支援する事業		С	19/30 (63%)	2	・ホームページの情報がこまめに更新されているが、 情報にたどり着きにくいページがあり、改善が必要である。 ・次年度は、青少年育成に関する団体とのネットワーク 形成について、検討・企画すること。	・ホームページの情報にたどり着きにくい。 ・ボランティア活動に関する相談は、法人内での一元化 を検討すること。また、法人以外での活動情報を充実 させること。	
B 青少年を 支える育 材を育業	い 講座 せ う 成	b	25/30 (83%)	2	・人材養成研修・スキルアップ研修とも体系的に整理され実施されている。 ・シリーズ講座を部分参加も可としたり、研修を1日間にまとめたり、遠方から参加しやすくする等開催方法に工夫があった。 ・「発達障がいの理解」は放課後事業現場スタッフのニーズが高く、次年度は放課後事業課へ移管する。	・整理された研修体系に基づき、計画的に研修・講座 を提供している。	
経営·業務姿勢		b	24/30 (80%)		・稼働率向上、利用者の視点に立った施設管理に常に心を砕いている。職員全員に応対マナーが行き届いている。 ・青少年に関わる成人を対象とする人材育成について、適切にニーズを把握し研修を企画実施している。	・気持ちよく利用できる施設を維持することが施設の 稼働率向上につながる。引続き円滑な施設運営を 期待する。 ・ボランティアに関する相談情報提供事業は、3施設・ 事業課で共有システムを検討し、次年度には実現 できるよう取り組むこと。	
総食	台	b	90/120 (75%)				

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点(30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク(評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事 業 名	諸室及び物品の貸出					
日時/回数	通年		場所	横浜市青少年育成センター		
対 象	青少年、指導者·育成者、市民			4,709件		
事業目的	・活動団体が安心して研修・会議を運営できる	がよう、施設	の利用環	境を整える。		
	・着ぐるみなどの備品を整備し、貸し出すことにより、地域の青少年活動を支援する。					
	・印刷作業の場や機材を利用しやすい環境にすることで、活動団体の事務所機能を支援する。					
	・出来る限り団体の要望に応えることで、活動を	を支援する	0			
実施内容	青少年育成活動団体の活動を支援する・	会議·研修	室等の利	用受付及び貸出し		
	ための会議の場(研修室等)や活動物品 ・					
	の貸出、及び資料印刷等事務局機能を	施設の安全	全·衛生環	環境管理 ・データベースによる予約管理		
	支援した。(プリントルーム)・	利用統計(の作成、分	}析 ・利用促進のためのPR(研修室、着ぐるみ) など		
		新規事業】				
		・6月よりラミネートの利用サービス開始。				
		・10月~11月に利用者アンケートを実施し、利用者がどのような意識で育成セン				
		ターを利用しているのかを調査した。				
		【防災関係】				
		・5月、3月に、利用者協力のもと、地震と火災の発生を想定した避難誘導訓練				
				肖防職員立会で避難訓練 7月:AED講習)		
	-	利用状況	-			
	-			本(前年度最終:444団体)		
				+ (前年度:4,498件)		
				前年度:66.4%)		
				8.5%(前年度117.8%)		
				I業収入:129.5%(前年度141.5%)		
事業名	利用促進に向けた取り組み 利用促進事業「	きずな★夏				
日時/回数	8/20(火)、21(水)両日とも10時~16時			横浜市青少年育成センター		
対 象	横浜市在住の小学生、中学生とその保護者		参加者			
事業目的		(保護者や.	児童·生徒	も)が気軽に参加できる事業を実施し、事業とその広報を通		
	じ育成センターのPRを行う。					
実施内容				-でプログラムを分担し実施した。		
				旦当:育成センター(かき氷・綿あめ・ポップコーン等)		
		・自治会町内会クイズ【第2研修室】担当:市民局				
	.,	・缶バッジ作り【第2研修室】担当:市民局				
				担当:市民局		
				ンターのパンフレットや講座のチラシ等を配布した。		
				修室の一部と和室を休憩スペースとして開放した。		
	動推進課、地域防犯支援課)	※ミーティン	グルーム	はスタッフ用控室として使用した。		

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	青少年育成に関する相談、ホームページ等	等を使った情報提供 ホームページ等を使った情報提供
日時/回数	通年	場 所 横浜市青少年育成センター
対 象	青少年活動者・育成者、または青少年、保	護者等
事業目的	・青少年や青少年を取り巻く環境に対する。	関心を喚起する
	・青少年活動に関わっている・関わろうとして	ている人にとって有効な情報を手軽に入手できるように情報を整理する
	・施設や情報スポットの利用促進を図る	
実施内容	ホームページや掲示板などを通じて情	【通年】
	報を発信し、間接的に活動を支援すると	①助成金、他施設の講座・研修の情報の収集とホームページや掲示板による発
	共に、情報・相談機関としての認知を高	信(月2回程度)
	める。	②青少年に関わる時事情報や統計データの収集とホームページや掲示板によ
		る発信(週1回程度)
		③掲示板やチラシラックを使った助成金、講座・研修、ボランティア情報の掲示
		(月4回)
		④内容の見直しや、改善(随時)
		・中学生~大学生対象の短期ボランティアに特化した情報ページを6月から
		開設(月2回)
		・相談窓口PRページの作成
		・青少年に関するトピックを閲覧できるように改善(過去に報道された記事の著
		作権の関係で現在は非公開)

事 業 名	青少年育成に関する相談、ホームページ等	を使った情報提供 青少年育成に関する相談				
日時/回数	通年	場 所 横浜市青少年育成センター				
対 象	青少年活動者・育成者、または青少年、保	護者など 件 数 66件				
事業目的	・青少年育成活動などに関する問い合わせや	や相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次窓口」として開設する。				
実施内容	・相談窓口の開設(電話・メール・窓口)	①相談窓口の開設(通年)				
	※相談受付は、「解決」することが目	②相談の記録化と分析(ケース検討、ニーズ・課題等の把握)				
	的ではなく、「一緒に考える」ことを方	③受付資料の整理(窓口情報や、問合せの多い情報のファイリング)				
	針とし、スタッフ研修で共有した。	④スタッフ研修と情報共有				
	・スタッフ研修の実施(スキルアップ)	・研修会の実施 8/16(金)				
		対応の姿勢について、相談機関を知る、相談対応のワーク 他				
		・月1回、コーディネーター会議においてケースカンファレンスを実施				
事 業 名	青少年育成に関する団体とのネットワーク形	が成 青少年育成活動情報交換会				
日時/回数	6月および9月18時30分~20時(年2回)	場 所 横浜市青少年育成センター				
対 象	青少年育成活動をしている団体	定員				
事業目的	・情報交換を通じて団体相互の理解と活動の充実を図る。					
	・団体の協働事業のきっかけを提供する。					
実施内容	青少年育成に関する団体(行政含む)	各団体の活動プログラムの情報・意見交換。				
	のゆるやかな交流・連携を図るため、年2	第1回情報交換会を6月、第2回は9月頃を予定。				
	回程度の情報交換の場を提供する。	※諸般の事情により中止				

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

	ツ年を文える人材を育成する事業 い・講座、セミナー、育成						
事業名	青少年人材養成研修 実践から学ぶ青少年の居場所づくり						
日時/回数	9月~10月(全5回)毎回18時30分~20時	等30分		横浜市青少年育成センター			
対象	青少年育成者、市民利用施設のスタッフ		参加者				
事業目的	・青少年育成者、市民利用施設スタッフの		_				
	・市民利用施設等のスタッフが青少年の居						
実施内容	専門家でない、さまざまな立場から青						
	少年に関わり続けている人の"実践"を学			:人の役割とは」「子ども・若者と"地域の居場所"の可能性」			
	び、自分のフィールドにあった支援や関わ	_		見学 9/20(金) 参加者:14人			
	るヒントを見つけていく連続講座を実施し			ったしの役割」と青少年交流センターの見学			
	た。			4(金) 参加者:17人			
				活用した"青少年の居場所"ができるまで」			
	【講師】			/10(木) 参加者:11人			
	導入/ふり返り			づきを共有し、「居場所づくり」への関わり方を考えた。			
	萩原建次郎 氏(駒澤大学教授)			の実践見学) 9/27(金) 参加者:13人			
	実践見学·研修		•	少年広場			
	阿久津強(青少年交流センター)			から希望者を募り実施) 参加者:1人			
	松田利恵(青少年交流センター)	子どもたちと関わる現場実習と、日誌・対面によるふりかえりにより構成。					
	石井淳一 氏(ことぶき青少年広場)	〈実習先〉青少年交流センター 〈指導〉青少年交流センター職員ほか					
	酒井和恵 氏(NPO法人 大森コラボレーション)			k)、2/4(火)、6(木)、9(日)(4日間)			
事業名	ユースコーディネーター養成研修 ユースコ						
日時/回数	12月~1月(全4回)毎回9時30分~11時			横浜市青少年育成センター			
対象	青少年との関わりがあり、青少年支援に関心		参加者	170人			
事業目的	・青少年が抱える困難な課題について実態		-				
	・支援機関や社会資源等の役割や仕組み						
		_	参加者自	身が考えることができ、実践(必要な時に、必要な支援へつ			
	なげることができる)に結び付けるきっかけ						
実施内容				たちを取り巻く課題とリスク ~気づき・支え・つなぐ」			
	止め、適切・必要な支援についての知識			ちを知る、相談機関を知る、つなぎ方について 他)			
	を身につけることで、課題への早期対応が	・ワーク〈気づき・つなぎについて大切なこと〉 参加者:42人					
	できる人材の養成研修を実施した。	②12/19(木)「児童相談所の仕組みと地域の役割-そのサインをみつける・つかまえる・ひきよせる」					
	・支援機関・団体の関係者から、それぞれ			と役割、虐待事例について、他機関との連携 他)			
	の取組と地域に求める役割について話し			わると気持ちも変る 他〉参加者:49人			
	を聞き、参加者の実践に結びつけた。			ま-課題やリスクを持つ子どもたちと学校の支え、地域との連携」			
				おけるいじめ・不登校について、リスクを考える他〉			
	【講師】	体を考える〉参加者:37人					
	①守田洋 氏(横浜市青少年相談センター)						
	②吉沢賢治 氏(横浜市中央児童相談所)			困と生活状況・支援と課題、地域との連携 他〉			
	③宮生和郎 氏(横浜市教育委員会)			への効果的な手の引き方〉参加者:42人			
	④中野しずよ 氏(ハトロ法トワーカーズわくわく)	【共催】横浜	市こども	青少年局 【企画協力】横浜市青少年相談センター			

7/L0 /X	ム血が回因人のこののユース	7 /N TM		青少年育成センダー	
事業名	スキルアップ講座 広報・記録のためのデシ	ジカメ入門講座	<u> </u>		
日時/回数	6/7(金)9時30分~12時30分		場所	横浜市青少年育成センター	
対 象	青少年に関わる活動や団体・施設スタッフ		参加者	34人	
事業目的	・参加者が、広報や記録における効果的な	写真について	理解する。		
	・デジタルカメラの特性を理解し、広報や記	録のために効	果的に使	用できるようになる。	
実施内容	全ての人に分かりやすく効果的な広報	【当日の流	れ】		
	活動を行うために、活動内容を効果的に	①講義			
	伝える記録写真の撮り方や見せ方など	デジカメの	の特徴を理	B解する、撮影の基本を学ぶ、広報や記録に効果的な写真	
	を、デジタルカメラの特性と合わせて学ぶ	の撮り方	等		
	ことを目的とした、実践型の講座を実施し	②フィールト	ドワーク		
	た。	馬車道周	周辺で、講	義で学んだ技法を実践し、写真撮影	
		③実習			
	【講師】	参加者が撮影した写真を題材に、写真処理の方法、構図の確認や評価			
	大向哲夫 氏	【参加者の属性】 自治体職員、市民利用施設職員、子育て支援拠点職員、NPO、青少年活団体(ボランティア、子ども会等)他			
	(写真家・よこはまユース理事)				
		※フィー	ルドワーク	で使用するカメラは各自持参	
事業名	スキルアップ講座 発達障がいの理解				
日時/回数	7/3(水)9時30分~12時		場所	横浜市青少年育成センター	
対 象	放課後児童施設、社会教育施設など青少年が集う	場のスタッフ		46人	
事業目的	・発達障がいの子どもが、関わりの中で育つ			1271	
3.841	・他の施設の事例を学び合うことで、対処法				
実施内容	発達障がいの子が、他の子どもと関わ				
7(%51) [り合う中で育つために、スタッフはどのよう				
	な働きかけをしたらよいかについて座学と	空学と ・・発達障がいの理解(子どもが経験している困難と子どもへの対応)			
	グループワークを通じて学ぶ講座を実施				
	した。	②グループ			
	【講師】	③質疑応答			
	家田三枝子 氏	【事後】			
	(横浜市教育委員会事務局 指導部特別	·講義内	容をホーム	ムページに掲載	
	支援教育課主任指導主事)				
事業名	スキルアップ講座 日赤救急法講習会〈共	:催事業>			
日時/回数	資格継続講習会:8月 養成講習会:9月		場所	横浜市青少年育成センター	
対 象	市内在住・在学・在勤の青少年育成活動	ならびに興	参加者	120人(延べ)	
刈	味関心のある高校生以上の人		多加伯	120八(進入)	
事業目的	・役割を分担することにより、青少年活動団	体を支援する	5.		
	・緊急時の対応についての知識や技術を習	得する。			
実施内容	活動時に怪我や病気が発生した場合			講習会】8/25(日)9時~16時45分	
	の応急的な救護方法を身につけるための			対訂のあった学科・実技の伝達など	
	講習会を実施した。	②【救急法			
				引・祝)、22(日)、23(月・祝) いずれも9時~16時45分	
	【共催】			Dを用いた徐細動、怪我の手当(止血法、包帯法、固定	
	ボーイスカウト横浜みなと地区協議会		送法など		
				崔団体として、広報(HPほか)、受付の一部、準備補助、当	
		日の運営	営補助を担	当。	
事業名	スキルアップ講座 子ども・若者の力を引き				
日時/回数	①10/9(水) ②10/16(水)(全2回)両日1		場所	横浜市青少年育成センター	
対象	青少年育成活動に関わる方や関心のある。	人、コーチン	参加者	23人	
刈 涿	グに興味のある人		多加伯	20/	
事業目的	・青少年とより良いコミュニケーションを図る	ための技術を	身につける	3.	
	・青少年育成に携わっていない人に対して、				
実施内容	子ども・若者に寄り添いながら、成長を	①コーチング	グとは何か	(講義)、コーチングスキルの実習	
	支えられる青少年育成者となるために、	・コーチン	/グの基礎	理論を学び、実際にロールプレイで練習した。	
	コーチングの技術を学ぶ連続講座を実	②実践結果	見の検証、	スキルアップ	
	施した。	·日常生	活の中で、	. 1週間スキルを実際に使い、使ってみてどんなことが起き	
		たのか	結果を持ち	5寄り、具体的な検証を行った。さらに、互いにスキルを磨き	
	【講師】	合い、ス	スキルアッ	プを目指した。	
	川本正秀 氏				
	(共育コーチング研究会 代表)				
_		_			

				月少千月以ビンス		
事業名	スキルアップ講座 子ども・若者の成長を支	援する~集団	団活用術~	~		
日時/回数	2/22(土)9時30分~17時30分		場所	横浜市青少年育成センター		
対象	放課後児童施設、社会教育施設など青少年が集う場 のスタッフ			16人		
事業目的	・青少年の集団を観察する時の視点を学る	に相互関係な	ぼど)。			
	・青少年支援における集団活用について理	解を深める。				
	・自己のふり返りやスタッフ間で情報を共有	するための記	録の取りた	うについて理解を深める。		
実施内容	集団を通じて、青少年が成長できるよ	①ワークショ	ョップ:			
	うに支援する方法を学ぶ講座を実施し		ケーション	ワーク		
	た。	②ワークショ	ョップ:			
		・グルーフ	プワーク、ク	ブループプロセスと観察		
	【講師】	③講義:実	践の記録・	省察		
	杉野聖子 氏	・実践で	活用できる	記録の取り方と省察について学ぶ		
	(江戸川大学総合福祉専門学校専任教員)					
事業名	青少年を支える層を拡大するための講座・	研修 シンポ				
日時/回数	1/11(土)13時30分~16時30分		場所	横浜市青少年育成センター		
対 象	青少年活動または地域活動に関心のある。	ل ا	参加者	60人		
事業目的	・現在の青少年をめぐる課題(自立、障がし	ハ、貧困、非行	行など)に1	ついて発信し、地域における青少年を支える層の拡大を図		
1	්					
ı				者が、子どもの現状や社会に適応していくために必要とされ		
	る支援や課題などを問題提起することで、	地域の大人が	が子どもた	ちに何が出来るかを考えるきっかけをつくる。		
実施内容	①3人のパネリストにより、活動報告を行					
,	い、参加者(会場)と意見を交換した。					
,	②シンポジウムの周知や報告も積極的に			奈川区国際協力ネットワーク)		
1	行い、参加者以外にも、情報の発信を			₹NPO法人文化学習協同ネットワーク)		
1	行った。	【コーディネ				
1	③終了後、会場を開放し、参加した支援 者同士の意見交換・名刺交換の場とし	相川良	子氏(NPO	法人ピアサポートネットしぶや理事長)		
	た。		チクラブ等:	を通じて資料提供をし、当日の取材を依頼したが取材はな		
1		かった。				
,				スカッションの内容を要約したものをホームページに掲載し、		
				で見えた現状や課題を発信した。		
事業名	青少年を支える層を拡大するための講座・	研修 馬車道				
日時/回数	①3/25(火)、②30(日)(全2日)		場所			
対象	横浜市在住または在勤の20~30歳代の社		参加者	5人		
事業目的				B. 育成する機会とする。※今年度は試行的実施とする		
	・自立(社会的・経済的)はしているが、孤立					
	・H25年度は次年度以降の企画に関わる人					
実施内容	・社会人が気軽に参加できる事業を実施			19時~20時(※3/20は申込者がいなかったため中止)		
	し、参加をきっかけに地域活動への関	・ホフンァ	イア沽動(の説明と研修、ワーク		
	心を掘り起こすための講座を試行的に					
	実施した。	②【活動】3/30(日)9時30分~13時				
	・参加者の関心等についてヒアリングによ					
	り把握した。	※みなと体験プログラム(事業課の実施事業)は荒天のため、朝の時点でイベ				
	・次年度の実施に向けた協力者を募っ			となったため、安全の配慮から「カレッジ」としての活動およ		
ı e	」た。	ひふりた	かえりは甲	止とした。1名は中止の連絡が間に合わなかったため、職		
		므니니	+ 1 - /	のみ活動に参加した。		

平成25年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 青少年交流センター総合評価:b 110/150 73%

+ 404	(※)()・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
事業(,	事業区分全体評価 写之ク 得点 分 ランク (30 点満点) (※) 第2次評価会議 助言・指示内容等 (次年度へ向けた改善ポイント)			総合評価コメント		
A 青少年活	あ 施設 貸与	b	21/30 (70%)	(%)	・稼働率向上を目指し、施設空き情報やEメール申込など実施。各部屋の利用を柔軟にし、利用件数を伸ばす工夫をしている。	・稼働率を若干向上させた。引き続き気持ちよく利用できる施設を提供すること。	
動を支援する事業		b	21/30 (70%)	2	・ロビーワークを通じて把握したニーズはスタッフ間で 共有すること。業務日誌を有効に活用すること。 ・施設・課間で相談情報の共有・活用を検討すること。 と。法人以外でのボランティア活動の情報収集の充 実を検討すること。	・ロビーワークを通じて把握した情報は確実にスタッフ間共有を図ること。 ・ボランティア活動に関する相談は、法人内での一元化を検討すること。	
B 青少年を 支える人 材を育業 する事業	い 講 さ 育 成	b	21/30 (70%)	2	・「青少年の居場所づくり」全国フォーラムは、開催周知時期が遅れた。次年度は、フォーラムの10周年であり、全国発信の重要な機会ととらえ準備すること。 ・青少年委員会は活動経験が少ない委員が増え、委員会運営に影響があり、改善に向けた指導が必要である。	・「青少年の居場所づくり」全国フォーラムは、次年度の10周年に向け早めに準備を進めること。 ・青少年委員会は、サポートが必要なタイミングを見逃さないこと。	
C 青少年に体 験機会や活 動の場を提 供する事業	体験 活動	b	23/30 (77%)	2	・ジョブカフェで紹介する職種に、動物に関わる仕事 (獣医、動物看護士)や造園技師なども検討すること。 ・3階プロア活用で事業の幅や実施方法が広がった。 ・寄附金を財源に陶芸用電気窯を購入し、子どもたち や働く若者向けに陶芸教室を開催した。 ・学習マイプランは、学校や相談支援機関に認知され てきた。中学生に利用しやすい時間帯へ見直してほ しい。	・3階床が利用できるようになり、新たに陶芸用電気窯も設置した。充分に活用すること。 ・「学習マイプラン」は、中学生が利用しやすい時間設定を再考してほしい。	
経営·業	務姿勢	b	24/30 (80%)		・成人の施設利用団体と施設内の子ども達との関係を作るなど、家族、教師以外の大人とふれあう貴重な場所を作り出している。 ・3階床の積極的な活用で、事業に幅を生み出した。 ・ボランティア募集は、施設内を活動範囲としているが、施設外も対象に加え、合わせて法人内3施設で情報共有できるよう検討すること。	・様々な事業を企画実施している。情報共有がおろそかにならないよう注意すること。 ・ボランティア活動の相談は、法人内での情報共有システムを検討してほしい。	
総食	슼	b	110/150 (73%)				

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点(30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク(評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事 業 名	諸室の貸出・受付			
日時/回数	通年		場所	横浜市青少年交流センター
対象	青少年、指導者·育成者、市民		件数	10,382件
事業目的	・利用に関する情報を広く提供し、多くの青々	少年及び団体	に活動の	場を提供する。
	・活動団体が施設利用を通じて、安心して自	自由に活動が	できるよう	支援する。
実施内容	青少年が気軽に集まり、仲間との時間を過ごすことのできる場の提供、団体に対する活動場所の提供、利用環境の整備を実施した。	・施設の安全・予制を受ける。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	全、衛生環 書による利 よる防火割 11/25() 物の点検8 故障に対す	開境管理 用者の声の徴集(12/18(日)~28(土)アンケート実施) 練10/16(水)、3/19(水) 引) 8/12(月)、2/10(月)

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	ロビーワークによる日常的な相談・助言					
日時一日数						
	通年 まかた(小光生 また物)					
対象	青少年(小学生~青年期)			84件(相談件数)		
事業目的	・センターを利用する青少年と日常的にかん					
	・ロビーワークを通じて、青少年の様々な欲					
実施内容	スタッフが来館する青少年一人ひとり	_		ペースを利用する青少年達と日常的な会話を通じて積極		
	に寄り添い、青少年の声かけや何気ない	的に関われ				
	会話から、潜在的な課題や悩みを引き		-クのニー	ズを具現化した事業として「ふらっとカフェ」を年4回実施し		
	出し、青少年の成長を支援した。	た。		5 - 18+ 4 5-11 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 2		
				タッフが青少年とかかわる人材のための研修に参加した。		
		_		したケースをスタッフ間で共通認識するため、日誌の記録と		
				ター会議を実施した。		
		(5)スタッフの	働きかけ	により、利用者間で各活動に対する相互理解を深めた。		
事業名	青少年活動相談コーナー					
日時/回数	通年			横浜市青少年交流センター		
対 象	青少年(小学生~青年期)		相談者			
事業目的	・青少年の活動相談への対応を通じて、青					
実施内容	交流センターでの活動を中心とする、	_		と活動相談の対応		
	青少年活動に対する相談およびコーディ		および電話での活動相談に対する対応			
	ネートを行った。	③相談者が	. — .			
				活動情報の提供		
				ドランティア活動の機会の提供(夏期青年ボランティア、青		
			会、こども	の日まつりボランティア等)		
事業名	「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」	の運営				
日時/回数	2/20(木)9時30分~11時30分		場所	横浜市青少年交流センター		
対 象	市内の青少年の地域活動拠点を中心とす	る青少年の	参加者	8人		
	居場所関係者					
事業目的		り青少年の地域	域活動拠	点を中心とした青少年の居場所施設等における活動が、よ		
	り充実することをめざす。					
	・市内の青少年の地域活動拠点や居場所の	のネットワークの	の要として	の役割を担う。		
実施内容	・横浜市内の青少年地域活動拠点、	【当日】				
	ユースプラザ、プレイパーク、相談セン	①座談会:	談会:テーマ「青少年の地域活動拠点の歩みと今」			
	ターの施設長および職員に、課題やノウ	長および職員に、課題やノウ ②座談会をうけての情報交換				
	ハウなど情報共有の場を提供し、活動	③次年度の青少年の居場所・地域活動拠点連絡会について				
	支援を行った。	【活動発表者】				
		・ことぶき学童保育 ことぶき青少年広場 石井淳一 氏				
		・つづきMY	プラザ(都	筑多文化・青少年交流プラザ)館長 林田育美 氏		
		【出席団体】				
				点運営団体(4団体)、ユースプラザ運営団体(2団体)、		
		プレイパーク	運営団体	(1団体)、市青少年相談センター		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業 名	夏期青年ボランティア							
日時/回数	7/22(月)~8/24(土)13時~18時		場所	横浜市青少年交流センター				
対 象	高校生~24歳まで		参加者	28人				
事業目的	・ボランティア活動を通じて青少年の協調性 ・異年齢間交流の場を提供する。							
実施内容	フリースペース及びレクリエーション 【事前準備】							
	ホールにおける子どもたちの遊びや勉強							
	のサポートなどの活動や、夏休みイベント							
	の補助、活動のふりかえりによる体験の							
	共有を通じて、協調性や社会性、自主性	【当日】						
	を育む機会を提供した。			教室・料理教室)の進行補助				
				バレクリエーションホールにおける子どもたちの遊びや勉強				
		サポート、話し相手・ボランティア、班ごと(1日2班)の活動ふりかえり ・レクホールでの白き企画「フットサル教案」 8 / 9 (全)						
		・レクホールでの自主企画「フットサル教室」 8/9(金) 【事後振り返り等】 ・事後研修会(全活動終了最終日)活動全体のふりかえり 8/25(日)						
		・ 事 後 研修 ・ ボランティ						
15 # 夕	「妻小左の兄担託ベル」人団フェーニ 1.20		ノ同の人					
第 業 名 日時/回数	「青少年の居場所づくり」全国フォーラム20 2/15(+)14時。19時20分 16(円)0時204		場所	⊭ 災古書小在六済よい力				
口时/ 凹剱	2/15(土)14時~18時30分、16(日)9時30½ 青少年教育関係職員、青少年団体指導者	•	物川	横浜市青少年交流センター				
対 象	育少年教育関係職員、育少年団体指导名学生、青少年活動に関心のある人	1、'坝九伯、	参加者	130人(延数)				
事業目的		ル光/理培ュ	コロオの相	「 『「「「「」」 『「「」」 『「「」」 『「」」 『「」」 『「」」 『「				
尹未日的	・「青少年の居場所づくり」をテーマとした意							
実施内容	「青少年の居場所づくり」をテーマとした			ることで、月少午を文える八州を月成する。				
天心的台	全国フォーラムを実行委員会を組織して			ニ向けた説明今の関係				
	主曲シャークムを矢打委員会を組織して実施した。	・新規実行委員獲得に向けた説明会の開催 ・実行委員会の開催(月1~2回程度)、広報など実施までの運営事務						
	火ルビリニ 。	・美打安員云の開催(月1~2回住及)、仏報など美施よでの連呂事務 【当日】						
	【共催】	テーマ:「僕の最高の居場所一多様化する若者と居場所づくりの『いま』ー」						
	日本都市青年会議	・統括講演&パネルディスカッション・コーディネーター:萩原建次郎氏(駒澤大学教授)						
		(1)パネルディスカッション						
	【分科会事例報告協力団体】	・パネリスト						
	ジュニア&ユースコミュニティCoCo	大河内基樹 氏(ジュニア&ユースコミュニティCoCo代表)						
	NPO法人せたがやっこ参画推進パートナーズ	加藤貴嗣 氏(元·小平市青少年委員)						
	さんさん広場	櫻井龍太郎 氏(NPO法人せたがやっこ参画推進パートナーズ理事長)						
	青少年ステーションCAPS	②分科会(1~4分科会)						
	№0法人アクションポート横浜	・第1分科会:若者にとっての「居場所」ー世代間ギャップをこえてー						
		・第2分科会:「居場所」のつくりかた						
		・第3分科会:居場所スタッフの関わり方						
		・第4分科会:若者と社会参加一居場所に必要なもの一						
		③交流会(
		④統括講演:「子ども・若者の『居場所』の現在と未来(今とこれから)」						
		⑤全体会 【事後長以短は第1						
		【事後振り返り等】						
		・実行委員会ふりかえり(準備・当日運営について) ・報告書作成						
业 夕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	和口首TF	PX.					
事業名 日時/回数	社会教育実習生受け入れ 8月、10月		場所	⊭ 浜古書小ケ六済わいた				
	, , , , ,		参加者	横浜市青少年交流センター 3人				
	社会教育主事課程を履修している学生	- 나- 나이= 사	, <u></u>					
尹 禾口凹	・青少年との交流を通じた研修を提供することにより青少年を支える人材を育成する。 ・青少年の居場所を目的とした社会教育施設への理解を深める。							
実施内容	社会教育主事課程を履修している学	【事前準備						
大心的分	社会教育工事妹性を腹形している子 生の実習を受け入れた。							
	エッズ目で又リハイが~。	・学校と実習生との事務連絡及び日程調整						
	【受入日程】	・活動プログラム作成						
	①8/3(土)~19(月)	【当日】 ・実習日誌のコメント記入						
	②8/25(日)~31(土)			-/へ ▽び事業運営補助など、実習環境・プログラムの提供				
	③10/16(水)~31(木)			の対応、事業の進行方法、事務取扱などの実習指導				
	© . = / 1 = (/1·/	・青少年や利用者への対応、事業の進行方法、事務取扱などの美質指導 【事後振り返り等】						
		1 1 1 7 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7	メリチュ					

事 業 名	青少年委員会の運営				
日時/回数	通年		場所	横浜市青少年交流センター	
対 象	横浜市在住または在学、在勤の中学生から	524歳まで	参加者	21人	
事業目的	・委員会活動の中で様々な経験を通して、	青少年の社会	参画を図	るとともに、青少年リーダーを育成する。	
	・センターの管理・運営に青少年の声を反明	やさせる。			
実施内容	・センターの運営に青少年の視点を取り	①定例会の	開催:毎月	月1回	
	入れるため、中学生~24歳までの青少	各回参加]人数にば	らつきがあったが、毎月欠かさず、実施した。	
	年が、利用者の意見聴取やイベントの	②交流会	6/16(日)11時~15時	
	企画・運営を行った。	コーディネ	トーターを	交え、和室にて、たこやきパーティーを行った。	
	・1年間の活動を通して、主体性や責任	③宿泊研修	8/7(7	k)14時~8/8(木)11時 於:野島青少年研修センター	
	感、協調性を養った。 ④他の青		〉年施設見学:年1回		
	【その他の活動】	2月にゆう	う杉並にて	行われる中高生懇談会に参加予定であったが、大雪の為	
	・NPO法人ワールドビジョン・ジャパン主催	延期にな	り実施され	いなかった。	
	の「南三陸を学ぶ~いま私たちにできる	⑤目安箱ブ	゚ロジェクトの	D実施	
	こと~」に参加した。(交流センターから	集められ	た意見に対	対し、月1回を目途に委員が話し合い、回答を貼りだした。ま	
	の参加者6人、引率職員1人)	た、意見	をもとにカ-	ードゲーム大会を実施した。	

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動

事業		青少年委員企画事業 ワイワイおやつタイム					
日時/		19 年安貞正岡事業 プイプ18 ピックイム 場所 場 所 場 によまり によまり に					
	11	11/10、12/8、2/9、3/9(全10回、日曜日)		*90 III	横浜市青少年交流センター		
対	-	小学生			94人(延数)		
事業目	目的 □・計	骨少年委員が企画運営にかかわることに。	はって、自主的	的な活動σ	り場を提供し、彼らの成長を促す。		
	·参	・参加者(小学生)同士ならびに青少年委員の異年齢					
	・参	参加者が自ら調理し、食べることを通して「					
実施内				5もち、5月:ブルドネージュ、6月:ぶたさんクッキー、7月:クレープ、			
		季節の行事等を取り入れ、皆で協力し 9月:サンドウィッチ、10月:スイートポテト、11月:苺大福、12月:チョコケーキ、					
		食事を作り、皆と一緒に食べることで楽	2月:チョコ	プリン、3月	:ホットケーキ		
	しる	さを味わい、「食」に関する関心を高め	【事前準備]			
	た。		·青少年委	員会定例:	会にてメニューと担当者の決定		
			【前日】				
	ボ	ランティア:25人(延数)	・材料の購,	入&試作			
			【当日】				
	【詩	觜師 】	·参加者受	付(参加費	と		
	青	少年委員	・料理室に	里室にて、3~4人のグループごとに調理実習(職員は安全管理と記録)			
			·203号室/	室へ移動し、実食。			
	*	4月には、野毛山荘MM写楽会(写真	・料理室へ	室へ移動し、自分が使った皿等を洗い、後片付け。			
	+	ナークル)に、活動風景を撮影していた	・アンケート	ケート記入			
	<i>t</i> :	ざき、こどもの日まつりにて写真を展示し	※待ち時間	間が長いメニューはレクリエーションを取入れる等の工夫をした。			
	<i>t</i> :	た。 【事後振り					
			・担当委員から、定例会にて報告				
事 業	名 青	少年委員企画事業 ふりふら夏まつり					
日時/	回数 7/	/21(日)11時30分~16時30分		場所	横浜市青少年交流センター		
対 1	象	就学児〜地域の大人		参加者	153人		
事業目	∃的 · i	青少年委員が主体的にイベントを企画・運営	する機会を拡	是供するこ	とで、青少年リーダーとしての自主性や社会性を養う。		
	· i	青少年委員と利用者の青少年が協力して	イベントの準備	備や運営に	こ取り組むことで、異年齢交流の場を提供する。		
実施内	内容 ・3	を流センターの夏休みイベントのひとつ	【事前準備]			
	لح	:して、青少年委員会主催の「夏祭り」	・青少年委員会定例会において、テーマ等、実施計画をたてた。				
	(クラフト体験、アトラクション、模擬店な	な・青少年委員会を中心に、センターを利用する青少年と協力して材料の調達				
	لح	ご)を実施した。	小道具の作成を行った。				
			・近隣小中学校へのチラシ配布やホームページで広報活動を行った。				
	ボ	ランティア:12人	The state of the s				
			【当日】				
		左 報】	・青少年委員を中心に模擬店やアトラクションの準備・運営を行った。				
	•	チラシ配布					
	· 当	学校:老松中学校、戸部小学校、東小	【事後振り返	図り等】			
		学校、一本松小学校、本町小学校	·青少年委	員と振り返	įų		
	· ±	也域:第四地区自治会町内会、	事前準備	帯・当日の各自の関わり、運営方法等について			
		地区センター(中区·西区·南区9か所)					

	<u> </u>			青少年父流センター		
事業名	青少年委員企画事業 きもだめし大会		In (-)	I Was 1 de 1 to 1 ale :		
日時/回数	8/24(土)17時~19時		場所	横浜市青少年交流センター		
対象	未就学児~地域の大人		参加者			
事業目的	・青少年委員と夏期青年ボランティアの相					
	・青少年委員と夏期青年ボランティアが事	業の企画・運営	営を担当す	することで、自主性・協調性を養う。		
	・地域の青少年に、自分たちだけで冒険(参	参加)できるイ^	ベントを通し	じて楽しさを提供する。		
実施内容	・夏休みの終わりに、子どもたちが気軽に	【事前準備】				
	参加(冒険)できるお化け屋敷を実施し	·青少年委	員会定例:	会において、テーマをたてた。		
	た。	·青少年委	員を中心	に、夏期青年ボランティアと共同で必要物品の調達や、大		
		道具·小道	具等の制	制作を行った。		
	ボランティア:30人	·近隣小学村	交、幼稚園	園へ広報		
		・新聞社へ詞	記事の投げ	げ込み		
	【広報】	【前日】				
	◆チラシ配布	·青少年委員	員と0B・0	Gを中心に、準備を行った。		
	・幼稚園、保育園等(24か所)	【当日】				
	・近隣の小中学校(13校)	·青少年委	員を中心に	に、青少年委員0B·0Gと夏期青年ボランティアで、館内の		
	◆記事投げ込み	装飾·運営	を行った。			
	·新聞社(12社)	【事後振り返	り等】			
	※神奈川新聞横浜面「情報スクランブル」、	·青少年委員	員と0B・0	G、夏期青年ボランティアの合同で振り返りを行った。		
	情報誌ぱど、サンケイリビング田園都市					
	WEBに掲載された。					
事業名	青少年委員企画事業 クリスマス☆パーテ	·/—				
日時/回数	12/15(日)14時~16時	'	場所	横浜市青少年交流センター		
	小学生〜地域の大人(保護者・利用者など	رات	参加者			
事業目的				」。。ハ ・楽しむ機会が減少する中で、誰でも気軽に参加できる交流		
ず木口り	の場を提供することで、人と交流することの					
	・委員会活動を通じて蓄積された青少年リ					
実施内容	・「クリスマス」をテーマに、レクリエーション	1		女貝间で共行する版式の徒供。		
天旭內谷	ゲームやクラフト、簡単な飲食物の提供					
		・定例会にてイベント内容等の企画。 ・適宜集まり、装飾等の準備とゲーム内容について検討。				
	を通じた交流の場づくりを行った。		、装即寺	の年間とグーム内容について快引。		
	12->1 I	【当日】	-	エ ロ ∧ 仕 ナ ∩ パ は ¬ ・		
	ボランティア:1人			委員全体で3階スペースの装飾を行った。		
	 ※☆汝 ト ン ク			、進化ジャンケンを行うレクスペースと、クリスマスツリーを作		
	※交流センターにある過去の寄附物品を		ハース、	クッキーやココアなどの飲食スペースの3か所に会場を分け		
	プレゼントに充てた。 	た。	. / 1 7 ^°	- -スで全員でゲームを行い、その後は自由にクラフトスペー		
				-へで主員でケームを1Jで、その後は自由にクラフトへへー レクスペースを楽しめる構成にした。		
			冷わりに、	サンタクロースに扮した委員が、文具等のプレゼントを配布し		
		た。	: 11 /2/c ¶			
		【事後振り返		4		
		・ふりかえりを	と委員全に	本で行った。		
事業名	青少年委員企画事業もちつき大会			T		
日時/回数	1/12(日)10時~14時		場 所			
対 象	未就学児〜地域の大人		食数	220食		
事業目的				5る「餅つき」を通して、地域の子どもから大人まで幅広い世		
	代が交流する機会を提供し、地域の「顔の					
	・事業の企画/運営を通じて、青少年リーク	ダーとしての経	験を委員	間で共有する機会を提供する。		
実施内容	・餅つきと餅の試食を通じて、地域の子ど	【事前準備】				
	もと大人の交流の機会を提供した。	· 定例会にて	こイベントア	内容等の企画		
		·広報活動				
	ボランティア:19人	チラシの負	館内掲示、	、近隣小学校への配布、ホームページに案内掲載		
		・きね・うすの整備(野島青少年研修センターから借用)				
	【広報】	・もち米等食材の購入				
	◆チラシ配布	【当日】				
	·近隣の小学校(5校)	·もち米、き	ね、うす等	での準備		
	◆にしく市民活動支援センター情報紙	・餅つきの実		· · · · · · ·		
	「ぽこ・あ・ぽこ」掲載	·餅(試食)				
	.5.— 65 16.—13.	・参加者アン		実施		
		事後振り返		~nu		
				にふりかえりの実施		
	l .	二二女.	>< □ ''U'I	, / C / C / C / C / D D		

事業名 日時/回数 対象 事業目的	青少年委員企画事業 まったりぐつぐつ鍋/ 3/2(日)16時~19時 中学生~24才	ペーティーin野	送 場 所 参加者	横浜市青少年交流センター 15人			
対 象	中学生~24才						
			会加去	15 1			
事業目的	ギニシニ プロ アば科 アルス主小ケム						
	加するきっかけとなる情報交換およびネッ	がランティアに興味のある青少年の交流の場づくりを通じて、ボランティア活動に参 トワークづくりの機会を提供する。					
実施内容	・鍋を囲み、気軽な雰囲気の中で青少年 委員会の活動の紹介および青少年のボランティア活動についての情報交換を 行った。	・事前打合せを定例会以外に2回行った。					
	【広報】	・食材の買い ・自己紹介		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
	・ボランティアエアポートの参加団体 ・高校生ボランティアfriends	・参加者同士で情報交換、交流 ・会食、歓談 【ふりかえり】					
		·参加者同	および情報交換することができたか。				
	活動成果交流事業 @楽祭2013夏						
	7/7(日)13時~17時		場所	横浜市青少年交流センター			
対 象	交流センターで活動する個人・団体		出 演	8団体			
事業目的	・出演者が他の出演者との交流を深める機・青少年が年齢や地域を超えて多くの人との		む機会の扱	是供。			
実施内容	利用者を対象とした、日頃の成果の発						
	表会を実施した。	·出演者(団 【当日】	l体·個人)	、ボランティアの募集、交流会用食材買い出し			
	出演者8団体41人、来場者101人		準備、リハ ステージ等	ーサル 9時15分~12時30分 の準備			
	【出演者】	・ステージにて出演者のリハーサル					
	・楽器演奏:走原、レナ、小西	・所要時間にばらつきがあり、10分延長した。					
	・ダンス:Smile⊚Seed、ママフラ、 ニにしゆうじ	②ステージ発表 13時10分~15時30分 ・ダンス、コーラス、楽器演奏等					
	・コーラス:エンジェルス・ボーイズ・コーラス、	・計画より早く終わる演目が多々あった。					
	コール・ダンヘル男声合唱団	休憩や広報を入れる等、時間調整を図った。					
	- 77 77 HIEL	③交流会 16時~16時50分					
		参加団体(5団体33人)とボランティア、スタッフが参加					
		・歓談、交流、振り返り					
事業名	活動成果交流事業 青少年ライブ(青少年	ライブ'13夏	·冬)				
日時/回数	第1回8/18(日)13時~17時 第2回12/22(日)13時~17時		場所	横浜市青少年交流センター			
対 象	交流センターを利用している中学生から24		出 演	14組(バンド、個人)			
事業目的		性及び協調性を育むための活動機会を提供する。					
中振市泰	・青少年に学校・学年・グループを超えた交 ・交流センターを利用している中学生以						
実施内容							
	の練習成果の発表機会として、ライブを	・事前説明会 第1回:7/14(日)、第2回:11/17(日) ・参加者による企画・進行づくり、会場設営、準備(看板やポスター・チラシ作成)					
	実施した。 ・事前説明会で、事前準備・当日の運営	【前日】 ・会場設営、リハーサル、ミーティング					
	の役割分担を行い、参加者の主体的な						
	ライブ運営を促した結果、出演者にとっ て達成感のあるイベントとなった。	・ライブ演奏 第1回:6組					
1	ボランティア:3人	第2回:8組 参加団体による受付・照明・PA操作・記録撮影					
		・ライブ終了後の交流会 ※第1回のみ、交流会で講評を行った。					
	【講評】						
	【講評】 第1回:渡辺喜丈さん(ワタナベミルク)						

事業名 地域交流事業 こどもの日まつり 日時/回数 5/5(日・祝)13時~15時30分 場所 横浜市青少年交流センター 対象 未就学児~市民 参加者 287人 事業目的 ・参加する青少年(主に小中学生)に、年齢の異なる地域の人との交流を楽しむ機会を提供する。・・活動を通して、青少年ボランティア(高校生以上)の協調性や自主性、責任感を育む。 実施内容 ・「こどもの日」にちなんで、青少年が楽しめるお祭りを、青少年ボランティア、交流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。・・・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティアは当日準備(会場設営他)と運行・カラア・教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
対象 未就学児~市民 事業目的 ・参加する青少年(主に小中学生)に、年齢の異なる地域の人との交流を楽しむ機会を提供する。 ・活動を通して、青少年ボランティア(高校生以上)の協調性や自主性、責任感を育む。 実施内容 ・「こどもの日」にちなんで、青少年が楽し めるお祭りを、青少年ボランティア、交流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 ・横振店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体プース お茶会 リSC(青少年指導者クラブ)	
事業目的 ・参加する青少年(主に小中学生)に、年齢の異なる地域の人との交流を楽しむ機会を提供する。 ・活動を通して、青少年ボランティア(高校生以上)の協調性や自主性、責任感を育む。 実施内容 ・「こどもの日」にちなんで、青少年が楽しめるお祭りを、青少年ボランティア、交流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費)ボランティア:31人 【事前準備】・協力団体及び協賛団体への依頼、ボランティアの募・広報(近隣小中学校へのチラシの配布)・ホームページで広報・おやつタイム活動風景の写真撮影(MM写楽会) 「当日】・青少年ボランティアは当日準備(会場設営 他)と運行がフラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体ブースお茶会」・協力団体ブースお茶会」・COM「横浜はじめてものがたり」講座 【協力】 YSC(青少年指導者クラブ)	
実施内容 「こどもの日」にちなんで、青少年が楽しめるお祭りを、青少年ボランティア、交流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 ・横擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば) ・協力団体ブース ・協力団体ブース お茶会 」:COM「横浜はじめてものがたり」講座	
 めるお祭りを、青少年ボランティア、交流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費)ボランティア:31人 【協力】 YSC(青少年指導者クラブ) ・協力団体及び協賛団体への依頼、ボランティアの募・広報(近隣小中学校へのチラシの配布) ・ホームページで広報 ・おやつタイム活動風景の写真撮影(MM写楽会) 【当日】 ・青少年ボランティアは当日準備(会場設営 他)と運営・クラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば) ・協力団体ブースお茶会」・近OMF横浜はじめてものがたり」講座 	
 流センター及び近隣施設利用団体を中心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 【協力】 YSC(青少年指導者クラブ) ・広報(近隣小中学校へのチラシの配布) ・ホームページで広報 ・おやつタイム活動風景の写真撮影(MM写楽会) 【当日】 ・青少年ボランティアは当日準備(会場設営他)と運営・クラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体ブースお茶会」・協力団体ブースお茶会」・COM「横浜はじめてものがたり」講座 	
 心に運営した。 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費)ボランティア:31人 【協力】 YSC(青少年指導者クラブ) ・ホームページで広報 ・おやつタイム活動風景の写真撮影(MM写楽会) 当日】 ・青少年ボランティアは当日準備(会場設営他)と運営・クラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体ブースお茶会」:COM「横浜はじめてものがたり」講座 	学を担 当
 ・5月の連休中に開催し、多くの入場者を 見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 「協力】 YSC(青少年指導者クラブ) ・おやつタイム活動風景の写真撮影(MM写楽会) (当日】 ・青少年ボランティアは当日準備(会場設営 他)と運行・クラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体ブースお茶会 J:COM「横浜はじめてものがたり」講座 	学を 担当
 見込めるため、センターのPRの場とした。 (模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 (協力】 YSC(青少年指導者クラブ) 【当日】 ・青少年ボランティアは当日準備(会場設営 他)と運営・クラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば)・協力団体ブースお茶会 J:COM「横浜はじめてものがたり」講座 	党 を担当
た。	学を 担当
(模擬店等のブースは実費) ボランティア:31人 ・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば) ・協力】 YSC(青少年指導者クラブ) ・グラフト教室(カーネーション、スライム、でんぐりコロリン・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば) ・協力団体ブース お茶会 J:COM「横浜はじめてものがたり」講座	ヴを扣 当
ボランティア: 31人 ・模擬店(ポップコーン、フライドポテト、やきそば) ・協力団体ブース お茶会 YSC(青少年指導者クラブ) J:COMF横浜はじめてものがたり」講座	
【協力】 ・協力団体ブース お茶会 J:COM「横浜はじめてものがたり」講座	ン)
【協力】お茶会YSC(青少年指導者クラブ)J:COM「横浜はじめてものがたり」講座	
YSC(青少年指導者クラブ) J:COM「横浜はじめてものがたり」講座	
みのり会 野毛山荘プアカーネーションズのフラダンスの発表	
Kogane-X Lab.(コガネックス ラボ) 野毛山荘MM写楽会の写真展示	
J:COM いちまいばなし(佐藤 悠)	
ヤングコミュニティ(集いのCafe) Kogane-X Lab.のエコバッグ作り	
ふらっとキズナ ・スポーツ体験(ペタンク、キックターゲット)	
佐藤 悠 【事後振り返り等】	
野毛山荘MM写楽会〈写真サークル〉・ボランティア全体の振り返り	
プアカーネーションズ野毛山〈ウケレレ・フラダンス〉 (参加者の様子、ボランティア自身の反省、今後の	課題など)
事業名 体験交流事業 人形劇ぴっころ公演	
日時/回数 6/23(日)14時~15時 場 所 横浜市青少年交流センター	
対象 未就学児~市民 参加者 86人	
事業目的 ・主に乳幼児や未就園児の感受性を育てる、社会的視野が広がることを目指し、乳幼児や未就園	別児に人形劇の機会を提供
する。	
・青少年育成団体へ活動の場を提供する。	
実施内容 ・青少年育成団体「人形劇ぴつころ」によ 【事前準備】	
る人形劇の公演を実施した。・団体との打ち合わせ	
【公演】 ・近隣小学校へチラシ配布	
人形劇ぴっころ ・新聞社へ広報の投げ込み	
(南区を中心に活動している人形劇の団体) ・近隣幼稚園へチラシ送付	
【公演情報掲載】 【当日】	
・リビング田園都市「えるプラーザ」・受付補助	
・神奈川マリオン	
事業名 体験交流事業 夏休み事業(料理教室・木工教室)	
日時/回数 ①7/30(火)10時~14時 ②8/2(金)13時~17時 場 所 横浜市青少年交流センター	
対 象	
事業目的・青少年が意欲的に取り組むことができる活動の場を提供する。	
・青年ボランティアと参加者の交流を図る。	
実施内容 ①料理教室 ①料理教室 「ピザをつくろう!」	
交流センターで採れた野菜(じゃがい 参加者:12人	
も・とうもろこし・ゴーヤ)を使用しピザを 参加費:500円	
作成した。 会場:料理室・203号室	
指 導:米山コーディネーター	
②木工教室	
木材を切り、ネジで固定し、椅子を作し②木工教室	
成した。 参加者:10人	
成した。 参加者:10人 参加費:800円	
成した。 参加者:10人 参加費:800円 ボランティア:9人(2回延数) 会場:3階スペース	
成した。 参加者:10人 参加費:800円 ボランティア:9人(2回延数) 会場:3階スペース 指導:中谷コーディネーター	§業(予算補助·広報協力)
成した。 参加者:10人 参加費:800円 ボランティア:9人(2回延数) 会場:3階スペース	<header-cell> 『業(予算補助·広報協力)</header-cell>

777_0 1 72	女皿別団体人のこののユーバ	771111		青少年交流センダー				
事業名	体験交流事業 ふりふらジョブカフェ(図書)							
日時/回数	8/3(土)14時~16時	場 凡	f	横浜市青少年交流センター				
対 象	高校生·大学生·短大生	参加者	Ĭ	9人				
事業目的	・青少年が将来の進路や職業観について表	える機会を提供する) _o					
	・参加者同士、参加者と講師の交流を促し	、様々な人の考えを気	印る	機会を提供する。				
実施内容	・社会人を講師に呼び、実際の仕事内							
74,8131	容、仕事をしていくなかで必要だと思う		计	(7月)				
	スキル、心構えなどを、ざつくばらんな雰							
	囲気の中で話してもらった。		⊒ ≡	1品、妊婦子自至 3077200 2017、ハ ユ・フに事業				
	一番気の中で話してもりが。	果內海戰 【当日】						
	[=# 6x]		- 😑	1.存益和疾)				
		・講師自己紹介(所						
	菊地 文絵さん、小林 由以子さん	・司書の仕事につい						
	(横浜市中央図書館 司書)	・図書館分類法の「						
		・ブックトーク(テー						
				司書になったのか等の話(10分)				
		・フリートーク・質疑	心名	S (30分)				
		・アンケート						
事 業 名	体験交流事業 3階スペース活用事業「みん	んなDEアート」						
日時/回数	通年	場別	f	横浜市青少年交流センター				
対象	未就学児~大人	参加者	Í	116人				
事業目的	・交流センター3階の空きスペースを活用し	た「青少年の表現活	動の	り場」の提供。				
実施内容			_	の現況調査。3階スペース活用方法の検討				
7,6130	備・改修し、「青少年の表現活動の場」と			替え及び清掃作業。				
	してオープンした。			ジント実施 7/26(金)				
				きもだめし大会」をイベントスペースにて実施				
	 ①3階スペースの整備·改修			ジント実施 9/14(土)				
	①5個人、人の走網 以修		オープン 10/5(土)					
	 ②3階スペースのオープン		オーノン 10/5(エ) 連動事業「ときどきアトリエ」実施 10/12(土)					
	・イベントスペースの設置			ベント「こども陶芸教室」実施 10/26(土)				
	・ものづくりルームの設置			携事業「声のたからさがし」の実施 12/15(日)				
	・陶芸ルームの設置			ーティー」、「青少年ライブ`13冬」を実施				
				所づくり」全国フォーラムを実施				
	③「青少年の表現活動の場づくり」事業実施	3月:「仕事帰りに						
		■「青少年の表現法						
	ボランティア:14人			「お絵かき①」7/26(金)13時30分~15時 参加者42人				
				「お絵かき②」9/14(土)10時~12時 参加者40人				
	【連携】	③みんなDEアー	- -	「こども陶芸教室」10/26(土)10時~12時 参加者11				
	トリエンナーレサポーター	人						
	(「横浜トリエンナーレ」に関する制作補助	④ときどきアトリュ	-Γ∂	yてはなそう!つくってみよう!鑑賞と表現」				
	や、本展を盛り上げるために活動するボラ			10/12(土)10時~12時 参加者10人				
	ンティア)	⑤ドリエンナーレ [・]	サオ	《一ター連携事業「声のたからさがし」				
				12/15(日)10時~12時 参加者13人				
事 業 名	体験交流事業 春の卓球大会							
日時/回数	3/24(月)14時~16時	場別	f	横浜市青少年交流センター				
対象	小学生以上の青少年	参加者	-	13人				
事業目的	・青少年が、青少年および大人とスポーツを	2 2						
于未口H7	- ・多くの青少年が卓球を体験する機会を提		۲ ر	ルドス 9 °00°				
中华内容	・初心者向けの卓球大会。試合形式で							
実施内容			H	リノノの味問に わかげ点はカニブが六次センク 利田老				
	実施した。			!イムの時間に、わかば卓球クラブが交流センター利用者				
	・地域の成人団体が事前に初心者を対	(延べ約50人)に						
	象に指導した。		٦)、	6(木)、13(木)、17(月)、20(木)の5日間				
	N= 451	【当日】						
	ボランティア:15人	・ルール説明	a e					
			考,	慮し一部の原則公式ルールを緩和した。				
	【協力】	・試合 グループ(3~4人)内で3セットマッチのリーグ戦の上位者に						
	わかば卓球クラブ							
	(交流センターで活動する育成団体)	を行った。						
•								

.,,,	五皿別団広人なこはよユース	3. >1< 11×		青少年交流センター		
事 業 名	体験交流事業 はたらく若者の仲間づくり事					
日時/回数	3/9(日)、3/25(火)19時30分~21時3	30分	場所	横浜市青少年交流センター		
対 象	18歳~39歳(横浜市内在勤もしくは在住の	社会人)	参加者	16人(延数)		
事業目的	・体験活動を通じて、働く若者の仲間作りの	きっかけとな	る機会を担	是供し、相互の交流を通じて、悩みや課題を軽減できるよう		
	にする。					
実施内容	・全2回の陶芸教室での体験活動を通じ	【当日】				
	て、働く若者の交流の場づくり、仲間づく	①作 陶:3	8/9(日)1	9時30分~21時30分 16人		
	りの場を提供した。	②釉薬掛け	h:3/25(火)19時30分~21時30分 6人		
	【指導】	***		を混ぜる、窯から焼きあがった作品を出すなどの共同作業		
	関さおり	をすること	で、自然と	参加者同士が言葉を交わす機会をつくることができた。		
	(交流センター職員)	·作品発表	の場やお茗	茶を飲みながら作業を振り返る時間を設け、リラックスした雰		
		囲気を促り	」た。			
事 業 名	体験交流事業 ふらっと b kids/ふらっと b	kidsコンサー	-			
	4/26、5/24、6/28、7/26、9/27、1	0/25、				
日時/回数	11/22、12/20、1/24、2/28(10[回全て金曜	場所	横浜市青少年交流センター		
	日)					
対 象	未就園児とその保護者		参加者	89組		
事業目的	・参加者に音楽の楽しさを感じてもらう。					
	・音楽を通じて親子の交流を図る。					
	・地域活動団体を支援する。					
実施内容	交流センター音楽演奏室で、歌やピア	【事前準備]			
	ノ演奏、クラフトなど、親子で参加できるプ					
	ログラムを、未就園児とその親に提供し			台日配布チラシの印刷		
	た。	・子育て支		ごへの広報		
	F > 013	・申込み受	付			
	【主催】	【当日】	. du			
	おもちゃのはこ	・部屋の貸				
	(西区の音楽家や音楽好きな主婦を中	-				
	│ 心に結成。「赤ちゃんから大人まで誰でも │ 楽しめる音楽を提供すること」をモットー	·写真撮影 【参加費】	、アンケー	Γ		
	栄しめる自栄を提供すること」をモットー に、区内を中心にピアノ・歌・ヴァイオリン	【参加賃】 ・1組500円	3			
	に、区内を中心にピアノ・歌・ファイオリン などのコンサートを行っている。)	. 1 班 2000]			
<u>l</u> 事業名		소스 t 과 4 5				
日時/回数	▼習マイプラン(学習支援) ※ふりふら勉引 毎週火曜日16時~18時 年間55回	虫云を以外	場所	世に大き小ケス次といわ		
	毋週火曜日10時~10時 年间33回 小中学生 ※場合により高校生も受け入れ		参加者	横浜市青少年交流センター207人(延数)		
対象	・経済的な理由等さまざまな事情によって ・					
実施内容	経済的理由等により学習する時間や	「事前準備		7月少年に対して子のの場を促供する。		
关心的合	横角的壁田寺により子首りる時間で 場所がなく、学校の勉強についていくのが		_	集(市内および近郊の大学、地区センター等)		
	難しい青少年や学習意欲の低下している			来(川内403とい近300人子、地区 ピンメー 寺) ンター周辺の小中学校)		
	黄少年のために、交流センターを会場と			日程調整・事務連絡		
	して、学習ボランティアによる無料の学習	ナロハノ	/ / ₁ / ₀ / ₁	口住的走 于初廷和		
	支援を行った。	【当日】				
	大阪と门 ガこ。		ティング(学	習ボランティア)		
	【指導】	·学習会	1- / (7	H1 25 7 17 7		
	学習ボランティア		いえり(学習	オランティア)		
		, ii 2010 - 110	· · · · · · ·			
		※夏休み#	間中に生	中的に夏期講習を実施した。		
				22(木) 16時~19時		
		-/	-	•••		
	ı	1				

平成25年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 野

野島青少年研修センター総合評価:b 71/90 79%

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

	-,				M. C.以古座M. O.科沃 G.19日 O.N.L.	<i>₩</i> 70±
事業(, 1	事業区分ランク	全体評価 得点 (30 点満点)	次年度 方針 (<u>※</u>)	第2次評価会議 助言・指示内容等 (次年度へ向けた改善ポイント)	総合評価コメント
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設 貸与	b	22/30 (73%)	2	・綿密なプログラム調整、自然体験活動用貸出物品の充実等により稼働率を向上させた。 ・食事提供について検討の必要がある。 ・ホームページの改良及び事業情報を積極的に配信、体験学習用パンフレット等作成・配布など営業活動を強化し、稼働率向上へつなげた。	・積極的な営業活動、利用しやすい柔軟な施設提供、プログラム充実等の努力が稼働率向上につながっている。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	体験 活動	b	23/30 (77%)	©	・「のじまきらきらキャンプ」は事業内容を見直し、応募者数増加につながった。当日は大雪のなか、雪遊びなど偶然の機会も活かし幅広いプログラムを提供した。 ・ 寄附金でカヌーを増艇し、「カヌー教室」、「カヌー体験キャンプ」(新規)を実施した。施設の立地環境を活かした人気事業になった。 ・ 「わくわく生活体験キャンプ」は、法人運営以外の寄り添い型支援施設にヒアリングのうえプログラムを提供した。自立支援団体の活動に触れる機会が多い施設として事業充実に力を発揮できるよう事業課との協働の在り方を検討すること。 ・ 「ハートフルスペース」、「野島クリスマスキャンプ」は大勢のボランティア、事業協力者に支えられた事業である。今後も安定的に継続できるよう取り組むこと。	・カヌー、自然体験活動用貸出物品を充実させ、プログラム開発・充実に積極的に取組んだ。 ・市民活動団体との協働事業は、地域で青少年を見守り育む環境づくりに効果的である。 ・ボランティア活動に関する相談は、法人内での一元化を検討すること。また、法人以外での活動情報を充実させること。
経営·業	務姿勢	а	26/30 (87%)		・市民活動団体との関係を再構築し、事業の見直しや 新規開発にあたってきた。 ・第三者評価を受け、これまでの施設の努力が理解され、合わせて今後の事業の拡大・充実へ向け貴重 なご意見をいただき有意義であった。	・稼働率向上の大命題に向けた、様々な取組みが結実しつつある。今後も積極的な取組みを期待する。 ・必要な資機材の調達・整備でプログラムに新たな魅力が生まれ、稼働率向上につながっている。 ・ボランティアに関する相談・情報提供事業は、3施設・事業課で共有システムを検討し、次年度には実現できるよう取組むこと。
総1	合	b	71/90			

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点(30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク (評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事 業 名	施設·設備貸出事業	業							
日時/回数	通年				場	所	横浜市野島青少年	∓研修センター	
対 象	20人以上の団体(20人以上の団体(青少年、青少年指導者·育成者、市民)			() 件	数	582団体		
事業目的	・宿泊研修施設とし	引泊研修施設として、青少年指導者·育成者の研修活動を支援する。							
	・青少年の体験学習・集団活動を通した青少年育成を図る。								
実施内容	市内唯一の宿泊			①施設貸出業務					
	│ 団体の効果的な活	動実践の場	を提供し				1・日帰り)		5 D)
	た。							引回、夏期抽選会は ・ロギに中性)	(5月)
							実施(利用日の約1カ 坐ま者会議の実施(ト月削に実施 <i>)</i> 利用当日に必ず実別	(.)
								利用ヨロに必り美が 「ラム、クラフト、調理!	
								プログラム備品ほか	
								ュールやプログラム内	
					者アンク				10.7
				②施設約	推持管理	2業務	5		
				·施設	環境の	維持・	·管理(修繕·改善、	直栽管理、施設内外	の安全確認)
				·施設	点検日(の実力	施(点検日:月1回実	施、大点検日:3かり	月に1回)
				・日常	'点検·管	理·	清掃の実施		
		±1							
	【利用状況年間比較		14. 14. 15.	(0/)	11日 土 岩	-/ I \	空光到田/ 1)		
	25 年度	団体数 582	稼働率 71.		利用者数 24.65		宿泊利用(人) 18,852	日帰利用(人) 5,804	
	24 年度	472	69.		23,36		17,648	5,718	
	23 年度	273	62.		11,14		7,437	3,706	
	22 年度	562	78.		27,43		20,065	7,369	
			l .	l l				7,000	
事業名	営業活動強化事業	インターネック	外による情	f報提供·b					
日時/回数	通年				場	所	横浜市野島青少年	手研修センター	
対象	施設利用希望者	#41 + 122 7							
事業目的	・新規利用団体の独								
	·リピート利用の促進 ·体験活動への動材								
実施内容	ホームページを通			【利便性	·向 ト(イ	ンター	ーネット)】		
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	やリピーターを獲得						関するページの新設		
	や空室情報などの			・イベント					
	た、事業や利用促済	進等のチラシ	を作成し	·利用申	請書の	ダウン	ロード開始		
	市内施設や学校等	に配布した。		・メール	フォーム	による	る申込の確立		
	①ホームページによ	にる情報提供					ページ)】		
	○ xu +# /+ /- トァ + = =	±□+B /#+		・空室状		更新			
	②紙媒体による情報 夏期利用や体		171 wk	· 事業案 · 抽選会		力坦:	₩		
	を作成し、配布す	3/1 H/13			2 4/20-1-1	•	戦 業レポート掲載		
	体の確保に努めが		13711174	- テスル	#X C D Y	J ヂ?			
	「エー・フォビルバーン」の	_0		【利用者	・獲得(チ	ラシ	配布)】		
	【広報協力】						, _	施設551か所、関東国	圏内大学50か所)
	横浜市こども青少年	F局		·体験学	習用パン	ノフレ	ットおよびプログラム・	一覧の刷新、配布(1	,700か所)
	青少年育成課、放	課後児童育用	 战課	・事業チ	ラシ、利	用促	進チラシ、ボランティ	ア募集チラシ等の作	成配布

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動

事業名	市民活動団体との協働体験プログラム オ	ールクリーン野鳥ビーチ
日時/回数	9~3月 全4回	場 所 横浜市野島青少年研修センター 野島公園前浜
対象	青少年~市民	参加者 197人(4回延数)
事業目的	1.5.5	に環境保護への興味関心を育む機会とする。
于未口的		や自治会等とのネットワークを築き、青少年を育む地域づくりを行う。
		を広く市民に広報し、研修センター周辺の自然環境の保護を行う。
実施内容		を広く中氏に広報じ、初修とファー月辺の日然環境の保護を11万。 - ①ビーチ清掃・ゴミの分別と集計、生き物観察会
夫他內谷		
	環境保護団体や地元自治会などと協働	第1回 9/21(土) 参加者62人
	して年4回ビーチ清掃を行った。	第2回 11/26(土) 参加者74人
	【実行委員会】	第3回 12/14(土) 参加者31人
	よこはまユース、海をつくる会、	第4回 3/15(土) 参加者30人
	ガールスカウト神奈川県第53団、	時間:4回とも13時~15時
	こどもエコクラブ野島自然観察探見隊	運営ボランティア:7人(延数)
	【広報】	※回収したゴミの処分は、横浜市環境創造局の協力を得て実施。
	第1回	※参加者カードを作り、スタンプラリーを行い、全回参加者に参加賞を贈呈。
	野島地域、関係団体等にチラシ配布	
	第2回	②実行委員会開催 7/19(金)、11/5(火)、3/15(土)
	広報よこはま11月号に情報掲載すると	開催日の決定、予算執行の決定、活動内容の決定など
	共に、市内の公共施設や小中学校、	
	高校、大学ヘチラシ配布	③開催チラシの作成・広報、参加者管理・受付、保険加入、予算管理 他
	第3回、4回	
	金沢中学校区の公共施設と小中学校	
	および関東学院・横浜市大・創学館高	
	校へチラシ配布	
事 業 名	市民活動団体との協働体験プログラム の	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日時/回数	2/8(土)9時30分~9(日)15時30分	場 所 横浜市野島研修センター、野島公園水路
対 象	小中学生	参加者 31人
事業目的	・様々な自然体験や環境教育を通じて、青	少年の興味関心を高めて豊かな心を育む。
	・宿泊体験を通じて、自立心を養い、異年齢	
	・様々な市民団体と協働し、それぞれ団体	
実施内容		当日、横浜市内が大雪のため申込者52名のところ参加者31名の実施となった。
יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי	ムを実行員会を組織して実施した。	【活動内容】
	ボランティア:2人	①はまぎんこども宇宙科学館見学
	1135 7 17 127	②野島公園での活動(当日大雪が降った為、予定を変更し公園内で雪遊び)
	【共催】	③工作(みなと総合高校生徒作成の星空投影キットを用いた工作)
	【六個】 こどもエコクラブ野島自然観察探見隊、	④キャンドルファイヤー
	(公財)横浜市緑の協会野島公園事業所	- 受子マンドルンティマー - ⑤星空観察(雪のため室内にてプラネタリウム解説、星座の学習)
	【広報】	
	事業チラシを5,000枚印刷し、放課後	・双眼鏡の使い方を学び、野島公園内で野鳥を観察した。
	キッズクラブ・地区センター・市内学童ク	・ガイドの指導のもと、野島に生息する野鳥の生態や種類を学習した。
	ラブに配布した。	
事業名	市民活動団体との協働体験プログラム 野	
日時/回数	通年 土曜日 9時~12時 全26回	場 所 横浜市野島青少年研修センター 野島公園前浜
対 象	小学生以上	参加者 413人(延数)
事業目的	・自然体験活動を通じて、青少年の豊かな	心を育む。
	・青少年育成に関わる地域人材の育成を図	් වි
	132 113770 15315 0.12 70 113 113 70 0.12	
 実施内容	青少年から大人までを対象に、研修セ	①カヌー教室の実施支援
実施内容		①カヌー教室の実施支援 ・広報協力
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修セ	
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうため	·広報協力
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験	· 広報協力 · 救急対応
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。	・広報協力・救急対応・問い合わせ対応・スタッフとの打ち合わせ
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験	・広報協力・救急対応・問い合わせ対応・スタッフとの打ち合わせ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土)
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。 ※金沢スポーツクラブとの協働事業	 ・広報協力 ・救急対応 ・問い合わせ対応 ・スタッフとの打ち合わせ ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土) ②施設及び物品の貸出、管理
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。 ※金沢スポーツクラブとの協働事業 【主催】	 ・広報協力 ・救急対応 ・問い合わせ対応 ・スタッフとの打ち合わせ ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土) ②施設及び物品の貸出、管理 ・カヌー艇、パドルの貸出
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。 ※金沢スポーツクラブとの協働事業 【主催】 金沢スポーツクラブ	 ・広報協力 ・救急対応 ・問い合わせ対応 ・スタッフとの打ち合わせ ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土) ②施設及び物品の貸出、管理 ・カヌー艇、パドルの貸出 ・ライフジャケットの貸出
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。 ※金沢スポーツクラブとの協働事業 【主催】 金沢スポーツクラブ 【協力】	 ・広報協力 ・救急対応 ・問い合わせ対応 ・スタッフとの打ち合わせ ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土) ②施設及び物品の貸出、管理 ・カヌー艇、パドルの貸出 ・ライフジャケットの貸出 ・浴室、更衣室の貸出
実施内容	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうために、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を開催した。 ※金沢スポーツクラブとの協働事業 【主催】 金沢スポーツクラブ	 ・広報協力 ・救急対応 ・問い合わせ対応 ・スタッフとの打ち合わせ ・指導者講習会のプレ実施 2/22(土) ②施設及び物品の貸出、管理 ・カヌー艇、パドルの貸出 ・ライフジャケットの貸出

事 業 名	新規体験プログラムの開発					
日時/回数	通年		場所	横浜市野島青少年研修センター		
対象	│ ^{四十} │ 青少年~市民		*201 DI	13プログラムを開発・検証		
事業目的		' + 88 ₹VI	を開発し、利用者の体験プログラムの充実を図る。			
│ │ ● 耒日的				験ノログブムの允夫を凶る。		
	・既存プログラムを検証し、プログラムの効り			N== 7L **		
実施内容	青少年の体験活動の充実を図るた	①既存プログラムの検証・改善				
	め、そして、野島地域ならではの体験プロ	・「フォトラリー」の改定、「野島カリー」打合せ資料作成				
	グラムを提供するために、地元自治会や			へれ態勢の構築		
	教育関係機関と協働してプログラム開発	②実施した体験事業のプログラム化				
	を行った。	・「金沢水の日」で科学工作「浮沈子」のプログラム化				
		・みなと糸	総合高校が	「開発した「手作りプラネタリウム」のプログラム化		
	※事業課担当事業とも連携した。	③新規プロ	グラムの開	引発·提供		
		・海辺の活動(生き物観察・カニ釣りなど):11回 延べ945人				
	【協力】	※観察用具の貸出や職員による指導、講師の紹介のコーディネートなど				
	こどもエコクラブ野島自然観察探見隊、	・プラネタ	リム星空観	現察:1回 109人		
	海をつくる会、ふるさと侍従川に親しむ会、	・フォトラリ	J—2013:	11回 延べ801人		
	NPO体験学習研究会、小学校理科研究会	・化石レ	プリカ作り:!	5回 延べ167人		
		・ストラップ	プ作り:1回] 27人		
		·手作りフ	プラネタリウ	ム:1回 31人		
			:1回 3人			
事 業 名	<u>-</u> - 施設ボランティア養成 平成25年度 施設え					
日時/回数	通年	1,72 / 17	堤 所	横浜市野島青少年研修センター		
対象	四十 18歳~30歳程度(高校生以下は除く)		参加者	施設ボランティア0人、事業ボランティア75人(延数)		
	・活動を通して青少年育成に対する興味・	坦心ナ 古は2		応設ホブブナイナリ人、事業ホブブナイナバ5人(連致)		
事業目的)			
	・利用者との関わりを通して、協調性や社会		+ 157 7			
	・利用団体の活動をサポートし、団体活動の					
	・研修センター主催事業のリーダーとして参	-				
実施内容	利用者の円滑な研修活動を図ること					
	と、青少年の体験活動の充実を図るため			ティア募集チラシ配布(78ヶ所)		
	に青年を中心とした施設ボランティアの		動者:0人			
	育成に取り組んだ。	※事業ボランティアを対象に、施設ボランティアに関する説明不足やアプローチ				
	①施設ボランティア活動			f(活動者)を迎えることができなかった。次年度は施設ボラ		
	②事業ボランティア活動			内容を明確にして実施していきたい。		
	・研修センター主催事業のサポート			動(延べ75人)		
		-		プ全:4回 延べ36人		
	【広報】			ャンプ:36人		
	近隣の大学やユース管理施設等でボラ			スキャンプ:1人		
	ンティア募集の広報を行った。	·野島キ	ラキラキャ	ンプ:2人		
事 業 名	研修センターの施設点検を活用した就労体	験 自立支担	爰事業			
日時/回数	11/11(月)10時~14時		場所	横浜市野島青少年研修センター		
対象	困難を抱える青少年および若者		参加者	12人		
事業目的	・施設点検作業の活動や施設スタッフとの	交流を通じて.				
実施内容	施設点検日に行う食器洗いや外周清			である。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
70,001,11	掃など簡易作業を個別支援学級の生徒	【内容】				
	たちの就労体験の機会として提供した。		キャンバル・	台の清掃、花壇の手入れ 他		
	【協力支援】			一緒に点検日作業を行った。		
	【3000000000000000000000000000000000000	790/7C \ /F]][· / / / / C	44WVHII VCII >100		
 事業名	研修センターの施設点検を活用した就労体	- 除 - 振	州た洋田!	た定泊体験, 杰洛汗動の主控		
		、				
日時/回数	通年 まかたま物間および日生			横浜市野島青少年研修センター		
対象	青少年支援機関および団体	4×. 4. + ÷. :	支援数	4 <u>0</u>		
事業目的	共同生活の場を提供し、コミュニケーション			紅云性を再む。		
実施内容	青少年の支援機関・団体が企画実施	【支援内容】		VI 1 5 A . O. (O(A)		
	する宿泊体験・交流プログラムを支援し	実行委員会への参加、優先・占有貸出、プログラムサポート				
	た。					
		・オルタボイ	スキャンフ	f:11/9(土)~10(日) 54人		
	【連携】			:加、優先貸出、プログラムサポート		
	横浜市青少年相談センター			センターデイキャンプ:1/30(木) 24人		
	多文化共生教育ネットワークかながわ(Me-net)					
				センター宿泊体験:1/30(木)~31(金) 5人		
		占有貸出	d、プログラ	· ムサポート		
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					

事 業 名	研修4、万一の歩む占栓を活用した⇒半は	一段 中獣ナゼ	ラシュ	お田月少午切じてファー			
サ 来 名 日時/回数	研修センターの施設点検を活用した就労体 2 / 1(+)14時。2(ロ)12時20分	△駅 凶難を抗		・年の生活体験文援 横浜市野島青少年研修センター			
	2/1(土)14時~2(日)13時30分	车					
対象	市内の寄り添い型支援事業に参加する児童		参加者	1			
事業目的	・ルールを守る、場に応じた行動をする、とし						
	・仲間と協力して取り組むことの大切さに気						
	・普段の生活と異なる環境にふれる機会の	少ない子ども	たちに、社	会体験の機会を提供する。			
	・生活体験モデルプログラムを試行する。	F					
実施内容	集団での調理や宿泊体験を通じた生	【事前】 ・他の寄り添い型支援事業と連携実施する上での調査					
	活訓練、社会体験プログラムを実施し						
	た。	・事業課との打合せ(プログラム企画案立案、利用の調整・役割分担					
		【当日】					
	※事業課担当事業とも連携した。	・プログラムの運営					
		・活動プログラム					
		食材買出	は(生活記	川練)、街歩き(集団行動)			
		調理実習	(共同作	業・仲間づくり)			
		ナイトウォ	ク(集団	3行動・仲間づくり)			
		入浴(生	活訓練)				
		就寝(生	活習慣訓練	練)			
		弁当作り	(共同作業	€・仲間づくり)			
		横浜へリ	ポート見学	や(社会体験・職業観の醸成)			
		【事後】					
		· 参加した書	が添い型:	支援事業スタッフへのアンケート			
事業名	ハートフルスペース(適応指導教室)連携事						
日時/回数	11/28(木)10時~29(金)11時	** ハーン		▼ 横浜市野島青少年研修センター			
対象	ハートフルスペースに通室している児童生徒	±	参加者				
事業目的	・ハートフルスペースに通室している児童生						
	・多くの人と接することによって、自己を見つ		関し、児里:	生徒間のコミュニケーションを図る。			
	・活動を通じて、集団行動やきまりを習得す						
実施内容	横浜市内4か所のハートフルスペース		_				
				刷での参加も可能とし、児童生徒の参加を促進する。			
	日の体験プログラムを実施した。	【ボランティア募集】 ・登録ボランティアを中心に公募					
	【参加費】						
	日帰り:200円 宿泊:児童800円・大人1,000円	【プログラム					
	【共催】	・餅つき、各種レクリエーション、食事作り、キャンドルファイヤー、クラフト					
	横浜市教育委員会						
事 業 名	第18回 野島クリスマスキャンプ2013						
日時/回数	12/7(土)13時30分~8(日)11時		場所	横浜市野島青少年研修センター			
対 象	市立小中学校個別支援学級の小学校54	年生以上の	参加者	22組(親子)			
	児童生徒と保護者						
事業目的	・生活体験・集団活動の機会を提供し、児童	童・生徒の成-	長を図る。				
	・参加するすべての人の交流を図り、障がし			里解を深める。			
	・ボランティア活動の機会を提供し、青少年						
実施内容	横浜市立小中学校個別支援学級の			- 90 研修】(全2回) 於:青少年育成センター			
7,25, 11	児童・生徒(小5年生以上)の宿泊体験			9時~20時、16(土) 13時~14時			
	キャンプを実行委員会を組織し実施し	内容:障が					
	た。	講師:家田					
				野島青少年研修センター			
	ボランティア:36人	日時:11/					
	11.72 / 17 100/			が、「Taky 参加者·保護者の顔合わせ·交流、事前の情報交換等			
	【共催】			島青少年研修センター			
	【六催】 野島クリスマスキャンプ実行委員会			島育タギが16 ピンター 時30分~9(日)11時			
	野島プラベマベイヤンフ美行委員会 【後援】			-ート(ハワイアンバンドによる演奏)、親子活動(プラ板ストラップ作り)他			
				一下(パグイア)ハンドによる演奏)、祝子石動(ファクダイトンツノブドッ)他 が参加者にマンツーマンで対応した。			
	横浜市教育委員会						
	横浜市立小中学校長会	【研修センタ					
	横浜市PTA連絡協議会			で付、参加受付、案内発送ほか)			
	(財)横浜市安全教育振興会			、報、募集、事前研修会の実施、事務連絡ほか)			
	【協賛】		(与具デー	-タ管理、ボランティア事後連絡 ほか)			
	コカ・コーラセントラルジャパン(株)	【会議】					
		事務局会	6回、実行	·委員会 5回			

	1 - 4 - 2 - 2		- •	打両月少午明修ピング		
事業名	カヌー体験キャンプ2013		18 =r	世代士取りまれたがあたいり		
日時/回数	5月、6月、9月、10月 年4回		場所			
対象	小学校3~6年生	心 ナ 本 カ ・ 白	参加者			
事業目的	・自然体験活動を通して、青少年の豊かな ・宿泊体験(共同生活体験)を通して仲間や					
実施内容				:利用者に提供するプログラム例の検証機会とする。]とも10時30分集合~翌日11時30分解散		
美 施內谷				26(日) 30人 ボランティア8人		
	カヌー体験を中心とする自然体験キャン			23(日) 30人 ボランティア6人		
	プを実施した。 					
	 ボランティア:36人	第3回:9/15(土)~16(日) 29人 ボランティア8人 第4回:10/5(土)~6(日) 26人 ボランティア7人				
		毎年四・10/	5(⊥), ~ 0	((日) 20人		
	【協働】	【内容】				
	金沢スポーツクラブ指導員(延べ30人)		全 バーベ:	キュー、星空観察、化石レプリカ製作 他		
	【広報】	フェンペード ドナバック	****	イユ 、生工帆泉、10:11227773&17 10		
	・広報よこはま(4月号、9月号)に掲載	【募集方法】	1			
	・カラーチラシ配布(公共施設約100か所)			1・4回は抽選に変更		
	・ホームページ掲載	TE 2E16.	儿泪、〇四			
	・事業課の事業参加者にチラシ配布	【事後対応】	1			
	ず水脈のず水り加口に プラロボ			アルバムにして後日送付		
事業名	野島クラフトワークショップ のじたま、のじぼ			107		
日時/回数	通年			横浜市野島青少年研修センター		
対 象	ことでは、		利用者			
事業目的	・協働作業の楽しさや完成する達成感を体	 感する。	13713 🖬	P 11		
テルロロ	・雨天時の室内活動の充実を図る。	/LX / U0				
実施内容	小学校の体験学習利用校を中心に	①「のじたま	ニスチロー	-ル人形作り:114人		
7(%51.71	「雨天プログラム」として3種類のクラフトを	-	-	ールを使った野島オリジナルキャラクター人形づくり		
	提供した。					
	30.00					
	①「のじたま」スチロール人形作り	②「のじぼっ	くり」自然	素材クラフト: 235人		
		松ぼっくり	に紙で作	った羽や口ばしなどのパーツを組み合わせて作る人形		
	②「のじぼっくり」自然素材クラフト	※作業時	時間:1時間	間程度		
	③「バードコール」木工クラフト	③「バードコ	ール」木エ	エクラフト:240人		
		円柱の木	材に穴を	あけネジを組み合わせて作るバードコール		
	【指導】	※作業時	時間:45分	}程度		
	研修センター職員					
事 業 名	食育プログラム 野島カリー					
日時/回数	通年		場所	横浜市野島青少年研修センター		
対 象	利用団体(主に体験学習の児童生徒)		食 数	3,112食		
事業目的	・食、調理への好奇心を高める					
	・達成感を味わい自己の成長およびグルー	プの成長を高	らめる。			
	・共同作業を通して社会性・協調性を身にで	つける				
	・独自のプログラム提供を行うことで利用促	進に繋げる				
実施内容	調理実習の推進を図るとともに、青少					
	年の食への関心を高めるため、ルーから	①食物アレ		有無確認		
	手作りするカレーライスづくりのプログラム	②作業手順				
	を提供した。			数、調理台の数等を考慮して役割や人数を決める)		
	7 (14 MA)	③食材手配	2			
	【指導】	.	_			
	研修センター職員	【実習当日】				
		①食材の準				
		②食堂で作業説明(職員による指導)				
		③役割毎に	作業開始	台→アレルギー対応、他の調理調整も併せて行う		
			作業開始 トの実施(d	台→アレルギー対応、他の調理調整も併せて行う 任意)		

公益財団法人よこはまユースが実施した

事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 25 年度事業報告書を行政 庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

2. 個別の事業内容について

(1) 公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比	;率
公1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつ ながりの中で成長することができる社会を醸成する とともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、そ の成長を促す事業	97.4	%

〔1〕事業の概要について

A 青少年活動を支援する事業

A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出

この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の 健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居 場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等を企画、実 施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供 するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集 団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として利用できるようできる限り施 設利用に関する規則等の制限を設けず広く青少年に提供するために、職員が情報提供や 運営補助等の支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供しており、同一です。事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(交流センター)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象に、活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくために、利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、実際の活動中には安全の確保並びに運営補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体であるすべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。なお、法人が実施するさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している施設(横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター)を指定管理者として管理運営し、貸し出しています。

なお、これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに 概要を掲載し広く一般に周知しています。

事業の財源は、施設利用料及び横浜市からの指定管理料で構成されています。

《事業の内容(施設の開館日数・利用状況)》

- ■育成センター
 - □開館日数:338 日
 - □研修室・スタジオ:利用団体 4,709件(61,121人)
 - □スタジオ利用件数:1,456件
 - □印刷室利用件数:584件
 - □物品貸出利用件数:39件

■交流センター
□開館日数:347日 □利用状況:青少年86,741人(1日平均250人)、青少年以外63,662人(1日平均183人)、総計150,403人(1日平均433人)
■研修センター □ 開始 口粉 + 250 口
□開館日数:359 日 □利用可能日:333 日
□利用日数:238 日 □宿泊:団体 395 件(18, 852 人)
□ 1 日
□合計:団体 582 件 (24,656 人)
□営業活動強化事業:インターネットや紙媒体による情報提供
A - Ⅱ 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】 この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより 青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青 少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に 係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネート
の支援を行っています。 事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「相談、助言」事業に分
類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介(活動実施)、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体
や施設に、要件を満たす活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。
また、情報発信・受付・相談・助言すべての活動を職員により実施し、活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供することで、青少年
の実施する活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。
これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し、広く一般に周知しています。
事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。
います。
《事業内容》
■育成センター □ホームページ等を使った情報提供

- 掲示板などを通じて情報を発信。「講座・研修」「助成金」等の情報を提供。
- □青少年育成に関する相談:相談件数66件(通年)
 - 青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設。

月1回のコーディネーター会議でケース検討、情報を共有。研修会を1回実施。

■交流センター

- □ロビーワークによる日常的な相談・助言:相談件数84件(通年) 青少年のニードや課題を引き出すための職員による施設内での日常的な声がけ。
- □青少年活動相談コーナー:相談者162人
- □「青少年の地域活動拠点連絡会」の運営

市内の青少年地域活動拠点等の施設長及び職員に課題やノウハウなど情報共有の場

を提供し、活動支援を行った。

A - Ⅲ 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより 青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青 少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に 係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するため、横浜市内で実施されている 活動を継続及び充実していくため職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導 者・育成者に相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型で同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア(人材)の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を 対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続 及び充実のための相談・助言を行うほか情報収集や情報共有を図るためのネットワーク の構築やその実施内容を資料にまとめホームページに概要を掲載し、希望者に無料で配 布しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

- □知っておきたい!子ども・若者どこでも講座:43件 地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若 者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。
- □青少年の居場所の活動支援(鶴見・神奈川・磯子区 3 拠点の支援) 法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進。利用者合計 27,752 人
- □地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング): 相談等対応 21 件研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE' S2013」発行 他
- □ユースサポーター事業: 2/22.3/1~2、参加者30人(延数) 地域活動を担う次世代の若手リーダーを育成し独自の認定制度を構築する。

■育成センター

□青少年育成に関する団体とのネットワーク形成

A-IV 青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR 等の活動)の調査 この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成 活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与する ことを目的とした事業です。横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少 年育成活動や学校の体験学習が連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域 拡大や活動機会を充実するため、職員が市内の活動を調査し資料を作成しています。

事業の特色としては、年度ごとに社会体験、文化活動、福祉活動、環境保全、国際交流等多様な活動領域の中から調査領域を今年度は福祉活動に定め、主に横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動を調査し、その結果をホームページに掲載しています。また、体験活動の領域だけではなく体験活動に参加し難い課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。成果がまとまり次第、モデルプログ

ラムや報告書として無料で配布するとともに、ホームページで周知します。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒に行っています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

□活動資源の調査:登録数 374 件

社会・自然資源を調査・発掘し、ホームページの横浜ユースマップで情報提供。

□体験プログラム企画・検討委員会の設置:委員会3/25.27

B 青少年を支える人材を育成するための事業

B-I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人が ともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青 少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め 青少年育成活動の普及を促進し、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成 を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて同一であり「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修(講師等)は職員が行いますが、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

□子ども・若者エンパワメントセミナー: 2/6 (3 回上映)、参加者 95 人 「若者に向き合う」をテーマにドキュメント映画「月あかりの下で」を上映。

■育成センター

- □青少年人材養成研修「実践から学ぶ青少年の居場所づくり」《全5回》
- ・「青少年に関わる大人の役割とは」他:9/6、参加者20人
- ・「青少年に関わるわたしの役割」他:9/20、参加者14人
- ・「地域人材と場所を活用した"青少年の居場所"ができるまで」: 10/4、参加者 17 人
- ・ふりかえり講義:10/10、参加者11人
- ・特別講義「居場所の実践見学」: 9/27、参加者 13 人
- □ユースコーディネーター養成研修《全4回》
- ・「子どもたちを取り巻く課題とリスク」: 12/5、参加者 42 人
- ・「児童相談所の仕組みと地域の役割」: 12/19、参加者 49 人
- ・「学校でいま」: 1/9、参加者 37 人
- ・「子どもの貧困と地域の役割」: 1/23、参加者 42 人
- □スキルアップ講座《全5事業》

- ・「デジカメ入門講座」: 6/7、参加者 34 人
- ・「発達障がいの理解」: 7/3、参加者 46 人
- ・「日赤救急法講習会」: 8/25.9/15.16.22.23、参加者 120 人(延べ)
- ・「子ども・若者の力を引き出すコーチング講座」: 10/9.16、参加者 23 人
- ・「子ども・若者の成長を支援する」: 2/22、参加者 16 人
- □青少年を支える層を拡大するための講座・研修《全2事業》
- ・シンポジウム「子どもをめぐる格差と学習支援」: 1/11、参加者 60 人
- ・「馬車道カレッジ」: 3/25.30、参加者5人

■交流センター

- □夏期青年ボランティア: 7/22~8/24、参加者 28 人 ボランティア活動を通じて青少年の協調性や社会性、自主性を育む。
- □「青少年の居場所づくり」全国フォーラム 2014:2/15~16、参加者 130 人(延べ) 青少年の居場所づくりをテーマとした意見交換の機会を提供し人材を育成。
- □社会教育実習生受け入れ:3人

社会教育主事課程を履修している学生に実習の場を提供。

□青少年委員会の運営:毎月1回定例会、青少年委員21人 委員会活動の中で様々な経験を通して青少年の社会参画を図る。

C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、 青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年が体験を通じ自ら感 じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科 学体験、宿泊体験等の集団活動体験機会を提供するための体験事業を企画・実施していま す。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「体験活動」事業に分類されます。事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を中心に活用し、参加費は無料、教材費や施設利用料(宿泊費等)は実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

- □困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営 毎週月~金曜日の10時~19時、登録数:18人
- □自然・社会体験プログラムの体験機会の提供
- ・団体や自然・社会資源を活用した体験プログラムの提供:通年、参加者2,160人(延べ)
- ・高校生水源林ボランティア:8/6、参加者33人
- ・「はまっ子どうしキャンプ 2013」: 7/27~28(1泊2日)、参加者 30人
- ・「道志村児童受入れ事業」: 10/3~4、参加者 25 人
- ・市立高校と連携した体験活動の実施:全5回、146人(延べ)
- □困難を抱える青少年のための集団体験機会の実施
- ・わくわく生活体験キャンプ:2/1~2(1泊2日)、参加者14人

■交流センター

□青少年委員企画事業《全6事業》

- ・ワイワイおやつタイム: 4/14.5/12.6/9.7/14.9/8.10/3.11/10.12/8.2/9.3/9、参加者 94 人(延数)
- ・ふりふら夏まつり:7/21、参加者 153 人
- ・きもだめし大会:8/24、参加者191人
- ・クリスマス☆パーティー:12/15、参加者35人
- ・もちつき大会:1/12、220食
- ・まったりぐつぐつ鍋パーティーin 野毛山: 3/2、参加者 15 人
- □活動成果交流事業《全2事業》
- · @ 楽祭 2013 夏:7/7、出演 8 団体
- ・青少年ライブ'13 夏・冬:8/18.12/22、出演14組
- □地域交流事業《全8事業》
- ・こどもの日まつり:5/5、参加者287人
- ・人形劇ぴっころ公演:6/23、参加者86人
- ・夏休み事業(料理教室・木工教室): 7/30.8/2、参加者22人(延べ)
- ・ふりふらジョブカフェ(図書館司書編):8/3、参加者9人
- •3 階スペース活用事業「みんな DE アート」: 通年、参加者 116 人
- ・春の卓球大会:3/24、参加者13人
- ・はたらく若者の仲間づくり事業「仕事帰りに『てびねり陶芸』」: 3/9.3/25、参加者 16 人(延べ)
- □体験交流事業
- ・ふらっと b kids/ふらっと b kids コンサート:全10回、参加数89組
- □学習マイプラン(学習支援):毎週火曜日 16 時~18 時 (年間 55 回)、参加者 207 人(延べ)

■研修センター

- □市民活動団体との協動体験プログラム《全3事業》
- ・オールクリーン野島ビーチ: 9/21.11/26.12/14.3/15、参加者197人(延数)
- ・のじまキラキラキャンプ 2014:2/8~9 (1泊2日)、参加者 31人
- ・野島カヌー体験教室:全26回、参加者413人(延数)
- □新規体験プログラムの開発:通年、13 プログラムを開発・検証
- □施設ボランティアの養成:通年、参加者0人
- □研修センターの施設点検を活用した就労体験《全3事業》
- · 自立支援事業: 11/11、参加者 12 人
- ・施設特性を活用した宿泊体験・交流活動の支援:通年、支援数4回
- ・困難を抱えた青少年の生活体験支援:2/1~2、参加者14人
- □ハートフルスペース連携事業:11/28~29、参加者129人
- □野島クリスマスキャンプ:12/7~8 (1泊2日)、参加者22組、ボランティア36人
- □カヌー体験キャンプ:5.6.9.10月(年4回)、参加者115人(延数)
- □野島クラフトワークショップ:通年、利用団体6
- □食育プログラム (野島カリー): 通年、3,112 食
- C Ⅱ 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】 この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を日常的に行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき設置された、有識者等により構成される「子どもたちの放課後懇話会」の指針に沿って、学校では得られない体験機会の設定、プログラム内容の継続性、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、子どもたちの「食べる力」の育み、土曜日に親子で過ごす機会の提供、大勢のボランティアの協力、市民や企業の協力を大切にする、と

いう8つの視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は、主に学校施設を活用していますが、地域の子どもは地域で育てるという意識を啓発し、大人も子どもも一緒に育つ環境を醸成することを目的として近隣の公園や図書館や地区センター等の公営施設を使用し、地域の人たちとともに日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域にも無料で配布しているほか、対象となる児童すべてに無料配布し広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、午後5時以降の夜間利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた額を別途いただいています。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

≪事業の内容≫

■事業課

□18 校の放課後キッズクラブ運営:各キッズ月平均約1,156 人、総計249,691 人が利用。 在籍児童の51.7%(18 校の平均値)が登録。

実施プログラム数:毎月各キッズ平均 20.1 回、年間総計 4,349 回(参加者延べ 92,278 人) ≪各キッズクラブ概要≫

- ■すすき野小学校キッズクラブ (青葉区)
 - □在籍人数:307人
 - □登録人数:127人
 - □延べ登録児童数:7,271人
 - □プログラム実施数:263 回
 - □プログラム参加人数:4,024人
 - □主なプログラム:ニュースポーツ/バドミントン/トスベース/キッズ菜園/キッズシアター/ハンドベル/工作/囲碁将棋/ハンドベル/手芸/料理/はたおりクラブ/科学あそび/オンリーワン など
- ■笹野台小学校キッズクラブ(旭区)
 - □在籍人数:614人
 - □登録人数:311人
 - □延べ登録児童数:15,664人
 - □プログラム実施数:361回
 - □プログラム参加人数:7,258人
 - □主なプログラム:スポーツチャンバラ/ドッジボール/スイーツ教室/あみもの教室/アイロンビーズ/ミサンガ/ハンドベル教室/フラワーアレンジ/お話し会/料理/科学で遊ぼう など
- ■岡村小学校キッズクラブ (磯子区)
 - □在籍人数:361人
 - □登録人数:202人
 - □延べ登録児童数:10,165人
 - □プログラム実施数:209回
 - □プログラム参加人数:3,359人
 - □主なプログラム:ドッジボール同好会/グランドゴルフ/地域探検/むかし遊び/科学教室/中国語/ミニ水族館/藍染め/手芸/工作/誕生日会/料理/映画上映会/ネパール交流 など
- ■浦島小学校キッズクラブ(神奈川区)
- □在籍人数:422人
- □登録人数:207人
- □延べ登録児童数:13,261人

□プログラム実施数:282回
□プログラム参加人数:6,121人
□主なプログラム:ドッジボール/虫取り/3B体操/スポーツ教室/白樺の森へ行こ
う/カプラ/料理/映画上映会/手芸/工作/お話し会/プラレール/万華鏡作り
など
■能見台小学校キッズクラブ(金沢区)
□在籍人数: 541 人
□登録人数:311 人
□ 並ぶ八妖 : 311 八 □延べ登録児童数 : 15, 481 人
□プログラム実施数: 246 回
□プログラム参加人数:4,564人
□主なプログラム:サッカー教室/ドッジボール/テニス/レゴ/水あそび/親子キッ
ズキッチン/昔遊び/リリアンマフラー/親子アロマ教室中央公園で遊ぼう/DVD鑑
賞会/科学館へ行こうなど
■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ(金沢区)
□在籍人数:476人
□登録人数: 252 人
□延べ登録児童数:10,869 人
□プログラム実施数: 227 回
□プログラム参加人数:3,122人
□主なプログラム:ドッジボール/瀬ケ崎探検隊/紙芝居/囲碁クラブ/写真教室/お
いしい実験室/シカケ屋/ビーズのアトリエ/木工作/写真教室/水合戦/カッパ祭
など
■港南台第三小学校キッズクラブ(港南区)
□在籍人数: 299 人
□登録人数: 177 人
□延べ登録児童数: 10,041 人
□プログラム実施数: 259 回
□プログラム参加人数:5,038 人
□ ニューティス ラ
ロエなプログラム・傾供で、リウル・教室/ いらこがリ/ もらづさ 八云/ ラッカグ 帆九 会/ 工作/ 万華鏡/親子ランチおりがみ教室/海洋教室/ アイロンビーズ/
ミニシアター/ゆびあみ など
■日吉南小学校キッズクラブ(港北区)
□在籍人数: 793 人
□登録人数: 279 人
□延べ登録児童数:8,412人
□プログラム実施数:174 回
□プログラム参加人数:2, 767 人
□主なプログラム:キッズバスケ/長縄跳び/アイロンビーズ/ドッジボール大会/オ
セロ大会/読み聞かせ/ビデオデー/キッズ工房/デコアート/うつし絵/読み聞か
せ/お手玉で遊ぼう など
■桜井小学校キッズクラブ(栄区)
□在籍人数:344人
□登録人数:229人
□延べ登録児童数: 12,823 人
□プログラム実施数: 206 回
□プログラム参加人数: 3, 787 人
□主なプログラム:ドッジボールクラブ/一輪車/サッカー教室/バドミントン/

トーンチャイム/囲い碁・将棋教室/キッズキッチン/科学実験教室/プラバン/
親子でクッキングなど
■南瀬谷小学校キッズクラブ(瀬谷区)
□在籍人数:848人
□登録人数:252人
□延べ登録児童数:12,921 人
□プログラム実施数:183回
□プログラム参加人数:5,457人
□主なプログラム:サッカーをしよう/バドミントンクラブ/消防見学/お花見ランラ
/おはなしボンボン/まんがの日/わくわくクラフト/カルタ大会/ドミノ/カレン
ダーづくり/ネパール交流会 など
■折本小学校キッズクラブ (都筑区)
□在籍人数:751人
□登録人数:341人
□延べ登録児童数:14,492人
□プログラム実施数:181回
□プログラム参加人数:3,280人
□主なプログラム:ドッジボール/一輪車DAY/キックベース/将棋の日/リコーダー液
奏会/落ち葉のしおりづくり/切り紙/おはしの達人/あみもの教室/映画の日
など
■寺尾小学校キッズクラブ (鶴見区)
□在籍人数:691人
□登録人数:358人
□延べ登録児童数:18,077人
□プログラム実施数: 244 回
□プログラム参加人数:6,600人
□主なプログラム:トスベース/ドッジボール/いちご狩り/フラダンス教室/茶道/
切り絵/おはなし会/スナックDAY/エネルギーのおもしろ実験/料理/ミサンガ/
キッズ屋台など
■秋葉小学校キッズクラブ (戸塚区)
□在籍人数:635 人
□登録人数:419 人
□延べ登録児童数:20,717人
□プログラム実施数:312回
□プログラム参加人数:7,469人
□主なプログラム:スポーツチャンバラ/バドミントン/ドッジボール/映画をみにV
こう/囲碁教室/ショップデー/フェルト手芸/ウクレレ/料理/ミサンガ/クロス
ステッチ/プラバン など
■名瀬小学校キッズクラブ (戸塚区)
□在籍人数:582人
□登録人数:336人
□延べ登録児童数:16,497 人
□プログラム実施数: 260 回
□プログラム参加人数:7,408 人
□主なプログラム:大縄跳び/ドッジボール/サッカー/バドミントン/ウォーター
ゲーム/カプラ/キッズ映画館/キッズ工房/囲碁教室/DVD 鑑賞/スライム/オセ
ロ大会/本を読もうなど
■本町小学校キッズクラブ (中区)

□在籍人数:664人
□登録人数:329人
□延べ登録児童数:15,647人
□プログラム実施数:157回
□プログラム参加人数:3,230人
□主なプログラム:スポフェス/畑作り/ドッジボール/アイロンビーズ/かんたん
作/お母さんのお話会/キッズシネマランチづくり/おやつづくり/粘土クラフト/
環境エネルギー見学 など
■宮谷小学校キッズクラブ(西区)
□在籍人数:953人
□登録人数:418人
□延べ登録児童数:17,968人
□プログラム実施数:215回
□プログラム参加人数:5,096人
□主なプログラム:ダンボール卓球/キッズシアター/おにごっこ/スカッドボーイ/
水墨画教室/生け花教室/タングラム/塗り絵/オセロ大会/なぞなぞ大会/指あみ
など
■長津田小学校キッズクラブ(緑区)
□在籍人数:654人
□登録人数:332人
□延べ登録児童数:16,109人
□プログラム実施数:312回
□プログラム参加人数:7,843 人
□主なプログラム:野球教室/ドッジボール/どろんこあそび/こままわし/生け花
教室/天体観測/絵本ライブ/囲碁教室/おやじの会イベント/工作/キッズシア
ター/プラバンなど
■太田小学校キッズクラブ(南区)
□在籍人数:286人
□登録人数:193人
□延べ登録児童数:13,276人
□プログラム実施数:258回
□プログラム参加人数:5,855 人
□主なプログラム:ボーリング大会/風船バレー/バドミントン/ドッジボール/手
芸・工作教室/DVDをみよう/アイロンビーズ/おやつ工房/リリアン/プラバン/安
全マップづくり など

[2] 事業の公益性について

定款 (法人の事業又は目的) 上の根拠 第4条第1項第1号、第2号、第3号					
事業の種類	(本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を				
(別表の号)	記載してください)				
7	この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。				

(本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。)

チェックポイント事業区分

(11)施設の貸与

区分ごとのチェックポイント

- 《1》当該施設の貸与が不特定かつ多数の 者の利益の増進に寄与することを主た る目的として位置付け、適当な方法で明 らかにしているか。
- 《2》公益目的での貸与は、公益目的以外 の貸与より優先して先行予約を受け付 けるなどの優遇をしているか。

チェックポイントに該当する旨の説明

- A I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出
- 《1》この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより青少年を職り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付け、ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。
- 《2》青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための施設貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。

(5)相談、助言

区分ごとのチェックポイント

- 《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の 者の利益の増進に寄与することを主た る目的として位置付け、適当な方法で明 らかにしているか。
- 《2》当該相談、助言を利用できる機会が 一般に開かれているか。
- 《3》当該相談、助言には専門家が適切に 関与しているか。(例:助言者の資格要件 を定めて公開している)

A - II 青少年活動を支援するための相談・ 助言・コーディネート【相談事業】

- 《1》青少年と青少年を取り巻く大人がと もに育つ環境を醸成することにより青少 年の健全な育成を目的とした事業で、そ の内容はパンフレット、ホームページで 広く一般に公開しています。
- 《2》この事業はすべての人を対象として おり、相談、助言の受付時間、申込方法等 はパンフレット及びホームページにより 公開され、利用できる機会は一般に開か れています。
- 《3》相談・助言は青少年活動に精通した 職員が行っており、常に新聞や関係機関

情報誌等により情報収集を行っています。また、職員はユースアドバイザー研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。

(5)相談、助言

区分ごとのチェックポイント

- 《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の 者の利益の増進に寄与することを主た る目的として位置付け、適当な方法で明 らかにしているか。
- 《2》当該相談、助言を利用できる機会が 一般に開かれているか。
- 《3》当該相談、助言には専門家が適切に 関与しているか。(例:助言者の資格要件 を定めて公開している)

- A Ⅲ 青少年活動を支援するための活動 参加型の相談・コーディネート
- 《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動を継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は希望者に無料配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。
- 《2》この事業は横浜市で実施されている 活動に参加した人すべてを対象としてお り、パンフレット、ホームページ、窓口で 案内しています。
- 《3》相談・助言は青少年活動に精通した 職員が行っており、常に新聞や関係機関 情報誌等により情報収 集を行っていま す。また、職員はユースアドバイザー研 修、県リードアップセミナー、個人情報 保護に関する研修、児童の人権に関する 研修を受講し、この事業に必要な専門性 を維持しています。

(6)調査、資料収集

区分ごとのチェックポイント

- 《1》当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを 主たる目的として位置付け、適当な方法 で明らかにしているか。
- 《2》当該調査、資料収集の名称や結果を 公表していなかったり、内容についての 外部からの問合せに答えないというよ うなことはないか。
- 《3》当該調査、資料収集に専門家が適切 に関与しているか。
- 《4》当該法人が外部に委託する場合、そ のすべてを他者に行わせること(いわゆ る丸投げ)はないか。
- A-IV 青少年育成に活用できる活動資源 (NPOや企業CSR等の活動)の調査 《1》青少年育成活動を推進するために、 青少年を対象とした体験活動のためのリ ソースとしてプログラムや人材、活動の 場等を調査し、より効果的な活動を企画・ 実施するために有効な情報及び活動実施 内容を提供することを目的とし、報告書 及びホームページにて明らかにしていま
- 《2》当該調査、資料収集の結果を「横浜ユー

スマップ」や「活動レポート」としてホームページに掲載しています。また、提供 し

た情報の問合先をホームページに掲載

問い合わせには職員が対応しています。 《3》当該事業の企画・構成・運営に関する 仕様書は職員が横浜市と協議の上作成

す。

- し、調査業務は職員と調査業務に必要な 専門性のある団体に委託しているため、 専門家が適切に関与しています。
- 《4》報告書作成に関する仕様は当法人が 作成し、調査結果をもとに分析・とりま とめまで実施しているため、主たる事業 は当法人が行っております。
- (3)講座、セミナー、育成区分ごとのチェックポイント
- 《1》当該講座、セミナー、育成(以下「講 座等」)が不特定かつ多数の者の利益の 増進に寄与することを主たる目的とし て位置付け、適当な方法で明らかにして いるか。
- 《2》当該講座等を受講する機会が、一般 に開かれているか。
- 《3》当該講座等及び専門的知識・技能等 の確認行為(受講者が一定のレベルに達 したかについて必要に応じて行う行為) に当たって、専門家が適切に関与してい
- 《4》講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。

- B I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修
- 《1》この事業は、青少年及び青少年育成 に関する知識の理解を深めることにより 青少年育成活動の普及を促進することを 目的に、青少年を取り巻くすべての人を 対象に実施しており、ホームページにて 明らかにしています。
- 《2》講座ごとに、ホームページ、チラシ、 横浜市広報に募集要項を掲載し、すべて の人が参加可能であり機会が開かれてい ます。
- 《3》他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。
- 《4》講師の報酬は1,000円~70,000円の 範囲と定められており、過大な報酬は支 払っていません。

- (4) 体験活動等
- 区分ごとのチェックポイント
- 《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の 者の利益の増進に寄与することを主た る目的として位置付け、適当な方法で明 らかにしているか。
- 《2》公益目的として設定されたテーマを 実現するためのプログラムになってい るか。

(例:テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)

《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。

- C I すべての青少年を育むための多様 な体験事業
- 《1》この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、事業チラシ、広報等で明らかにしています。
- 《2》青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる 集団での活動体験を横浜市内の自然環境 や青少年施設、野外活動施設等を活用し 実施しています。
- 《3》体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。
- C Ⅱ 小学生を育むための放課後の安全 な遊び場と集団活動の場を提供する事業 【放課後児童育成】

(4)体験活動等

区分ごとのチェックポイント

- 《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の 者の利益の増進に寄与することを主た る目的として位置付け、適当な方法で明 らかにしているか。
- 《2》公益目的として設定されたテーマを 実現するためのプログラムになってい るか。

(例:テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)

《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。

- 《1》この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することをにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するがいての児童を対象に実施しており、活動内容や案内資料を毎月作成しすべての見重を対象に無料配布し、明らかに同見でいます。学校区に住むすべての人に周に活動してもらうことで、地域の人が子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。
- 《2》横浜市の放課後児童育成施策に基づき有識者等により構成する「子どもたちの放課後談話会」からの指針に沿った体験活動を学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で実施しています。
- 《3》体験活動の企画・実施は職員が行っています。

(2) 収益事業について

事業番号	事業の内容	定款(法人の事業又は目的)上の根 拠						
収 1	すべての青少年が周囲の人々から 見守られ、人のつながりの中で成長す ることができる社会を醸成するとと もに、青少年にさまざまな体験機会を 提供し、その成長を促すという公益目 的事業を達成するために実施する収 益事業	第4条第1項第4号						
古光の振用								

事業の概要

1 爆笑!濱っ子寄席(寄附金募集事業)

この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すための事業について、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。具体的には関内ホールにて年1回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動(公益目的事業)の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに有料の協賛広告を掲載しています。

事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。また、出演者の交渉から演目までを中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。

なお、出演していただける落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。

- 华	E 2	回爆空	•	淀。	7.安庇
	5.3	旧川炭子		消金へ	一会席

□日時:11/15

□会場:関内ホール・大ホール

□入場者:717人

□出演者:桂才紫、立川志らく、甘味けんじ、柳家喬太郎、古今亭八朝、テツ and トモ、

三遊亭歌之介

□実行委員会:全4回

本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について 許認可等の名称 根拠法令 許認可等行政機関

本事業の利益の額が0円以下である場合の理由又は今後の改善方策について

「爆笑!濱っ子寄席」はチケット代金の一部を寄附金として公益目的事業に使用しているために利益は0円となっています。

公益財団法人よこはまユース 事業・組織体系図

《施設区分》 《定款事業区分》 《事業の柱》【公益目的事業区分】 《事業名》 知っておきたい!子ども・若者どこでも講座 青少年の居場所の活動支援 A-Ⅲ:青少年活動を支援するための活動参加型の相談·コーディネート 地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング) 【え:相談、助言】 ユースサポーター事業 A:青少年活動を支援する事業 活動資源の調査 A-IV:青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査 体験プログラム企画・検討委員会の設置 SSTプログラム研究・開発・調査 【お:調査、資料収集】 B:青少年を支える人材を育成する事業 |B- I :青少年を支える人材を育成するための講座・研修 - 子ども・若者エンパワメントセミナー 【い:講座、セミナー、育成】 本部(事業課·総務課) 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営 所在地:横浜市中区住吉町 C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 C-I:すべての青少年を育むための多様な体験事業 自然・社会体験プログラムの体験機会の提供 4-42-1 【う:体験活動等】 困難を抱える青少年のための集団体験機会の実施 法人ホームページの改良・管理 D:その他、この法人の目的を達成するために必要な事業 寄附金協力者の拡充と賛助会員制度を含む寄附金制度の再構築 平成26年 新春のつどい 諸室及び物品の貸出 A-I:青少年活動を支援するための青少年施設の貸出 利用促進に向けた取り組み 【あ:施設の貸与】 |A-Ⅱ:青少年活動を支援するための相談·助言·コーディネート【相談事業】 A:青少年活動を支援する事業 - 青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 【え:相談、助言】 横浜市 青少年育成センター A-Ⅲ:青少年活動を支援するための活動参加型の相談·コーディネート - 青少年育成に関する団体とのネットワーク形成 所在地:横浜市中区住吉町 4-42-1 【え:相談、助言】 青少年人材養成研修 ユースコーディネーター養成研修 B:青少年を支える人材を育成する事業 |B-I:青少年を支える人材を育成するための講座・研修 スキルアップ講座 【い:講座、セミナー、育成】 青少年を支える層を拡大するための講座・研修 A-I:青少年活動を支援するための青少年施設の貸出 - 諸室及び物品の貸出 【あ:施設の貸与】 A:青少年活動を支援する事業 ロビーワークによる日常的な相談・助言 青少年活動相談コーナー A-Ⅱ:青少年活動を支援するための相談·助言·コーディネート【相談事業】 【え:相談、助言】 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営 夏期青年ボランティア 横浜市 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム B:青少年を支える人材を育成する事業 |B-I:青少年を支える人材を育成するための講座·研修 青少年交流センタ 社会教育実習生受け入れ 【い:講座、セミナー、育成】 青少年委員会の運営 所在地:横浜市西区老松町 青少年委員企画事業 活動成果交流事業 C-I:すべての青少年を育むための多様な体験事業 C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 地域交流事業 体験交流事業 【う:体験活動等】 学習マイプラン(学習支援) 施設·設備貸出事業 A:青少年活動を支援する事業 A-I:青少年活動を支援するための青少年施設の貸出 営業活動強化事業 【あ:施設の貸与】 横浜市 野島青少年研修センター 市民活動団体との協働体験プログラム 新規体験プログラムの開発 所在地:横浜市金沢区野島 施設ボランティアの養成 研修センターの施設点検を活用した就労体験 24-2 野島公園内 C-I:すべての青少年を育むための多様な体験事業 C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 ハートフルスペース(適応指導教室)連携事業 野島クリスマスキャンプ 【う:体験活動等】 カヌー体験キャンプ 野島クラフトワークショップ 食育プログラム(野島カリー) C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 放課後キッズクラブ(事業課) C-I:小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業 放課後キッズクラブ運営(18箇所) 【う:体験活動等】 所在地:横浜市内18箇所 ①太田小学校:南区三春台42 ②港南台第三小学校:港南区港南台2-14-1 ③笹野台小学校:旭区笹野台4-48-1 ④能見台小学校:金沢区能見台3-32-1 ⑤長津田小学校:緑区長津田町2330 ⑥ 折本小学校:都筑区折本町1321 ⑦秋葉小学校:戸塚区秋葉町392-1 ⑧南瀬谷小学校:瀬谷区南

59

瀬谷1-1-1 ⑨寺尾小学校:鶴見区東寺尾5-19-1 ⑩宮谷小学校:西区宮ヶ谷6-7 ⑪本町小学校:中区花咲町3-86 ⑫岡村小学校:磯子区岡村4-7-1 ⑬日吉南小学校:港北区日吉本町4-2-6 ⑭すすき野小学校:青葉区すすき野3-4-1 ⑮桜井小学校:栄区上郷町242-2 ⑯ 名瀬小学校:戸塚区名瀬町776 ⑪浦島小学校:神奈川区浦島丘16 ⑱瀬ヶ崎小学校:金沢区六浦東3-2-1